

# 『看護系大学に関する実態調査』 2018年度状況調査

## ■自由記載一覧

1. 看護系大学・大学院の卒業生・修了生の就職・進学状況 <調査票項目No. 6>
  - 1) 表6. 卒業生、修了生の就職・進学状況 (Q16)
2. 教員の研究活動および社会貢献について <調査票項目No. 7>
  - 1) 表7-1. 研究費の取得状況 (Q17)
  - 2) 表7-3. A. 一般市民向け公開講座のテーマ (Q18-A)
  - 3) 表7-3. B. 看護職者等の専門職向け講座のテーマ (Q18-B)
  - 4) 表7-3. C. その他の講座のテーマ (Q18-C)
3. FD・SDの状況について <調査票項目No. 8>
  - 1) 表8. A. 全学主催のFDのテーマ (Q19-A)
  - 2) 表8. B. 全学主催のSDのテーマ (Q19-B)
  - 3) 表8. C. 看護系学部・学科、大学院主催のFDのテーマ (Q19-C)
  - 4) 表8. D. 看護系学部・学科、大学院主催のSDのテーマ (Q19-D)
4. 教員および学生の評価について <調査票項目No. 9>
  - 1) 表9-4. GPA制度の活用について (Q20-D)
5. 看護関連の附属施設について <調査票項目No. 10>
  - 1) 表10-1. 看護関連の研修事業の有無 (Q21)
  - 2) 表10-4. 附属施設の財政基盤について (Q22-C)
  - 3) 表10-5. 附属施設の活動内容について (Q22-D)
6. 国際交流の状況について <調査票項目No. 11>
  - 1) 表11-8. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無 (Q23-H)
7. ハラスメント、コンプライアンスに関する取り組みについて <調査票項目No. 12>
  - 1) 表12-3. 発生したハラスメント事例について (Q24-C)
8. 学修支援などについて <調査票項目No. 13>
  - 1) 表13-3. 大学入学前教育の対象者 (Q25-C)
  - 2) 表13-4. 大学入学前教育の学習形態 (Q25-D)
  - 3) 表13-5. 大学入学前教育の実施体制 (Q25-E)
  - 4) 表13-6. 大学入学前教育の費用負担 (Q25-F)
9. 大学と実習施設等の教育連携について <調査票項目No. 14>
  - 1) 表14-1. 実習施設の研修等における組織としての支援状況 (Q26-B)
  - 2) 表14-2. 実習施設等と大学間における人事交流の制度や取り組み (Q26-D)
  - 3) 表14-3. 実習施設との共同研究や合同研修等の制度や取り組み (Q26-F)
  - 4) 表14-4. 実習施設の看護部等に対する臨床教授制度の導入状況 (Q26-H)
  - 5) 表14-5. 臨地実習における課題や問題の有無 (Q26-I)
  - 6) 表14-6. 臨地実習における課題や問題の内容について (Q26-I)
10. 保健師、助産師および養護教諭の教育課程について <調査票項目No. 15>
  - 1) 表15-4. 保健師課程の実習における課題や問題の内容について (Q27-C)
  - 2) 表15-8. 助産師課程の実習における課題や問題の内容について (Q27-F)
  - 3) 表15-12. 養護教諭I種教育課程の実習における課題や問題の内容について (Q27-I)
11. 大学、大学院の教育運営経費等について <調査票項目No. 16>
  - 1) 表16-6. 看護系の学部・学科、大学院の学内研究費 (Q30)
12. 本調査に関するご意見、ご要望について (Q36) <調査票項目No. 22>

Q16. 看護系の学部・学科、大学院の卒業・修了生の就職または進学状況を教えてください。〔各数値回答〕

その他内容	
1	・家庭の事情により就業が困難なため ・就業準備のため
2	・学部卒業生：保健師国家試験不合格のため、就職内定先に就職できず。 ・修士修了生：レディースクリニックにて助産師のアルバイトをしながら進就学準備中
3	・看護助手 ・就職しない
4	・出産のため ・国家試験不合格のため勉強
5	①家業に従事 1人、未就職 3人、不明 1人 ②進路未定
6	1名：看護師国家試験 不合格の為、就職内定先で看護助手として就業中。（本年度国試受験予定） 2名：看護師国家試験（1名）・保健師国家試験（1名） 不合格の為、受験勉強中。 1名：子育ての為。
7	1名は看護師国家試験に合格したが、就職先が未定。 2名は看護師国家試験に不合格で、特に勤務せず国家試験勉強に励んでいる。
8	1名は就職試験後の結果待ち・2名はアルバイトで次年度に国家試験に再チャレンジ
9	2017年4月開学につき、まだ卒業生がいない。
10	2019年度JICA採用試験受験準備、求職活動中
11	2019年度国家試験受験
12	2名は国家試験不合格となった。1名は家業を継ぐことになり、1名はアルバイトしながら次年度再受験を目指す。
13	アルバイト
14	ワーキングホリデー・進路未定
15	一時的な仕事に就いた者。
16	家居
17	家居，一時的な職
18	家事手伝い
19	家事手伝い
20	家事手伝い、主婦
21	家事手伝い、幼稚園
22	家事手伝い等
23	学部（1：進路検討中）修士（1：未回答、1：一時的な仕事） 博士後期課程の進路について、現職継続は就職に含まない。
24	学部：就職希望なし 修士：就職希望なし1、就活中1
25	学部：大学院進学準備 修士：帰国
26	学部生については、就職、進学せず。修士修了生については不明。
27	学部卒業生（就職せず、国家試験合格に向けて勉強、各1）、修士修了生（未定3）、博士修了生（未定1）
28	学部卒業生：国家試験不合格 修士修了生：未定
29	学部卒業生は国家試験不合格1名、就職の意志なし1名 修士修了生は社会人学生3名
30	看護師国家試験が不合格であったため、未就業である。
31	看護師国家試験不合格のため
32	看護師国家試験未受験：1名、国家試験不合格：1名
33	看護助手を含む
34	起業1名、就職希望なし3名
35	漁師
36	●●大学養護教諭特別別科
37	結婚のため
38	結婚のため未定

Q16. 看護系の学部・学科、大学院の卒業・修了生の就職または進学状況を教えてください。〔各数値回答〕

その他内容	
39	研究生、就職準備、国家試験取得準備、留学準備のため、語学学校検討、就職しない
40	国家試験に不合格となり未定
41	国家試験再受験、未定
42	国家試験再受験のための自宅学習(学部2名)、留学生で帰国後就職活動(修士1名)
43	国家試験再受験の勉強のため。
44	国家試験受験準備
45	国家試験受験準備, 大学院受験準備, 休養
46	国家試験受験準備、就職活動中、育児
47	国家試験専念、家事手伝い等
48	国家試験対策3名、就職活動しない3名、未定1名
49	国家試験不合格により2019年度再受験
50	国家試験不合格のため就職希望せず。
51	国家試験不合格のため内定取り消し
52	国家試験不合格者
53	国家試験不合格者(2名)、アルバイト(1名)、家事従事(1名)
54	国家試験不合格者2名、未就職・未進学者2名
55	国家試験不合格者2名及び就職準備中の者1名
56	国試不合格のため合格取消(大学院進学)
57	国内大学別科進学1名、就職も進学もしていない1名
58	資格取得専念
59	資格取得専念2人
60	資格取得専念4人
61	資格補習生
62	次年度の国家試験受験に向けて勉強に専念する
63	次年度公務員受験
64	次年度国家試験再受験
65	社会人入学者
66	主婦, 国試不合格者
67	就職・進学しない者、未定の者等
68	就職せず、国家試験合格に向けて準備をする。
69	就職せず、進路未定。
70	就職の希望なし
71	就職も進学もしない(2)、国家試験不合格による再受験準備(1)
72	就職を希望しない者、就職準備中の者
73	就職活動、資格試験等受験
74	就職活動を継続している者 1名、就職しない者 2名
75	就職活動中 2名、療養中 1名、妊娠 1名
76	就職活動中、無職
77	就職活動中2名、国家試験不合格者1名、就職を希望しない者3名
78	就職希望なし
79	就職希望なし

Q16. 看護系の学部・学科、大学院の卒業・修了生の就職または進学状況を教えてください。〔各数値回答〕

その他内容	
80	就職準備、国家試験準備等
81	就職準備中
82	就職準備中
83	就職準備中
84	就職準備中
85	就職準備中2名
86	就職進学希望せず
87	就職非希望者
88	就職未定
89	就職未定者
90	就職未定者
91	修士修了生のうち、大学院進学者2名は就職もしているため二重に計上している。
92	進学、就職の希望無し 2名
93	進学・就職準備中
94	進学希望、国家試験不合格、就職を希望しない学生
95	進学準備
96	進学準備、未就職等
97	進学先未決定(2019年6月病院就職)
98	進学浪人2名、国家試験準備2名、就職活動なし(不明)2名
99	進路希望なし
100	進路変更、家庭の事情
101	進路未定
102	進路未定
103	進路未定
104	進路未定, 出産
105	卒業、修了時点それぞれ未確定
106	卒業後に活動予定
107	卒業生なし。
108	大学研究員
109	内定先未定
110	非就職者8人 内、看護師免許取得者3人、次回国家試験に専念する者が5人
111	非常勤病院職員
112	病院の看護助手
113	病気で入院していた時期があり、就職せず自宅療養し次年度に受験することにしたため。
114	不明
115	不明
116	不明
117	不明
118	未決定 1
119	未就業
120	未就職

Q16. 看護系の学部・学科、大学院の卒業・修了生の就職または進学状況を教えてください。〔各数値回答〕

その他内容	
121	未就職(就職を希望していない)4名、アルバイト1名
122	未就職、未進学
123	未就職・未進学
124	未就職者
125	未就職者。
126	未就職者・未進学者
127	未就職者1名、国家試験不合格者1名
128	未就職者2名
129	未就労
130	未定
131	未定
132	未定
133	未定
134	未定
135	未定 1人
136	未定(学部:5名、大学院:1名)
137	未定(学部卒業生) 未定(修士修了生)
138	未定(国家試験不合格)
139	未定、アルバイト
140	無職
141	養護教諭 別科
142	養護教諭再受験2 看護師再受験2 未定1 在家庭1
143	養護教諭特別専攻科など
144	養護教諭特別別科1、デザイン系の専門学校1
145	養護教諭臨時採用(1年未満)、公務員採用試験準備、進学準備、国家試験準備
146	留学予定、国家試験受験準備

Q17. 看護系の学部・学科、大学院に所属する教員の研究活動についてお聞きします。〔各数値回答〕

その他内容	
1	学術相談
2	独立行政法人国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業 カンダラスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室体制の構築プロジェクト(カンボジア国)2017.2.28-2020.2.27
3	共同研究
4	地方公共団体による研究費
5	寄附金(大学全体の研究教育経費となる間接経費を含むため教育研究奨励費ではなくこちらに計上しました)
6	国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」
7	企業・自治体との共同研究
8	企業等との共同研究費
9	奨学寄附金 1件 100,000円
10	地方自治体からの研修委託費
11	共同研究による研究費受入
12	●●県地域貢献等研究推進事業費補助金
13	●●大学医療福祉研究費
14	学術研究振興資金(日本私立学校振興・共済事業団)
15	ひらめきときめきサイエンスから採択されたもの
16	科学技術振興機構(JST):1,397,500円(2018.8/13-2019.3/31) *基盤C:延長分は含まず。 *挑戦(萌芽):2018.3/31退職教員の申請・採択は含まず。
17	地方自治体からの受託研究:3,153,600円(継続1件) 企業からの寄付金(特別研究費):850,000円(新規1件, 継続2件)
18	新規:アジア・アフリカ 助成事業(学振)
19	●●市医師会
20	学校法人●●と看護・介護に関する研究助成
21	学校法人●●と看護・介護に関する研究助成
22	なし
23	1,310,000円
24	●●県●●市役所受託研究
25	●●県受託事業
26	研究器具購入
27	産学官共同研究
28	●●県環境学術研究等振興事業費補助金
29	●●研究開発費
30	●●研究開発費

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
1	「今日から始める！骨粗鬆症と転倒予防～その原因と効果的な生活・体操」(6回)
2	いいあんべえ体操体験教室(16回)
3	お酒と上手に付き合う講座
4	ハンズオンセミナー「最期まで口から食べる」
5	健康と長生きの秘訣を知る応援フェア、「今からでも遅くない定期貯筋」
6	講演会「知っとく！納得！うちのお話」
7	●●市中央サービスセンター 合同家庭学級学習会「小学生の早寝早起きのすすめ」
8	●●市●●愛育会研修会「人生後半、これからも楽しく生きるための健康づくり」
9	●●分校(認知症になりにくい生活習慣/60年前の●●, ニコニコ体操)(2回)
10	平成30年度●●市体力づくり教室(15回)
11	平成30年度心といのちの講座「上手な物事の受け止め方～認知行動療法を使って～」
12	健康管理アップで感染予防(※複数回実施)
13	顕微鏡でみる生命のかたち(※複数回実施)
14	今考えよう、自分の性について(※複数回実施)
15	根拠に基づいた健康づくりをしよう(※複数回実施)
16	思春期に抱える悩み(※複数回実施)
17	思春期の生と性(※複数回実施)
18	自殺予防の重要性-今日からゲートキーパーになりませんか？-(※複数回実施)
19	助産師のお仕事-産む人と生まれる人の看護
20	地域医療と看護職
21	認知症のケア(※複数回実施)
22	認知症の方とのコミュニケーション(※複数回実施)
23	薬物の心身への影響～薬物乱用防止～(複数回実施)
24	市民健康セミナー
25	第54回ヘルスアカデミー
26	地域で認知症を生きることとかかわりの力
27	市民公開講座「眼の再生医療について」
28	エイズ出前講義
29	オープンキャンパス
30	オープンフォーラム
31	レッツトークデイ
32	健康を支えるキーポイントは睡眠・栄養・運動の三本柱
33	今からはじめる生活習慣病予防 ～健康は我が子への未来の贈り物～
34	子どもをまもる 産科スタッフ・保健師のためのワクチンの知識
35	子育てを支援する人に求められるもの
36	生と死の倫理 様々な家族のカたち
37	不妊・不育とこころの講演会 不妊・不育治療の実際
38	健康いきいきライブ講座 尿もれの予防・対策 ●●大学公開講座
39	認知症予防教室
40	ハートフル健康相談(育児相談・健康相談)●●県助産師会

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
41	●●セミナーハウス出前講座:LGBT(性的少数者)~その苦悩と学校や社会での取り組みを知る~
42	「再生医療とロボットが拓く最先端リハビリテーションの未来」
43	あなたの腎臓大丈夫? -慢性腎臓を守るコツ-(●●市腎臓病予防教室にて)
44	健康寿命をのばそう(第56回●●市高齢大学)
45	地域住民を対象とした地域包括ケアにおけるACPの講演(6回)
46	聾?者を対象とした自分にできる排尿ケア研修(2回)
47	三角巾やストッキングを使用した応急処置の仕方について
48	心肺蘇生とAEDの使い方
49	「最新の研究から家庭の保健・医療へ」 -認知症予防に向けて(保健学研究科からの発信)-
50	体の仕組みと健康について勉強しよう
51	おとなのこころの精神医学
52	こどものこころの精神医学
53	ポジティブに生きるための心理学
54	寒い“朝”に注意! 秋から増える脳心血管病の予防
55	寒さ対策としての運動
56	前向きな世界をつくるポジティブコミュニケーションへの招待
57	冬季に流行する感染症から身を守る
58	脳卒中と四季
59	「健やかに老いる」ための基礎知識-ロコモ・フレイル・サルコペニア-
60	家族のためのマインドフルネス 子どもと親のレジリエンスを高めるために
61	新しい今日を生きる人々~公開インタビュー
62	●●大学●●倶楽部
63	「大規模災害時の避難所における安全と救急」「避難所運営ゲーム」とおして(東京YWCA)
64	健康を考える「自宅での療養と訪問看護」
65	逃げたら終わりじゃない! 災害時の避難生活を乗り越えるための備え(●●市小規模多機能●●)
66	35歳のパパ、がんになる
67	小児看護、家族のケア
68	患者・家族のためのてんかん講座-てんかんを知り、うまく付き合おう-
69	手洗いのすゝめ
70	●●ラジオ公開講座 健康長寿社会を生きる
71	育児中の母親のためのリフレッシュ講座(2018年度中に計8回実施)
72	●●大学オープンキャンパス 大学院保健学研究科 地域保健医療教育研究センター 特別企画・市民公開講座「医療から介護への境目のない連携をめざして」
73	多職種連携に向けた情報共有-バイタルサイン編-
74	つながれ地域の絆
75	みんなで楽しく学ぶ 今どきの子育て・お孫育て(3件)
76	女性のための健康増進講座(4件)
77	大学院保健科学研究院公開講座「ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ」
78	子どもの成長のみかた
79	病気をもつ子どもの自立に向けて

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
80	がん予防に役立つミニ知識
81	看取りのための心の準備
82	すこやかに生きる－高血圧と糖尿病との上手な付き合い方－1
83	すこやかに生きる－高血圧と糖尿病との上手な付き合い方－2
84	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際
85	コンチネンス月間・コンチネンスデイ！めざせ！気持ちよく排泄できるコンチネンス
86	楽楽ランニングで目指せ！●●マラソン完走！！
87	世界遺産登録へ向けた●●伝統空手の健康技・三戦と尿失禁・頻尿に役立つ骨盤底筋訓練
88	アルコール健康障害対策－アルコール依存症について－
89	ライフステージにおける食事と栄養－ヘルスリテラシー向上を目指して－
90	りんごに含まれる「ペクチン」の科学
91	果物と健康－栄養疫学的観点から－
92	健康寿命とヘルスリテラシー
93	足と健康について考える
94	大切な人達が健やかに暮らしていくために－生活にアロマセラピーを取り入れて－
95	貯筋でGO！シニアに必要な筋力を考える
96	認知症サポーターステップアップ講座
97	認知症サポーター養成研修
98	認知症の人を支える人と地域づくり
99	認知症の理解－自分のために知りたい基礎知識と対応－
100	健康づくり講座
101	災害につよい街づくり
102	人生最終段階の生をどう支えるか－人生から治療の意味を考える－
103	認知症疑似体験教室
104	一般医療教育：運動が心身にもたらす作用について
105	一般医療教育：杖や車いすの使い方や介助の方法を学びましょう！
106	一般医療教育：脳卒中を予防しよう！脳卒中予防のための10カ条
107	食べ物の消化の仕組み、見えないものをみる、息を吸ったり吐いたりする仕組み
108	医療の中での看護の役割
109	NPを得て地域のチーム医療がパワーアップする
110	総合人間学①声のコミュニケーション～声のチカラで自信をつけよう～
111	総合人間学②ひとりぼっちを作らない地域を～性的少数者(LGBT)当事者として～
112	総合人間学③災害は忘れる暇なくやってくる～防災情報の正しい理解と利用を～
113	総合人間学④明るい病院づくりはできる
114	総合人間学⑤広瀬淡窓の心と教を暮らしに活かす
115	総合人間学⑥笑い与健康
116	地域医療を活性化する看護の魅力－診療看護師(NP)の活躍(3回開催)
117	地方創生大学等連携プロジェクト支援事業「●●プロモーション」プログラム2018
118	女性の健康問題を考える-妊娠期から更年期・老年期まで-
119	思春期の子育て～知っておくと安心な知識と子育てのポイント～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
120	がんと共に生きる人々を支えるケア
121	おうちに帰ろうー病気とともにおうちで過ごすためにはー
122	地域のつながりの中で大切な人の気持ちに気づく・支える
123	2020年東京オリンピック・パラリンピックのもたらすものースポーツを通じた人材育成と健康街づくりー
124	ケニアの医療現場でのKAIZENの取り組みー青年海外協力隊でのボランティアの視点からー
125	開学から15年ーヒューマンサービスの新しい展開ー
126	楽しい英語勉強法！ー東京オリンピックで、みんなで国際交流を！ー
127	女性に必要なコンチネンスケアの知識
128	人生100歳時代ー元気に海外ボランティアを！ーハノイでの活動を振り返ってー
129	成人期の健康管理
130	健康寿命を延ばす生活習慣ー元気に暮らすコツと万が一の時の備えー
131	正しく知ってる？食品添加物～食品添加物と私たちの暮らし～
132	脳科学はここまで進んでいる。今最も面白い脳科学
133	あなたの記憶力はどのくらい！？（記憶力テスト）
134	夏休み からだとこころの科学塾2018 不思議・びっくり！ からだの世界
135	感染予防の基本を身につけよう
136	吃音について知る・吃音と向き合う
137	血液ドロドロと血液サラサラのウソとホント
138	見逃さないで！脳卒中のそのサイン
139	見方を変えるとみかたが変わる！？ーストレスとの上手な付き合い方
140	生と死について考える～身内・友人の看取り、自己の病気を通して考える～
141	精神疾患を抱えながら子育てをしている人への子育て支援～訪問看護師への調査を通じた検討～
142	乳がんセルフチェックを身につけて、早期発見しよう！
143	乳がんセルフチェックを身につけて、早期発見しよう！
144	認知症の方への対応の仕方と地域での助け合い
145	すこやか子育て講座
146	パパママ教室(市との共催)
147	●●シティカレッジ「アロマを生活の中に」
148	●●シティカレッジ「精神看護師が語る言葉とこころー笑顔になるためにー」
149	●●シティカレッジ夏休み特別企画「あつまれ、ナースのたまご」
150	高校生のための看護学を学ぶ公開講座×2
151	いつまでもいきいきと美しく～加齢に伴う女性のケア～
152	がんになっても自分らしく生きよう
153	ナーシングサイエンスカフェ 助産師って楽しい！
154	夏休みこども講座～食品添加物の検査をしてみよう！～
155	高齢者の身体と理学療法
156	子ども劇場
157	職場のメンタルヘルス
158	親子パラスポーツ体験講座
159	生命科学体験教室～いのちを体験しよう～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
160	損なわれた関係を正し修復するRJ対話体験会
161	模擬患者とは何か＜入門編＞～よい医療者育成に必要な力となる～
162	模擬患者のための継続研修-模擬患者として授業に参加するために-
163	楽しく子育てするためにートリプルPプログラムから学ぶことー
164	親子の関係をはぐくむ前向き子育て5原則
165	地域ケアシステムー住み慣れた地域で充実した生活をー
166	まちの健康応援室ミニ出張講座(全6回)
167	子育ての主役はだれ?～子育てにやさしい地域のかたち～
168	地活ゼミナール2018
169	エンドオブライフケア演習
170	ホリスティックケア論
171	小児看護学
172	人間看護学概論
173	成人クロニックケア論
174	成人看護学
175	老年看護学
176	「自分の住む地域の外国人のことを話しましょう」ワークショップ
177	「防災スクール in●●大2018」(主催:防災ボランティアクラブ防'z)
178	ひよこママのサブリ講座
179	夏休み●●大ツアー2018
180	地域を担う主体づくり講座「地域で健康に暮らす」
181	日本在宅看護学会学術集会共催「実践的スピリチュアルケア 自分の生きる意味を見つけること」
182	「里山看護・遠隔看護学」を解剖するー里山の創成を目指してー
183	チンパンジーに学ぶ睡眠文化
184	エンド・オブ・ライフケアー病院・在宅でいかに生きるかを支える看護ー
185	子どものアレルギーの基礎知識とケア
186	第5回地域連携セミナー いつまでもおいしく食べるためにー食べること、飲み込むことについて知ろうー
187	避難所運営どうする?HUGを体験してハゲれない防災力を! ～台風・地震等自然災害への備え～
188	「ストレス」と上手に付き合うには
189	「訪問看護」をご存知ですか
190	医療者のアタマの中で進めていること～臨床推論～
191	急がば回れの健康体操
192	生活習慣病について
193	長寿の秘訣!これならできるこころの養生法
194	低栄養を学ぼう～これから始める予防法～
195	予防可能な認知症は予防しよう～今からでも間に合う予防活動～
196	看護の視点でみる身体のしくみ
197	リラクゼーション講座2018年後期(フォローアップ編)
198	リラクゼーション講座2018年前期(基礎編)

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
199	子どもにとって居心地のいい学校や地域であるために～子どもの視点ですすめる安心・安全な暮らし～
200	自尊感情回復講座2018年後期～気持ちがラクになるコミュニケーション術～
201	自尊感情回復講座2018年前期～気持ちがラクになるコミュニケーション術～
202	寝活のススメ～気持ちの良い眠りのために～
203	当世親孝行手帳～お家で介護する人のための基礎知識～
204	肌の健康を大切にすスキンケア
205	「癒しの空間」の管理運営
206	エンド・オブ・ライフケア教育
207	マザークラス●●
208	マザークラス●●
209	健康教室(ヒーリング)
210	健康大使への継続教育
211	女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」
212	職によるヒーリングパワー
213	性の健康に関する事業(布ナプキン作成、マンスリーピクス、月経なんでも相談、性教育)
214	地域住民の感染症予防スキルアップ事業、ユニフィケーションシステムによるヘルスプロモーション推進事業
215	●●市民大学・ヘルシーエイジングゼミ
216	キッズ英会話(2件)
217	グアテマラ共和国ってどんな国?(2件)
218	サルコペニアって何
219	スマホやパソコンによる疲労を防ごう!
220	救急車の適切な利用について知ろう
221	呼吸法と瞑想で心と身体をすこやかに!(4件)
222	子どもの自殺・自傷行為の理解と予防 ほか10件
223	心肺蘇生法をマスターしよう(2件)
224	知っておきたい!「女性のこころとからだ」(3件)
225	知って防ごう熱中症(2件)
226	日常生活の中で運動を!
227	薬に関する四方山話
228	血栓症の発症原因とその治療薬
229	精神障がいをもつ人の地域生活を支える
230	楽しく・おいしく減塩しよう
231	健康づくりのための運動指導講座(4件)
232	健幸華やかな生き方・老い方～食・運動・内服薬に関する情報の重要性～
233	スポーツドクターから伝えたい 女性のからだの基礎知識part2
234	認知症になりたくない!～認知症の予防対策を教えます～
235	“手術”について考えてみませんか?
236	グローカル感染対策は宮城から!
237	育児期における『落とし穴』と『切り替え力』
238	家族ががんと診断された時、家族だからできること

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
239	子どもを育む社会—いじめ問題を中心に
240	支え合う地域社会
241	人口で見る仙台の過去・現在・未来
242	大規模災害時のボランティア活動とは—東日本大震災における支援活動から考える—
243	認知症の方と笑顔で付き合おう！失敗したっていいじゃない！
244	ひむか女子旅の魅力！—日向神話をめぐる旅—
245	公開講座 いつまでも若々しく脳活性！ ⑬公開講座 心という宝
246	公開講座 加齢変化を知って老いも若きものばそう健康寿命
247	公開講座 身体チェックから運動実践へ
248	子どもとメディア学習会(2回)
249	子育て支援学習会
250	市民公開講座 「●●県民が知っておきたい健幸への近道」
251	出雲と日向～神話による縁結び～
252	神武天皇の東征をめぐって
253	地理志に記された神話伝承～都城島津家領内を中心に～
254	日中の神話と歌垣
255	旅の歌～古代から現代へ～
256	ゲームで学ぼう対話力
257	元気で長生きするためには
258	●●の地元を語る —地元論—で語ってきたもの
259	心身関連のお話し—からだところはつながっています—
260	コープ●●●寄附講座「私らしく生きる生きかた講座」3件
261	サテライトカレッジ5件
262	公開授業「生命と生活の質特論」5件
263	桜の森アカデミー 子育て支援リーダーコース11件
264	桜の森アカデミー 認知症ケアリーダーコース3件
265	あなたが認知症になったら？認知症と共生する地域づくりのために
266	ストレスについて
267	リーダーシップとコンセンサス
268	覚えておこう災害時の救急処置(2回)
269	看護の基本となる技
270	高齢者の理解と対応方法
271	子どもの看護を考える
272	思春期女性の健康は次世代の健康の礎
273	腎臓の働きと腎不全看護について
274	妊娠期の看護～妊婦体操をしてみよう～
275	病気を持つ子供と家族
276	訪問看護師の仕事
277	世代を超え交流を深めながらレッツウォーキング
278	幼児教育センター月齢別講座 育児の気がかり(15回)

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
279	●●地区総合防災訓練 救護訓練(演習)4か所
280	摂食嚥下(食べる事・飲み込むこと)のメカニズムと誤嚥予防 ※同じテーマで二回開催しました
281	生き生き健康づくり「見直そう!あなたの生活習慣」
282	支える側が支えられるとき～認知症の母が教えてくれこと
283	地域で元気に暮らすには
284	エイジレス社会に向けて一今、一人ひとりができること
285	お話と演奏一音楽物語『窓際のトットちゃん』作:黒柳徹子一
286	地域福祉からみる中山間地域の生活課題一高齢者単独世帯を中心に一
287	民話は地域のたから
288	End of Life Care 誰かを看取り、誰かに看取られるために
289	ちゃーがんじゅう健康生活支援セミナー
290	メンタルヘルス(女性)
291	医療通訳入門講座(基礎編)
292	皆さん 歩いていますか～運動の予防効果～
293	救急蘇生法
294	精神科看護と倫理
295	中学生性教育講話「思春期がやってきた」～将来のために、今から覚えておいてほしい事～
296	認知症のことを知りたいと思いませんか
297	認知症の話
298	認知症講話第一回認知症の予防
299	●●市メンタルヘルス研修 男性職員
300	アロマで心と身体のリフレッシュPart.13(全3回)
301	プレバパ・ママ講座一体験者や赤ちゃんから学ぼう!妊娠・出産・子育て一
302	ベビーヨガ教室(全2回)
303	幸せに生きていくための哲学
304	災害対応基礎講座(全2回)
305	出産前後のからだ作り講座～温活塾～(全5回)
306	中高年のヨガ
307	模擬患者(SP)養成講座(全5回)
308	・くすりの常識、非常識 ・昔のくすり、今のくすり
309	あなたの「足」お元気ですか?
310	からだのリズムと睡眠
311	ストレスとの上手な付き合い方
312	感情やストレスとの上手な付き合い方
313	笑いは心のオアシス
314	生活習慣病としてのがんにならないために
315	地域で共に暮らし共に働く社会を目指して
316	家庭で役立つ保健医療知識の基礎講座(全5回)
317	開学記念講演会「幸福寿命 一ホルモンと腸内細菌が導く100年人生一」

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
318	健康100年「そくさい」プロジェクト（全5回）
319	ウイルス性肝炎の最新情報
320	～もっと身近に緩和ケア～ 自分らしく生きるために
321	“がん”と告げられたら
322	“はじめよう！ロコモの予防 へらそう！ひざの痛み”
323	“患者さんにやさしい”おなかの手術 ー腹腔鏡手術の最前線ー
324	アルツハイマー型認知症の治療
325	いろんな病気の治療に役立つ低侵襲なカテーテル治療 ーお腹の病気を中心にー
326	医療の主役は患者さんです ー市民が模擬患者として活躍する医学・看護学教育を覗いてみよう！ー
327	子育てのお悩み・ちょっと気になる子どもの症状 ー小児科医が解説！ー
328	知って得する最新医療“肺癌”
329	糖尿病最前線 ～最新治療と生活習慣の工夫について～
330	聞こえともの忘れの気になる関係
331	ずっと、いきいきと暮らすための知識
332	認知症予防～今から始めてみませんか？脳と体を使ったエクササイズ～
333	IC看護講演会：「元気で自分らしく生きていくために地域医療・がん対策・医療教育の実践者が語る「がんから学ぶー地域での生き方ー」 ●●病院 ●●地域がんセンター 名誉院長 ●●先生
334	県民大学：自分で伸ばそう健康寿命 ～身体と心のスマート・エイジング～
335	血糖値が高い状態が続くとなぜいけないのか？～糖尿病を知って、生活習慣を見直そう～
336	在宅でできる慢性疾患予防
337	明日からできる健康講座
338	「最期まで住み慣れた地域で暮らし続けるために ー在宅医療や介護で受けられるサービスを知ろう」
339	「いびきと無呼吸の関わり」看護総合研究センター事業 講師 ●●先生 6/23
340	「尊厳死、安楽死、終末医療を考える」いのちの講座シリーズ 講師 ●●先生 10/12
341	「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」看護学部ボランティアサークル主催オレンジリボン普及イベント 11/25
342	「緑茶アミノ酸が認知症を予防する？」講師 ●●先生 11/29
343	医療専門職の臨床現場での活躍と実際
344	健康診断について知ろう！
345	未来に羽ばたく若手医療専門職
346	日本の災害経験を活かす国際貢献(公開授業の一コマ、90分)
347	脳活き活き！認知症予防アクティビティの実践(公開授業の一コマ、90分)
348	アロマの講座(アロマでリラックス体験)
349	ゲートキーパー(こころサポーター)から考える心の健康 (●●県精神保健福祉センターによる講演)
350	血圧測定(まずは血圧測定から)
351	血管年齢測定(血管の状態を確認してみよう)
352	身体測定(体脂肪・骨筋量・BMIなどの体の総合測定)
353	該当なし(公開講座は医学部と共催。看護系教員主導ではない。)
354	いのちと心のセミナー(市民講座)
355	第39回●●大学医療看護学部市民公開講座 「身体症状の変化を察知して心不全を予防しよう」
356	第40回●●大学医療看護学部市民公開講座 「もしあなたやあなたのご家族に介護が必要になったら」

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
357	第41回●●大学医療看護学部市民公開講座 「認知症の予防 ～サクセスフル・エイジングに着目して～」
358	第42回●●大学医療看護学部市民公開講座 「住み慣れたまちで最後まで生きる ～高齢社会に向けた地域における支え合いのしくみ～」
359	第43回●●大学医療看護学部市民公開講座 「日常生活を安全に介護するために」
360	第44回●●大学医療看護学部市民公開講座 「地域医療セミナー：脳梗塞の予防からリハビリテーションまで」
361	第45回●●大学医療看護学部市民公開講座 「医療機関とのつきあい方～安全で質の高い医療を受けるために～」
362	「暮らしと健康」いつまでも元気で動けるために 自分の体を知ろう！対策をたてよう！
363	「暮らしと健康」ひざの痛みを防ぐために-運動と歩き方、靴選び-
364	乳がん検診・自己検診法の啓発活動
365	よりよく生きる -よりよく支える医療-
366	よりよく生きる -認知症を予防しよう-
367	よりよく生きる -脳卒中予防10か条-
368	子育て世代をよりよく生きる
369	生と死 -安らぎと希望のうちに生きる-
370	地域とともに生きるを支援
371	「がんとともに、自分らしく生きる」ために当事者が求める支援とは
372	あきらめないで！おうちで解決 トイレの悩み(女性編)
373	お薬と上手に付き合うために
374	どうしています？『花粉症』～薬、免疫療法、そして手術～
375	よく耳にするけれど、白内障とはどんな病気？～治療と最新トピックス～
376	塩分摂取について
377	肝炎ウイルスの最近の動向
378	血管炎ってどんな病気？
379	健康長寿～ピンピンコロリをめざそう～
380	水と健康～水素水をめぐる科学と似非科学を考える～
381	知っておきたい！冬に流行する感染症への備え～インフルエンザとノロウイルス～
382	動脈硬化を予防する！血圧異常、脂質異常の観点から～
383	良い眠りとは～睡眠を正しく理解し薬に頼らず今日から快眠～
384	スポーツの科学的な実践と障害予防
385	子どもの事故防止について一周りの危ないものから身を守ろう～
386	親のがんを知らされた子どもの心に寄り添う(8回)
387	冬場の感染症について
388	認知症予防運動(2回)
389	肺年齢を計ってみよう！一肺の生活習慣病COPDとは～
390	「がん」のはなし ～口腔癌を中心に～
391	「みること」の教育と心理
392	感染症予防とワクチン
393	健康寿命をのばすセルフマネジメントとピアサポート
394	健康寿命を延ばそう ～お薬との上手な付き合い方～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
395	いつでもできる簡単ストレッチとおもしろスポーツ
396	ポールを使ったウォーキング
397	栄養と健康
398	音楽療法
399	簡単リズム体操
400	心の健康－「楽しく運動をするための工夫について」
401	心の健康－「見直してみませんか、家族の生活習慣～お酒は百薬の長？～」
402	心の健康－高齢者の心の健康 ～認知症を予防する～
403	心の健康－精神看護の観点から
404	心の健康－働く世代のメンタルヘルス
405	地域社会との繋がり生きがいを考える
406	認知症予防に！コグニサイズ
407	いもうと、おとうとが生まれての、甘えてね～第二子誕生時の第一子との関わり～(10月)
408	いもうと、おとうとが生まれての、甘えてね～第二子誕生時の第一子との関わり～(12月)
409	トイレのことばかり気になる生活から一歩前へ(快便編)
410	音楽療法のご紹介～聞いただけなんでもったいない！音楽を使ってみんな一緒に元気になろう！
411	二つのがん体験から語る、がん予防と治療のための食生活
412	まちの保健室 健康チェックしてみませんか？
413	大人の皮膚のための健康習慣－糖尿病や化学療法に伴う皮膚障害にも予防できる日頃のスキンケアを身につけましょう－
414	絵本と詩とピアノの世界から死を考える、生きるを考える
415	お口と健康
416	口腔ケアの理論と実践
417	更年期は、幸年期・光年期～健やかに美しく～
418	笑い与健康
419	知っているようで知らない悲しみの基本 深い悲しみにかけてあげたい言葉
420	「生きづらさを抱える人」と「まち」での出会い～「友達をいっぱい作りたいダウン症の私達」と「まち」で出会ったら
421	「生きづらさを抱える人」と「まち」での出会い～認知症をかかえる人と「まち」で出会ったら
422	死別の悲しみの癒し方：心理学からのメッセージ
423	手軽に実践！『手作りおぼろ豆腐・木綿豆腐』
424	障害を持つ人の理解と支援～「うごけないからだ」と「動く身体」
425	障害を持つ人の理解と支援～ヒューマンライブラリー立ち上げ講座
426	日本の風景と西欧の風景
427	ことばを楽しく科学する
428	言葉を楽しむことと健康 歌う楽しみ・聞く楽しみ
429	心豊かにする心理学
430	目からうるこの介護方法
431	AEDを知ろう
432	健康になる生活習慣
433	高齢者との思い出語り(回想法)
434	第二回こころの健康づくりシンポジウム こころの病とこころの癒し～健康と病と芸術～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
435	転倒予防 ～運動器症候群(ロコモティブシンドローム)～について知ろう
436	癒しのアロマテラピー
437	「チャレンジ！健康寿命延伸！ーソーシャルキャピタルとメンタルヘルスケアー」
438	「誰にでもできる介護のコツ」
439	あいプラザまつり～食事に関する展示と相談～
440	●●グランナタリー健康・介護フェア
441	●●いきいき健康づくり「避難所での健康管理のコツ」
442	●●地区防災訓練救急法講習会
443	効果的な地域診断のための研修会「空間疫学：地域診断の効果的手法ー担当地域の健康課題の可視化ー
444	●●市生涯学習フェスティバル～災害時に活用できる日用品の紹介・AEDの体験 ほか～
445	夢●●プロジェクトーゲートキーパー養成講座ー
446	認知症高齢者を支える
447	脳の働きー認知症から脳をまもるためにー
448	体験型災害シミュレーション研修
449	第14回リカレント教育：虐待が子どもに及ぼす影響、そして親にも支援を
450	第14回リカレント教育：虐待防止のワークショップ
451	数学のひろがり「ウィルソンの定理」
452	数学のひろがり「算聖 関孝和」
453	数学のひろがり「実数とは」
454	全身をむしばむお口の最近ー口腔ケアで健口長寿ー
455	地域とつながっていくまとかど保健室
456	がんとともに自分らしく暮らすために
457	高齢者の特徴と予防的活動を知る
458	在宅での看取りについて
459	手術後の「せん妄」を知っていますか？
460	小学生と保護者向けの認知症サポート養成講座
461	小学生向け しごと体験メディカル・キッズ
462	睡眠時無呼吸症候群と循環器病
463	生活習慣病教室
464	乳幼児のお肌をびかびかに保つワンポイント
465	乳幼児の病気と自宅で実践できるホームケア
466	認知症の人々の心の世界を知ろう
467	認知症を正しく理解しよう
468	「町の保健室」事業（認証かるたと相談、快眠のためのリラクゼーション）
469	こころ良い眠りの秘訣
470	ロコモティブシンドローム予防講座（3回）
471	睡眠講座（3回）
472	地域包括ケア推進のための講演会
473	第6回 ストップ！脳卒中
474	60分でわかる少子高齢化

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
475	よりよい眠りのために
476	最期まで自宅で自分らしく
477	看護学部市民公開講座「最期を迎えるということ」
478	腸は健康のパロメーター 腸を元気にしよう
479	「今日からできる！認知症 予防と認知症への対応」
480	これからの看護について知ろう！
481	のばそう健康寿命！～いつまでも元気に過ごすために～免疫力アップ (ストレスチェック)
482	回想法で若返りパート2
483	健康教育
484	心の健康づくり
485	孫育て 一昭和のあそびー
486	動脈硬化の予防 (血管年齢チェック)
487	非常時に備えて家族で作ろう、身近な日用品で簡単手作り防災グッズ
488	免疫力アップ (ストレスチェック)
489	自分らしく生きるためにー人生のエンディングを考えるー
490	こころが健康であるために ー簡単にできる健康法ー
491	救急医療体制の現況 ーとくに病院前救護についてー
492	知っておきたい、成年後見制度の活用方法 ー自分らしい人生を送るためにー
493	おかあさんのための「ほっと一息講座」 5才位までの子どもを持つ子育て中の母親対象 (託児付き)
494	元気なときから考える医療事前指示書
495	子どもの自主性を引き出すプレパレーション
496	住み慣れた地域で最期まで生きるということ
497	妊娠中～産後のからだの変化と過ごし方
498	老後の健康を長く保つー太極拳ー
499	100歳まで楽しく歩こう～筋力アップを目指して～
500	2018年度夏季公開講座
501	2018年度秋季公開講座
502	しゃんしゃんでの健康学習会
503	●●郷づくり協議会健康講演会
504	健診を受診して健康長寿を実現しよう！ー生活習慣病の予防のために今日から実践できることは？ー
505	●●市ヘルスステーション事業 ●●3丁目公民館 第8回母と子の健康測定会
506	●●市●●区健康測定会、講演会
507	●●市●●老人会すこやかクラブ 健康学習会
508	●●健康づくりプロジェクトの実績と課題
509	人生百年時代の生活習慣病予防のセルフケア～健康寿命延伸プロジェクト10年目の実績を踏まえて～
510	妊娠後期すこやか教室
511	メタボリックシンドローム予防のためのダイエット
512	お口の中をきれいに、元気に！ ～食事介助と口腔ケア～
513	姿勢や歩き方からわかるからだの不具合 ～その対処法～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
514	足の健康:自分で行うフットケア
515	認知症高齢者の「食」について ～最期まで「食」を楽しむには～
516	SP養成講座
517	健康支援
518	子育て支援
519	元気な腎臓を守ろう! ～塩分の味覚体験をしてみませんか?～
520	自分の強み(ストレンクス)を知っていきいきライフ!
521	妊婦さんと赤ちゃんのからだを知ろう ～看護大学の講座を受けてみよう～
522	あそびから学ぶ子育て 育児は育自～子どもも育ち、自分も育つ
523	妊娠期からの子育て～女性脳から母性脳への変換
524	フレイルに立ち向かおう! ～あなたと一緒に踊ろう～
525	アクティビティケア 健康づくりサポーター養成講座
526	おりぴい健康マイレージ1 アンチエイジング始めませんか 美と健康をたもつ食生活レッスン
527	おりぴい健康マイレージ2 知って得する平成の養生訓
528	●●市 健康づくり講演会 すべての人に健康を!生活習慣病予防と看護
529	認知症サポーター養成講座
530	～地域共生ケアを学ぶ～ いのちの絆をつなぐ共生社会のまちづくり
531	子どもの育ちを理解する ～子育て困難・育児不安に対応して～
532	生活習慣病と血栓
533	「考える!子どもの食物アレルギー～緊急時に自信をもって対応できるように～」
534	ゆらぎ世代の心身の変化と健康
535	対人援助職とアンガーマネジメント～自分の感情と上手につき合うために～
536	転ばぬ先の介護の知識～大切な家族を介護するために～
537	「あいうえお」はなぜ「あいうえお」? ～おもしろいことばの科学～
538	「今からでも始めよう健康づくり・介護予防」
539	「乱用薬物および身近に存在する毒物」～元科捜研そして法医学教室の男から～
540	～未来につなぐ幸せの手～ つたえよう つながろう 世代と世代
541	「いもうと、おとうとが生まれても甘えてね～第二子誕生時の第一子との関わり～」10月国立病院機構●●キャンパス開催
542	「いもうと、おとうとが生まれても甘えてね～第二子誕生時の第一子との関わり～」12月国立病院機構●●キャンパス開催
543	「米国におけるチーム医療の中でのNPの役割と活動の実際について」
544	まちの助産室(●●助産室)
545	まちの保健室(●●保健室)3月開催
546	まちの保健室(●●保健室)9月開催
547	忘れたころにやってくる災害
548	こころのケアでできていますか
549	ノルディックウォーキング教室
550	●●地区の皆さんの健康を考える～認知症の予防について～
551	健康をつくる看護とスポーツ
552	見逃せない股関節の病気
553	現役パラアスリートが語るパラスポーツの魅力

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
554	私達の未来を考える～がんとともに生きる生き方～
555	次世代型介護を考える～世界一幸せな国フィンランドからの提言～
556	地域住民と共に看護職を育てる看護教育～模擬患者に挑戦してみよう～
557	はいかい高齢者おかえり支援事業模擬訓練
558	子どもの安全、地域で見守り～誰でも子育てサポーター～
559	お豆さんを食卓に
560	つながり孤独の若者たちへの自立支援
561	健康長寿の秘訣は口にあり
562	誤えん性肺炎のウソとホント
563	口腔ケアは健康の源
564	龍田道から難波の記紀万葉を楽しむ
565	職場や地域でピアサポート～聴く力をアップして～
566	自分でできるリラクゼーション法～からだの感覚やバランス能力の自己評価から～
567	育児体験教室
568	介護する人、される人ーケアリング社会の実現を目指してー
569	子育て応援講座(パパママ教室)
570	子育て応援講座(ベビーマッサージ)①
571	子育て応援講座(ベビーマッサージ)②
572	子育て応援講座(ベビーマッサージ)③
573	子育て応援講座(孫育て教室)
574	夏祭り 豆ツカミチャレンジと咀嚼機能チェック
575	気功法で健康づくり 中国伝統医学から
576	避難できる体力づくりと健康状態に合わせた持ち出し品の選択
577	風邪予防 たかがうがい・手洗い、されどうがい・手洗い
578	様々な病気を予防する歯のケア つまようじ法のご紹介
579	●●市のバリアフリーを考える
580	アロマの世界一精油を使ったハンドマッサージを習得しよう
581	中高年の健康ー健康とアロマセラピーー
582	中高年の健康ー誤嚥性肺炎の予防ー
583	医療現場における行動変容のためのコミュニケーション
584	アンガーマネージメント
585	緩和ケアについて知って、自分らしく生活しよう!
586	がんに負けない生き方
587	拡張する意識としての健康
588	楽らくに楽たのしく孫活(まごかつ)ソフリエ
589	今日からはじめる健康学
590	心の健康と自分らしい心身のセルフケアを考える
591	健康的なお酒の嗜み ～百薬の長? それとも悪魔の水?～
592	健康寿命を延ばそう<第2回> 体の非常識に学ぶあなたの健康常識
593	健康寿命を延ばそう<第3回> 心の面から健康寿命を考える

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
594	～認知症の正しい理解を～ 認知症サポーター要請講座
595	ロコモのロコモティブシンドロームとは
596	生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防するためのフィットネス
597	●●市民の健康長寿を目指した生活習慣病対策
598	認知症の基本的知識
599	脳卒中の基本的知識
600	看護の日「地域住民の健康意識の増進を図る事を目的に健康相談・ヘルスチェックを行う」
601	市民公開講座 看護の科学「終末期医療の意思決定について考える」
602	わが子の緊急事態に対応する力をつける
603	家族による看取りへの支援
604	健やかに生きる「お母さんになるということ」
605	健やかに生きる「ちょっと気になる子ども達」
606	健康で長生きをめざそう
607	子どもの病気と怪我について
608	疾病発生要因と予防対策を探求する
609	小児看護シリーズ1)～4)
610	孫育てを楽しもう
611	保健衛生・安全対策
612	眠りのメカニズムを知る快眠法
613	●●文化学術研究都市7大学連携(市民講座2018)「サイバー・マインドフルネス(瞑想)の世界」
614	教職員自主支援 大学オープン講座(夏季講座)「『主体的・対話的で深い学び』の実現を図る」
615	第1回公開講座(●●カレッジ)「住み慣れた環境で安心・安全に暮らすために」
616	第27回公開講座(●●カレッジ)「AIと囲碁」
617	第28回公開講座(●●カレッジ)「子育ては楽しい！」
618	第2回公開講座(●●カレッジ)「慢性呼吸器疾患の息切れ対策運動の意義と導入の工夫」
619	イマどきの子育て事情—地域で支える子どもの育ち
620	インフルエンザ・ノロウイルスを予防しよう！
621	これからの人生を生き生きと過ごすために—一人とかがわることの効果
622	ストレスマネジメント—考え方のクセと気分の関係
623	レントゲン何枚とっても大丈夫？
624	安全を判断するために放射線を正しく理解する
625	健康寿命を延ばすための生活習慣
626	肩の痛み。四十肩・五十肩と腱板断裂
627	高齢者の転倒予防
628	人体の仕組みの疑問
629	大人の知らない赤ちゃんの不思議な力—生命の神秘に触れる
630	日常生活の身体運動
631	幼児保護者相談会①
632	幼児保護者相談会②
633	幼児保護者相談会③

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
634	「災害時の健康管理・感染症対策」
635	シーズ体験イベントHUSLABO●●「タッチエム体験」、「ステップアイ体験」
636	生活習慣病の予防と進行を防ぐ暮らしのコツアタマとカラダを一緒に動かす
637	第7回高齢者元気サポート
638	第8回高齢者元気サポート
639	つながっている心と体～ストレスとの関係性～
640	男女共同参画社会において知って欲しい「女性の健康」
641	健康寿命を延ばそう？ 知っておきたい 介護予防と地域づくり
642	●●区生涯学習センター ●●大学看護学部連携講座「60歳からの健康生活～食事・睡眠・運動～」
643	●●区生涯学習センター ●●大学看護学部連携講座「親が気になる1歳児の心と体の発達」
644	「フクロウのペリット解剖 夏休み特別講座 ●●講師
645	「介護予防脳体操と認知症について」 ●●教授
646	「共に伸ばそう健康寿命」 ●●教授
647	「笑い与健康」笑いヨガ ●●教授
648	酒害研究(●●県精神保健センター)とコラボレーション
649	育児のリフレッシュ“笑いヨガ”で心と体のストレッチをしましょう!
650	子どものからだどこころの発達
651	脳卒中の基礎知識と予防法
652	やさしい在宅医療講座一看取りの経験を語る一
653	ナースのお仕事
654	リラクゼーションの仕方～自分を助ける呼吸法～
655	認知症の家族と暮らすために
656	母性看護学
657	「本当はやめたい、でもやめられない」 あなたのジレンマは解決できる ～健康に活かす行動理論～
658	100歳まで脳を元気に!
659	ストレスとうまくつき合ってこころの健康を
660	その咳、注意!
661	至急お知らせしたい、子宮がんのこと
662	耳鳴り・難聴とのつきあい方
663	認知機能の低下との付き合い方
664	つながりを紡ぐ幸せの健康づくり
665	『看護の力』～その人の持っている健康の力に気付くこと、寄り添うこと～(「看護の日」イベント)
666	認知症を知ろう!(●●県コミュニティカレッジ公開講座)
667	ストレスと上手につきあう方法 ～しなやかな受け止め方～
668	「お通じスッキリ、健康習慣」
669	「中高年の発達課題一生き生きライフをめざして」
670	「不眠とうつ病予防」
671	人生100年時代の健康と生活を考える～食・スポーツ・子育て・認知症～
672	まちなか看護フェア
673	まちなか保健室

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

A. 一般市民向け公開講座

Q18-A 一般市民向け公開講座	
674	市民公開講座「感覚統合あそびでスタンプラリー」
675	「いつまでも健康に過ごすために！-感染予防の視点から-」
676	あなたの家族ががんになったら
677	ストレスとその対処法 ～リラクゼーション法の実践～
678	サハラ以南アフリカ(西アフリカ)の保健医療の現状とマラリア対策
679	「こどもの事故防止と救急処置 ～みんなの力で子どもを守ろう～」
680	「家庭でできる感染予防～実践しよう！正しいマスク装着と手洗いの方法～」
681	ともに支え合う老年期を考える
682	みんなで考えよう！●●の子育て支援
683	慢性疾患の学校生活について考えよう
684	夏休み体験講座『お口の健康診断～自分あった歯のみがき方を研究してみよう！』
685	公開講座『認知症高齢者の安全を支える取り組み～警察官の保護活動の実態～』
686	市民公開講座『健康的な「動きの質」で楽々介護』
687	●●市生涯学習センター共催公開講座『IoT時代の看護の可能性を探る～生体情報を活かした新たな健康管理～』
688	「食べる」を科学する
689	認知症の行動学
690	防災意識を高めよう！学んで生かす災害への備え
691	医療健康セミナー「家族で看取る 自宅で看取る、最後の過ごし方」
692	子育てに役立つヘルスプロモーション
693	上手に活用介護保険制度
694	睡眠と健康
695	ながら体操で健康寿命を延ばそう！
696	お口をアンチエイジング～いつまでも楽しく食事をするために～
697	こころも元気に！～こころの疲れを癒すコツ～
698	看護とコミュニケーション～デザイナーの視点から考える～
699	看護と介護空間～デザイナーの視点から考える～
700	健康に生きる～脳血管障害と生活～
701	健康寿命を延ばす女性の体づくり～骨盤体操で若々しく自分らしい生活をしていきましょう～
702	高齢者と食生活～楽しく安全にいただくために～
703	情報社会を上手に生きよう
704	生活習慣病を予防しましょう
705	福祉用具を身近に感じてみよう！～生活の知恵を蓄えよう～
706	あなたは健康ですかー生活習慣病にならないためにー
707	アロマで簡単リフレッシュ！
708	かっこいい大人になる；ちよどいいコミュニケーション
709	ストレスと上手に付き合う方法ー生活習慣病にならないためにー
710	女性の心と体・パーソナルペース
711	足から認知症を予防、健康になる
712	「もしも急に、身近な方が倒れたら～その時あなたができる救急法～」

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
1	安全な移動・移乗
2	医療職のためのフィジカルアセスメント講座
3	介護支援専門員のためのファシリテーションスキルアップ講座
4	介護福祉職のためのフィジカルアセスメント講座「医療につなぐ新しい介護の視点」(9回)
5	●●呼吸リハビリテーション懇話会ベーシックコース研修会
6	状態別 安全な移動・移乗
7	退院支援スキルアップ講座
8	地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座 「呼吸ケア」
9	地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座 「呼吸器系アセスメント」
10	NICU/GCUIにおける退院支援看護師育成研修
11	エンド・オブ・ライフ・ケア研修会(ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム)
12	クリティカルケアコース
13	育ち合う現任教育(※複数回実施)
14	看護師長研修 問題解決能力の向上～へこたれない組織をつくる～
15	看護職キャリアマネジメント研修会
16	今考えよう、自分の性について(※複数回実施)
17	産科における救急の実際
18	重症患者家族への終末期看護
19	専門看護師委員会セミナー～がん領域と急性期領域における終末期事例を通して～
20	認知症のケア
21	認定看護師による看護実践フェア
22	●●排泄ケア研究会 第1回・第2回 ●●地区、●●地区、●●地区 勉強会
23	看護研究セミナー_(2回)
24	看護実践セミナー
25	弾性ストッキングコンダクター養成講習会_(2回)
26	訪問看護研修ステップI「対象者理解」
27	●●精神看護をもっと深く学ぶ会 (全5回)
28	●●精神看護事例検討会 (全3回)
29	小児看護学エキスパート養成講座 基本的な生活習慣支援コース (全7回)
30	小児看護学エキスパート養成講座 理論コース (全7回)
31	老年看護学セミナー (全8回)
32	がん患者生活サポーターインテンシブコース「ゲノム医療の相談にどのように対応するのか？」
33	がん看護能力スキルアップセミナー(インテンシブ)『患者中心の意思決定支援ー乳がん治療におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践とコツー』
34	希少がん医療マスターコース(インテンシブコース)「希少がんの診断・治療の現状と課題」
35	「妊産婦のメンタルヘルス」研修会 産後うつ等の早期発見・対応に向けて
36	楽しく学ぶ初めての看護研究～看護研究をはじめよう～
37	退院支援研修
38	第2回「妊産婦のメンタルヘルス」研修会 産後うつ等の早期発見・対応 に向けて
39	第3回「妊産婦のメンタルヘルス」研修会 産後うつ等の早期発見・対応 に向けて
40	不妊・不育とこころの研修会 がんと生殖医療ネットワーク●●研修会 がん患者と妊孕性温存

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
41	訪問看護師の看護実践力アップ:事例検討
42	看護研究の基礎及びデータ解析入門
43	看護研究の基礎及びデータ解析入門
44	筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の在宅支援
45	平成30年度助産師の専門的実践のための必要な知識・スキル
46	平成30年度助産師の専門的実践のための必要な知識・スキル
47	良い看護師になるために必要なスキルを身につけよう
48	良い看護師になるために必要なスキルを身につけよう
49	「看護のアウトカム評価」について
50	1型糖尿病看護ケア研修会
51	せん妄予防のDELTAプログラム
52	チーム連携における看護への期待
53	看護研究に活かせる文献の探し方、集め方
54	継続した看護・介護で地域全体をケアする取り組み
55	周産期にまつわる遺伝の問題と意思決定支援
56	腎症重症化予防の取り組み
57	糖尿病ケアの仕組みづくり
58	糖尿病看護の力を再考する
59	認知症者の「その人らしさ」を支える療養環境づくり
60	アンケートの作り方ー必要な要素と選択肢作成の基本ー
61	クリティカルケアに活かす早期離床
62	クリティカルケア領域に活かすスキンケア
63	看護研究のテーマをみつけるーテーマに必要な要素を理解するー
64	看護研究研修会in●●:①量的欠陥の読み解き方②研究結果の伝え方③結果と考察の書き方
65	看護研究研修会in●●:Excelを使った上手な図表の作成方法と統計手法の基本
66	救急医療における子供虐待の発見と対応
67	結果と考察の書き方ー限られた字数での伝え方ー
68	研究結果の伝え方ー図表の作り方と発表のコツー
69	災害急性期の看護実践ーDMATの活動からー
70	文献を入手するー文献検索のコツー
71	量的結果の読み解き方ーアンケート集計データのここに注目するー
72	⑬臨地実習指導者と臨地実習指導担当者教員交流会
73	⑭人間の性とその多様性～医療職として理解しよう～(薬学学生対象3回)
74	⑮LGTおよび性別違和を理解する(看護職対象2回)
75	⑯臨床との共同研究:抗精神病薬の長期使用患者に対する排便の援助
76	⑰臨床との共同研究:長期隔離中の統合失調症患者に対する看護師の意識調査
77	⑱臨床との共同研究:精神看護学実習において学生が臨床指導者から学んだこと
78	うつ予防離職予防プログラム
79	障害児訪問看護研究会
80	在宅ケア専門職を対象とした認知ケア研修(2回)

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
81	自立支援型の認知症ケア個別会議の意義について(1回)
82	平成30年度●●県中堅保健師研修会「災害対策における中堅保健師の役割」
83	解剖学スキルアップ研修会
84	在宅医療の推進に向けての退院支援
85	小児看護エキスパートナース養成講座
86	糖尿病療養指導士セミナー
87	分娩介助技術指導
88	分娩体位の講習会
89	看護管理実践「看護力の高い組織を創る～クリニカルナースリーダーとしての実践と研究から学ぶ」
90	“臨床現場に臨む哲学”～患者の死生に寄り添える医療者であるために～
91	在宅医療を支える看護職の役割
92	「看護管理の基本―はじめての管理を学ぶ」
93	「看護管理の基本―課題解決」
94	ケアの意味を見つめる事例研究セミナー(6/30.7/1)
95	第25回シフラの会「新生児の皮膚トラブルとその後のアレルギー発症に関する研究の動向」
96	第3回Long-term care quality研究会「ケアの意味を見つめる事例研究」セミナー(11/3.4)
97	多文化多言語への対応
98	キャリアラダーの基本的な考え方
99	ゴードンの健康パターンに基づく看護過程
100	ファミリーパートナーシップに基づく育児支援講習会
101	実習指導者研修
102	地域で生きる人を支える看護
103	訪問看護キャリアラダー研修・管理者編
104	訪問看護のキャリア
105	AYA世代の小児がん経験者の就労に関する現状と課題
106	きょうだい支援
107	看護管理者からみたがん看護専門看護師の役割と役割拡大戦略
108	賛否両論？パートナーシップ・ナーシングシステムは看護師の成長を促すのか？
109	子どもの疾病の認識と意思決定支援
110	睡眠と身体活動、凱日リズムについて
111	生きづらさの社会学
112	地域包括ケア時代の看護職
113	認知症高齢者の疼痛マネジメント
114	発達障害を持つ子供への対応
115	米国におけるがんサバイバーシップケアについて
116	予防接種に関する最新の動向
117	認知症サポーター養成講座(●●日報社との共同で学生対象)
118	慢性疾患看護専門看護師による実践報告会
119	RNECセミナー
120	シミュレーション教育における指導者育成コース・ダイジェスト版

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
121	看護職の原子力・放射線教育のためのトレーナーズトレーニング
122	原子力災害医療に関する基礎知識
123	原子力災害中核人材育成
124	講演会「リスク評価と管理の科学 ～基準値の在り方と2011年災害後のリスク～」
125	災害看護の発展と展望
126	第20回●●継続看護研究会「精神障がいを持つ人との共生社会の実現を目指した現状と課題」
127	被ばく医療プロフェッショナル終了後研修
128	被ばく医療研修
129	放射線看護セミナー
130	放射線災害医療セミナーin●●2018
131	第13回●●県糖尿病・腎不全療養指導看護研究会
132	第26回●●県呼吸ケア看護研究会
133	第27回●●県呼吸ケア看護研究会
134	第28回●●県呼吸ケア看護研究会
135	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 平成30年度 がん看護インテンシブコースⅡ がん高度実践看護師WG講演会 in ●●
136	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 平成30年度 ●●大学がんプロ講演会
137	平成30年度●●大学・●●市訪問看護師育成事業：訪問看護師養成研修 オマハシステム研修会
138	平成30年度●●大学・●●市訪問看護師育成事業：訪問看護師養成研修(看取り編)(1回目)
139	平成30年度●●大学・●●市訪問看護師育成事業：訪問看護師養成研修(看取り編)(2回目)
140	平成30年度●●大学・●●市訪問看護師育成事業：訪問看護師養成研修(基礎編)(1回目)
141	平成30年度●●大学・●●市訪問看護師育成事業：訪問看護師養成研修(基礎編)(2回目)
142	これからの災害看護基礎教育
143	テキストマイニングの世界 -質的研究から量的研究への変換-
144	パワーポイントによるプレゼンテーション
145	フィジカルアセスメント 苦手意識を克服しよう！これを知っていればラクラク心電図
146	看護研究継続セミナー：在宅医療を看護研究にするには？
147	看護実践能力開発講座：『テキストマイニングの世界』を看護実践に役立てるためには
148	最新の看護診断と看護過程をおさえれば看護診断なんて怖くない！
149	災害看護専門看護師の教育
150	実践力UP事例検討会
151	病院災害
152	保健師の人材育成ガイドラインを読み解く
153	量的看護研究 あなたでもできるアンケート調査とデータの活用法
154	⑬人生会議の進め方
155	⑭IPEセミナー,在宅と病院との連携体制について
156	⑮IPEセミナー,在宅看取りをめぐる課題～ACPIにつなぐために
157	⑯IPEセミナー,その人らしく生きるをどう支えるか
158	⑰IPEセミナー,誤嚥性肺炎と人生会議
159	⑱IPEセミナー,患者・利用者さんの人生観・価値観を聞いたことがありますか。
160	病棟看護師長・副看護師長のための在宅療養支援セミナー

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
161	現場に活かすフィジカルアセスメント
162	診療記録に学ぶ医療安全
163	2018年度同時改定と医療提供体制改革「2025年」の先を見据えて
164	がん患者の在宅療養支援－研究発表をもとに－
165	ポジショニングについて
166	看護小規模多機能型居宅介護について(事例検討)
167	事例検討「家族支援方法について」
168	終末期医療と“医療メディエーション”－倫理的観点から－
169	退院支援を巡る動き
170	認知症サポーター養成講座
171	がん看護セミナー
172	看護職の研究力アップ講座
173	PowerPointを用いた効果的で効率的なプレゼン作成術
174	ごみ屋敷問題の背景を探る～高齢者のセルフ・ネグレクトの現状と支援の方向性～
175	これからの病院経営に役立つ財務管理の知識(認定看護管理者フォローアップセミナー)
176	院内感染事例から学ぶ 感染制御の考え方と実践
177	看護を取り巻く制度の動向を理解し、看護現場に活かす
178	看護研究スキルアップ講座①「看護研究の基礎」「看護研究における文献検索」「臨床看護研究における倫理と手続き」
179	看護研究スキルアップ講座②「質的研究入門」「看護研究のための質問紙調査入門」
180	心を晴れやかに－今日から使える認知療法－
181	大規模災害発生！ 地域でいかに対応し 保健医療を復興させるか～ 過去の災害支援と平時の救急医療を活かす～
182	認定看護師教育課程がん化学療法看護分野認定審査対策セミナー(第1回)
183	認定看護師教育課程フォローアップセミナー(秋季)
184	米国における高度実践看護師の活動
185	2018年度●●県保健医療福祉研究発表会
186	社会福祉施設看護職員研修
187	認定看護管理者教育課程セカンドレベル
188	認定看護師フォローアップセミナー(①急変させない！患者観察テクニック、②救急看護認定看護師のこれから)
189	CNS関係者によるがん看護事例検討会 第1回、第2回(2講座)
190	がんゲノム医療を理解し現場に活かそう
191	ジェネラリストのための事例検討
192	ペリネイタル・グリーフケア検討会
193	医療現場での対人関係
194	看護実践セミナー「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」基礎編、アドバンス編(2講座)
195	在宅療養移行支援
196	子どもと家族への支援に関する勉強会
197	新しい地域包括ケア時代のまちづくり
198	新任保健師スキルアップ
199	●●事業 看護技術に関する相談事業 看護研究
200	●●死生看護学研究会第4回研修会 看取りケアの連携を模索する

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
201	解決志向的なアプローチークライアントの可能性を拓ける会話ー
202	●●県立大学●●キャンパス事業 「看護技術に関する支援事業」■栄養療法における炭水化物・糖質の考え方ー カーボカウント・糖質制限食の功罪ー
203	今日から始めるハンドケア
204	実践センター「看護技術スキルアップLearning Strategies」胸腹部のフィジカルアセスメント
205	心電図の読み方ー心電図の基本と不整脈の基礎ー
206	本大学院小児SNSコース修了生に対する事例検討会と活動課題「CNSとしてのコンサルテーション」について
207	本大学院小児SNSコース修了生に対する事例検討会と活動課題「CNSとしての看護実践」について
208	本大学院小児SNSコース修了生に対する事例検討会と活動課題「CNSとしての教育実践・組織との関係」について
209	本大学院小児SNSコース修了生に対する事例検討会と活動課題「CNSとしての倫理調整①」について
210	本大学院小児SNSコース修了生に対する事例検討会と活動課題「CNSとしての倫理調整②」について
211	●●看護協会 継続研究 看護研究の基礎
212	看護研究 研究計画書の作成
213	看護研究 リサーチクエションの見つけ方
214	看護技術スキルアップLearning Strategies「脳神経系のフィジカルアセスメント」
215	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 多施設合同新人看護職員研修:必修プログラム(5日間)
216	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 多施設合同新人看護職員研修:選択プログラム「呼吸・循環器系のフィジカルアセスメント」(1日)
217	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 実地指導者・教育担当者・研修責任者研修:必修プログラムAコース「新人を支援するスキルのブラッシュアップ」(5日間)
218	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 実地指導者・教育担当者・研修責任者研修:必修プログラムAコース「新人を支援する組織のビルドアップ」(5日間)
219	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 実地指導者・教育担当者・研修責任者研修:選択プログラム「指導者のための呼吸・循環器系のフィジカルアセスメント」(1日)
220	●●県委託事業 「●●県新人看護職員研修」 公開講座:「新人看護職員をみんなで育てる共育の輪」(1日)
221	2018年度●●県立大学看護学部 助産学分野卒後研修会「助産師歴41年の知恵袋!! ～●●のお産の一時代を支えた助産師のお話～」
222	平成30年度ハッピーバース研究会総会講演会「今、そして未来に期待される助産師とは」
223	初回面接における対象のアセスメントと動機付けの支援について
224	脳血管疾患の予防につなげる健診結果のアセスメントと保健指導について
225	看護技術に関する支援事業:「基本的かわり技法」
226	看護技術スキルアップLearning Strategies「吸引のポイント」
227	がん看護実践能力向上研修
228	クリニカルラダー導入と活用
229	ノーリフトケアコーディネーター養成研修
230	医療的ケア児の支援を考える
231	看護の現場で生きる社会人基礎力
232	看護過程の展開(基礎編)
233	看護管理者ファーストレベル
234	県内行政保健師の新任期・プリセプター・中堅期・プレ管理期研修
235	思春期スキルアップ研修
236	世界の助産師活動ーICM会長としての回顧からの学びと期待
237	地域包括ケア推進のための専門職育成研修
238	母子保健・精神保健におけるソリューション・フォーカスト・アプローチ

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
239	助産師能力強化研修会「経腹超音波検査」
240	●●県中小規模病院等看護管理者支援研修会
241	第20回看護国際フォーラム「看護におけるリーダーシップ」
242	女性の健康問題を考える-妊娠期から更年期・老年期まで-
243	NICUにおける家族の特徴と支援、関係者間の合意形成
244	アサーティブなコミュニケーション 聞く技術・話す技術
245	介護における感染症予防
246	介護福祉施設における感染症予防研修 感染症予防策の実際を体験的に学ぶ
247	感染症予防策の実際を体験的に学ぶ
248	管理者からの講義(取り組みの事例報告)
249	機能強化型訪問看護ステーションの経営の実際1
250	在宅で栄養療法を継続する療養者と家族のケア
251	在宅における臨床判断の基礎
252	地域包括ケアと訪問看護師の役割
253	訪問看護ステーション経営の課題とその解決方法
254	訪問看護ステーション経営の実際
255	バランス・スコアカードとサービスの価値向上のマネジメント
256	認知症を有する在宅療養者の健康管理とケア
257	在宅での神経難病の治療を毛お属する療養者と家族のケア
258	教育指導のためのスキル コーチング技法
259	教育理論 成人学習理論ー主体性を育むとはー
260	バランス・スコアカードを用いた戦略目標の設定とサービスの機能評価
261	文献検索の基礎とシステムティックレビューの考え方と基本知識
262	在宅でがんの専門的な治療を継続する療養者と家族のケア
263	家族支援専門看護師の役割:倫理調整
264	がん患者の抱えるトータルペインと看護
265	遺伝性腫瘍を有する患者と家族への支援
266	最新のがん薬物療法と看護
267	放射線治療の基礎と看護
268	在宅で療養する小児と家族へのケア
269	がん患者の就業・就労についての支援
270	認知症のある高齢がん患者への支援
271	呼吸器疾患を有する在宅療養者の疾患管理とケア
272	新人訪問看護師の特徴ー医療モデルから生活モデルへのパラダイムシフトの支援方法ー
273	訪問看護師の教育を考える 教育の仕組みと教育評価 ラダーとドレイファスモデル
274	アサーティブなコミュニケーション 聞く技術・話す技術
275	NICUにおける家族の特徴と支援、関係者間の合意形成
276	管理者からの講義(取り組みの事例報告)
277	医療保健従事者の腰痛の現状と腰痛予防の必要性
278	遺伝性腫瘍をもつ患者・家族への支援

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
279	がん医療における遺伝カウンセリングの実際
280	在宅における臨床判断の実際
281	スライディングシート、スライディングボードの使用方法
282	家族の意思決定プロセス
283	生命の危機状況にある患者と家族
284	病気をもつ子どもと家族
285	在宅移行期にある患者と家族
286	在宅における多職種で支えるエンド・オブ・ライフケア
287	リフト、吊り具などの福祉用具の使用方法
288	腎不全を有する在宅療養者の疾患管理とケア
289	科研費における臨床学習環境デザイン支援プログラムにおける臨床教育ストラテジーセミナー
290	クリティカルケア部門への入室から退出までの重症患者の看護実践、手術を受ける患者のケア
291	クリティカルケア部門への入室から退出までの重症患者の看護実践、クリティカルケア部門での多職種チーム医療の実践における看護師の役割
292	手術を受ける患者のケア、クリティカルケア部門での多職種チーム医療の実践における看護師の役割
293	家族看護の基礎知識
294	家族とのパートナーシップの形成、家族とのコミュニケーション
295	家族への介入
296	トランジショナルケアに関する看護教育
297	在宅で死を迎えるがん療養者と家族のケア
298	在宅で死を迎える非がん病態を有する療養者と家族のケア
299	安全・安楽を基軸にした看護の質評価とケア
300	クリティカルケアにおける患者の権利擁護、医療安全とチーム医療
301	集中治療システムの効果的な活用を支えるケア
302	BASE ●●におけるHIV陽性者支援について
303	フィジカルアセスメントと急変時の対応
304	褥瘡・浮腫等の皮膚の病態を有する在宅療養者の管理とケア
305	第7回地域包括ケア国際セミナーⅠ「トランジショナルケアの理論と実際」
306	実践の結果報告 グループワーク
307	第7回地域包括ケア国際セミナー「臨床判断モデルとトランジショナルケア」
308	第7回地域包括ケア国際セミナー「トランジショナルケアに関する研究と教育」
309	第6回看護フォーラム
310	第4回地域包括ケアセミナー
311	子ども虐待を学ぼうⅢ
312	FDセミナー「対話を活用した自律的学習者の育成」
313	●●訪問看護ネットワーク事業「機能強化支援セミナー」
314	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム—超高齢社会に向けて—
315	RCA手法を学ぶ
316	エンドオブライフケア研究会
317	子どもと家族のメンタルヘルスケア—地域の事例を通して感じていること—
318	認知症患者の転倒予防～医療安全の視点から～

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
319	看護学実習の評価
320	医療的ケアを必要とする子どもの放課後等児童デイサービスにおける実践活動の充実を目指した研修会
321	看護の専門性を高めるマネジメントについて考えるワークショップ【新任期看護師対象】
322	看護の専門性を高めるマネジメントについて考えるワークショップ【中堅期看護師対象】
323	●●県におけるEnd- of -Life Care充実に向けた研修会
324	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会【CNSの6つの役割発揮と看護の質改善のコツ～組織とのwin-winを目指して】
325	卒業者のキャリアアップ支援のための研修会【ベッドサイドにおける退院支援の実際】
326	退院支援教育プログラム研修2018【アドバンス研修】:3回開催
327	退院支援教育プログラム研修2018【ベーシック・フォローアップ研修】
328	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会【第1回 妊娠期からの切れ目ない母子支援一岐阜県の目指すところ/海外での母子支援システム-】
329	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会【第2回 周産期メンタルヘルスと飛騨地域での母子支援】
330	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会:2回開催
331	医療処置を受ける子どもと家族への小児看護ケアモデル実践講座
332	地域を主体とした多職種協働連携・協同による地域包括ケアシステムの推進
333	看護管理学ケア検討会
334	精神看護学領域リカレント教育
335	第1回がん看護学ケア検討会
336	第1回クリティカルケア看護学ケア検討会
337	第1回プリセプター能力育成研修
338	第1回看護学部公開講座
339	第1回在宅看護学ケア検討会
340	第1回小児看護学ケア検討会
341	第1回精神看護学ケア検討会
342	第1回地域看護学ケア検討会
343	第1回地域看護学領域リカレント教育
344	第1回老人看護学ケア検討会
345	がんプロ 看護専門職公開講座(高齢がん患者を支えるためのアセスメントと意思決定支援)
346	がんプロ 専門職公開講座(認知症・せん妄を有するがん患者のケアと意思決定支援)
347	がん看護インテンシブコース(一歩前に出るがん看護)
348	看護師の語りから見えてくるもの
349	学習する組織を目指す教育責任者の中長期育成支援プログラム
350	看護教員の教育実践能力を鍛える公開講座
351	●●精神看護・精神地域ケア事例検討会
352	若手理学療法士向け症例検討会
353	若手理学療法士向け症例検討会
354	新人看護教員の看護教育実践講座
355	認定看護師フォローアップ研修(講義「緩和ケアとユーモア」)
356	認定看護師フォローアップ研修(認定更新審査のポイント研修)
357	訪問看護師スキルアップ講座
358	養護実践事例検討会

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
359	理学療法学科 臨床実習指導者講習会
360	臨床家のための看護研究セミナー
361	せん妄リスクのある高齢患者のアセスメント
362	周産期におけるグリーフケア
363	助産ケアのエビデンスー新生児のスキンケアー
364	助産記録における助産師の法的責任と助産記録の目的
365	助産実践と倫理
366	「気持ち良い体験」をしよう ～呼吸法・マッサージによる医療者のセルフケアのススメ～
367	ナースだって癒されたい～自分を大切に作る心のケア体験研修～
368	看護師のための英会話研修(初級)～外国人患者さんと英語で話してみよう
369	訪問看護スキルアップ講座2018(全2回)
370	知ってみよう日本とアメリカの音楽療法の普及状況
371	●●県立大学看護学研究科特別講義(計15回)
372	日本在宅看護学会学術集会共催「チームSTEPPS研修」
373	看護研究講習会ー質的研究編「病いとともにある人々の『生活史』の語り」
374	看護研究講習会ー質的研究編「病気と健康ーその視点を問い直す」
375	看護研究講習会ー量的研究編 統計解析の考え方 基本とアドバンス①
376	看護研究講習会ー量的研究編 統計解析の考え方 基本とアドバンス②
377	米国におけるCNSの実践
378	看護研究セミナー 看護研究いろはの「い」・研究疑問から研究計画書作成
379	看護研究セミナー 看護研究いろはの「は」・質問票のデザイン
380	看護研究セミナー 看護研究いろはの「ろ」・量的アプローチの基礎
381	看護実践セミナー 患者急変対応「何か変、と思ったとき・・・」
382	看護実践セミナー 重篤な肝障害・腎障害・代謝障害の病態と管理
383	看護実践セミナー 臨床場面における認知症高齢者との非言語的コミュニケーションスキルを磨く!
384	さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～
385	わかりやすいプレゼンテーションのやりかた
386	患者の安全を高めるTeamSTEPPS 基礎編
387	患者の安全を高めるTeamSTEPPS 充実編
388	感染対策の基本～適切な実践のために～
389	看護研究のための統計処理(統計ソフトSPSS・エクセルの紹介)
390	看護研究のテーマをみつけよう
391	現場で活かす看護倫理
392	呼吸のフィジカルアセスメント
393	高齢者のスキンケア～オムツ環境とスキンケアの対策～
394	手塩にかける教育ー人材育成につなぐOJTとリフレクションのコツー
395	文献検索の基本～看護研究の論文を探す・入手する～
396	ゲノム医療と倫理・社会的問題

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
397	●●保健師研究会
398	遺伝性腫瘍に対するゲノム医療の実際 ～リンチ症候群を中心に～
399	医療介護ダブル改定！ 今、現場に何が起きている？！
400	看護の臨床における現象を読み解く ～妊娠とがん～
401	県立病院看護師教育担当者研修会
402	成人事例検討会
403	大型台風時地域医療はどう動いたか？ ～台風20号・21号報告会～
404	地域・企業を基盤とした病気の悪化予防と高度実践看護 ～ビッグデータを用いた新たな看護の可能性～
405	母性看護事例検討会
406	臨床2～3年目助産師対象実践力向上研修 ～助産師としての実践力を高めよう～
407	看護職へのリカレント教育、身体感覚活性化「世にも珍しい」マザークラス医療者向けセミナー
408	第5回糖尿病看護実践力開発セミナー
409	保健師リカレント教育
410	“対象者に優しい”持ち上げない移乗介助(3件)
411	医療事故はなぜ起きる？(4件)
412	一人暮らしの認知症高齢者の認知症の進行に伴う生活障害への支援
413	患者さんの思いに寄り添えるコミュニケーションのヒント(2件)
414	呼吸法と瞑想で心と身体をすこやかに！
415	困難事例のアセスメント(2件)
416	社会的活動としての話すこと・聴くこと(3件)
417	職場のメンタルヘルス(3件)
418	心肺蘇生法をマスターしよう(2件)
419	精神症状に合わせたかかわり方のヒント ほか41件
420	精神障がいをもつ人の地域生活を支える
421	知っているようで知らない感染看護(5件)
422	こころの元気を守る看護師向けセルフケア研修
423	ケアとパターンリズム
424	キャリアラダー研修
425	呼吸ケアの基礎知識について
426	形態機能学を活かした看護実践
427	看護師としての倫理的行動について
428	フィジカルアセスメント研修
429	看護診断研修
430	ステップⅠを対象としたプロセスレコード研修
431	家族介護教室での訪問看護
432	コーチングについて
433	看護師としての倫理的行動について
434	ファシリテーション研修
435	看護管理者としての実習への関わり方を考えよう
436	認知症予防と運動に関する講義とコグニサイズ演習

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
437	ステップ I を対象としたプロセスレコード研修
438	高齢者の看取りについて
439	呼吸療法に関する専門知識や技術を習得するための研修
440	質的情報を収集する際のファシリテーションについて
441	事例検討会におけるファシリテーション手法について
442	ファシリテーションの実践
443	初学者のための電子カルテ
444	ケアする人のためのセルフケアのつどい
445	卒後1年目を対象としたフィジカルアセスメント研修会
446	認知症と運動の関係・エンジョイ！コグニサイズ
447	基礎的な運動処方・認知症予防に役立つ運動を中心とした指導
448	新人助産師合同研修
449	助産師(中堅者)研修
450	医療従事者向け認知症対応力向上研修
451	看護職員認知症対応力向上研修
452	看護研究の基本ステップ
453	ハウツー看護研究(インタビューコース)
454	ハウツー看護研究(アンケートコース)
455	ハウツー看護研究(実験・計測コース)
456	看護研究指導者研修(全6回)
457	看護師のためのエンド・オブ・ライフケア研修—ELNEC-Jコカリキュラム看護師教育プログラム—
458	再考:看護技術—在宅看護での安全・安心な看護技術を考える—
459	新人看護師として働く卒業生のための集い
460	新卒看護職員研修の新任教育担当者育成フォローアップ講座(全3会場)
461	地区別新人職員研修新任教育担当者育成初回研修(全3会場)
462	中間管理職スキルアップ研修(全6回)
463	「健康教育の企画運営力の向上をめざして」～<生むぞクラス>の立ち上げから実践まで～
464	●●ヘルスリサーチセミナー～●●ヘルスクラウド～(16回)
465	リーダー保健師研修(5回)
466	医療機関の看護管理者に対する訪問看護研修
467	医療型障害児入所施設における研修(3回)
468	感染管理スキルアップ研修会(6回)
469	感染管理認定看護師教育課程
470	看護力再開発講習会(3回)
471	重症心身障害児についての研修
472	新人から中堅助産師のスキルアップ研修(5回)
473	要支援・要介護者のための介護予防運動プログラム(2回)
474	シミュレーション教育研修会
475	ポジショニング研修会
476	医療コミュニケーションワークショップ

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
477	高校1年生看護師体験セミナー
478	地元ナースカフェ
479	地元ナースフォーラム
480	地元ナースフォローアップ研修会
481	地元ナースブラッシュアップ研修会
482	母子保健コーディネーター人材養成研修会
483	キャリアアップ研修4件
484	介護職員等研修16件
485	感染管理認定看護師フォローアップ研修2件
486	緩和ケア フォローアップ研修 看護研究の取り組みに向けて
487	緩和ケア フォローアップ研修 交渉術を身につけ、コミュニケーションにいかそう
488	緩和ケア フォローアップ研修 更新審査に向けた情報提供
489	緩和ケア フォローアップ研修 事例検討・分析・実践と理論の統合・実践の評価
490	緩和ケア フォローアップ研修 事例分析
491	緩和ケア フォローアップ研修 審査更新に向けた準備
492	緩和ケア フォローアップ研修 東洋医学に基づくスキンタッチ・テーピングの技術
493	緩和ケア フォローアップ研修 非がん患者の緩和ケア
494	大学院公開講座：平成30年度診療報酬。会議報酬同時改定と対策
495	認知症看護 フォローアップ 事例研究に向けての勉強会
496	認知症看護 フォローアップ 事例分析
497	認知症看護 フォローアップ 認定更新審査に向けての取り組み
498	緩和ケアセミナー リンパ浮腫のケア
499	緩和ケアセミナー エンゼルメイク
500	認知症看護研修 現場に活かす認知症ケア
501	認知症看護研修 困難事例を通して学ぶ認知症看護
502	認知症看護研修 即実践、明日から活かせる認知症者のせん妄とBPSDの対応力強化研修
503	認知症看護研修 困難事例を通して学ぶ認知症看護
504	新人看護職員教育担当者研修 新人看護師研修体制
505	新人看護職員教育担当者研修 看護部理念と部署における新人看護職員に求める能力の明確化
506	新人看護職員教育担当者研修 成人学習に対するコーチング
507	新人看護職員教育担当者研修 リーダーシップを発揮するために
508	新人看護職員教育担当者研修 所属部署の新人看護職員研修計画と課題2回
509	新人看護職員教育担当者研修 教育担当者としての自己の課題
510	新人看護職員多施設合同研修 専門職業人としての必要な基本姿勢と態度
511	新人看護職員多施設合同研修 予約の技術・安全管理・感染防止の技術
512	新人看護職員多施設合同研修 安楽な体位とポジニング、ストレスマネジメント、症状・生体機能管理技術
513	新人看護職員多施設合同研修 症状・生体機能管理技術、救命救急処置とトリアージ
514	新人看護職員多施設合同研修 情報管理・看護過程
515	新人看護職員多施設合同研修 看護過程の展開
516	新人看護職員多施設合同研修 プレゼーションスキル

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
517	看護看護研究支援5回
518	看護職のための研究活用講座 問題解決思考・ロジカルシンキング
519	看護職のための研究活用講座 臨床における問題のとらえ方と研究
520	看護職のための研究活用講座 質的研究概論
521	看護職のための研究活用講座 質的研究の演習
522	看護職のための研究活用講座 質的研究の結果を量的研究に活かす方法
523	看護職のための研究活用講座 量的研究方法概論
524	看護職のための研究活用講座 質的研究の結果を活かした概念モデルの作成
525	看護職のための研究活用講座 質問票の作成
526	看護職のための研究活用講座 統計学の基礎
527	看護職のための研究活用講座 統計学の演習
528	支える側が支えられるとき～認知症の母が教えてくれこと
529	キネステイクで学ぶお互い楽になる介助法
530	ケアに携わる人が知っておきたい足と爪の機能と手入れ
531	●●で暮らす精神疾患を持つ人を地域で支えよう！
532	●●母子支援研究
533	外国人観光客や在日外国人に対する保健・医療・看護サービスを考える
534	看護職の心身緊張をほぐすリラクゼーション
535	救急救命センターに勤務する看護職の労働について
536	子どもと家族のトータルケア
537	摂食嚥下障害を有する人への看護
538	認知機能を高める看護援助方法を学ぼう
539	●●ナース支援研究会「動機づけ面接入門セミナーin ●● Follow up 研修
540	臨床で活かす看護・介護研究～ケアの質の向上を目指して～
541	シミュレーション研修1(フィジカルアセスメント:全2回)
542	シミュレーション研修2(静脈注射:全2回)
543	シミュレーション研修4(新生児蘇生法(NCPR)「専門コース」:全1回)
544	看護教員継続研修(全4回)
545	看護支援研究講座
546	看護実践を語る会(全6回)
547	実習指導者フォローアップ研修会
548	臨床看護研究計画書立案研修(全4回)
549	看護研究方法論講座
550	●●市立看護大学研究報告会
551	「病院と地域の看護師連携によるシミュレーション教育」
552	リカレント教育セミナー 施設内教育にインストラクショナルデザインを活かそう
553	看護研究支援セミナー「初心者のための看護研究」
554	看護師キャリア支援講習会 看護職としてのキャリアデザイン
555	臨床看護セミナー 看護のためのフィジカルアセスメント研修 ～根拠に基づいた看護実践に活かす～
556	臨床倫理学習会 事例検討で看護倫理を学ぼう

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
557	労働安全セミナー ～看護職のためのメンタルヘルス～ 保健管理現場において魅力的な健康支援
558	STOP！！メディケーションエラー
559	初めての血液透析・血液透析濾過
560	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル
561	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル
562	避けて通れない『認知症看護』
563	平成30年度診療報酬改定にみる看護管理者の役割とは
564	—これから人工呼吸器を扱う方や新人看護師の方へ— 初めての人工呼吸器 —基礎編—
565	—患者と看護職にやさしい— 固定チーム・デイパートナー方式
566	—評価者はレポートのここを見る！！— ファースト・セカンドレベル課題レポートの書き方
567	看護研究セミナー
568	看護教育に活かすルーブリック評価
569	リカレント学習講座 高めよう実践力！その人らしい生をささえる看護とは
570	看護国際フォーラム2018 つながる、ひろがるケアリングの輪 —専門職連携教育のこれから—
571	これならできる！動機づけ面接
572	がんプロセミナー(多職種連携で患者・家族の自己決定を支える)
573	「ケースとデータに基づく病院経営人材育成」プログラム新春シンポジウム
574	がん看護学教育国際セミナー「高齢がん患者のサポータティブケア」
575	未来がん医療プロフェッショナル養成プラン「ライフステージからみたがんサバイバーのQOL」
576	リフレクションの意義と具体化
577	認定看護管理者教育課程「サードレベル」
578	認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」
579	認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」
580	認定看護師教育課程「感染管理」
581	認知症の看護・介護からリハビリテーションまで
582	→2018地域(急性期・終末期・認知症・退院支援)
583	→サポート(急性期・終末期・認知症・退院支援)
584	→フォローアップ(急性期・終末期・認知症・退院支援)
585	地域ケアトレーニングプログラム2018
586	2018.10/13～10/14 得訓講座
587	2018.12.1 フットケア研修会
588	2018.5/12～5/13 得訓講座
589	2018.6.16 フットケア研修会
590	2018.9.15 フットケア研修会
591	2018.9.9 看護診断セミナー
592	2019.1/11～1/12 認知症看護力向上研修会
593	2019.2/9～2/10 得訓講座
594	2019.3.9 看護診断セミナー
595	看護学研究科公開講座「看護研究の基礎について」
596	臨床看護職支援プログラム講座

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
597	英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～
598	英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～
599	看護管理塾
600	在宅看護コンサルテーション
601	退院調整から地域へ～在宅療養コーディネーター・ナース養成研修と活動支援
602	認定看護管理者ファーストレベルプログラム
603	認定看護師教育課程～認知症看護コース～
604	認定看護師教育課程～不妊症看護コース～
605	認定看護師教育課程～訪問看護コース～
606	不妊症看護認定看護師ポストコース講座
607	文献検索～準備体操～
608	訪問看護スキルアップセミナー
609	⑬ノリフトケアコーディネーター養成講座
610	⑭認知症看護スキルアップセミナー
611	⑮きらきら訪問ナース育成者養成講座
612	⑯オータメイトで学ぶ訪問看護
613	⑰認知症看護対応力向上研修
614	⑱がん化学療法看護認定看護師スキルアップセミナー
615	⑲ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム
616	これからの看護職に期待すること
617	子どもを守る地域づくり～妊娠期からの切れ目のない支援を～
618	青年(学生)を取り巻く環境や青年期の特徴
619	Immunity in the Community: A Collaborative Success Providing Influenza Vaccine at School
620	これからの在宅医療・介護～地域の元気をつくる～
621	医療ケアを受ける外国人患者と家族の体験
622	高齢者の口腔機能とケアについて～いまさら聞けない知識の確認とアドバンスまで～
623	看護研究基礎セミナー 第1回 文献の読み方、探し方
624	看護研究基礎セミナー 第2回 倫理委員会申請に向けた研究計画書の書き方
625	看護研究基礎セミナー 第3回 事例を研究するー事例研究のまとめ方
626	セカンドリーダー研修「中堅リーダーに求められるチームリーダーとは」および「問題解決過程について」
627	ファーストリーダー研修「リーダーシップ研修」
628	実習指導者研修 「精神看護学実習の実際」
629	新人オリエンテーション 「ストレスと向き合い、やりがい感を見つけよう！」
630	全国助産師教育協議会研修会「シミュレーション教育」
631	看護職&介護職の就労支援講習会
632	今、改めて問い直そうー認定看護師に期待されていることと、できることー
633	認定看護師のためのスキルアップセミナー
634	様々な可能性にチャレンジしている卒業生・修了生たち～やりたいことをやってみよう～
635	理論を看護実践にどのように活かすか
636	BCPを踏まえた減災へ向けての組織的取り組み～人的・物的の備え～(看護師対象)

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
637	スタッフ育成に活用するコーチングの知識と実践(看護師対象)
638	スタッフ育成に活用するコーチングの知識と実践(看護師対象)
639	災害対応「いざという時に動けるワタシになるために」(看護師対象)
640	認知症高齢者の急変に対する気づきと対処(介護職・福祉職員向け)
641	認知症高齢者の急変に対する気づきと対処(看護職員向け)
642	はじめての看護研究
643	もう一度学びたい「看護過程」シリーズ①アセスメント
644	もう一度学びたい「看護過程」シリーズ②看護診断から看護計画
645	今、なぜ、ストレングスモデル? ～ストレングスの視点から精神科看護実践を見つめ直そう!～
646	母乳不足感 ～その現状と対応～
647	幼稚園・保育所に滞在する子どもが医療機関を受診する目安とは?
648	臨地実習指導のコツ ～理想の臨地実習指導者を目指そう!～
649	看護職のためのチームづくり研修会「学生や新人看護師の成長を促すための発問とは?」
650	●●関連施設・看護継続研修会「災害に強い病院について考えるー組織・人づくりー」
651	認定公開講座「口腔内の構造、構造と摂食嚥下障害」「口腔ケアの探求」
652	認定公開講座「食べる幸せへの支援の重要性と展望」
653	認定公開講座「神経・筋疾患による摂食嚥下障害」
654	認定公開講座「精神疾患及びその治療による摂食嚥下障害」「薬剤の管理及び服薬方法と摂食嚥下障害」
655	シナリオシミュレーションのプログラム作成
656	シミュレーション教育研修～デブリーフィングの実践～
657	基礎から学ぶシミュレーション研修
658	第14回リカレント教育:看護職に対しての統計分析の読み方・まとめ方
659	第14回リカレント教育:現場で役に立つ質的研究の進め方
660	第14回リカレント教育:量的研究の進め方
661	新生児蘇生法Sコース
662	急変に備える訪問看護の知識・技術 変化の予測と急変の対応
663	小児の訪問看護に携わる看護師のためのスキンケアのヒント
664	精神障害を持つ人の訪問看護の基本～生活と健康を看る視点
665	リカレント学習講座
666	2018年度認定看護師カリキュラム改正のあった3科目の授業公開
667	医療安全学:医療安全管理8回
668	脳卒中機能障害とその評価23回
669	臨床薬理学:薬理作用8回
670	Evidence Based Practiceの看護実践への導入 ～SRの重要性～
671	大学院「真に共にある看護とは パーシィ看護理論の実践と有用性の検証」
672	大学院 看護と仏教ースピリチュアルケアの必要と実際ー
673	第15回国際セミナー「アクティブラーニング」
674	第15回国際セミナー「ウロンゴン大学における看護教育:Science Medicine and Health, School of Nursing」
675	第15回国際セミナー「エクササイズと慢性疼痛 EBPIに基づいた多職種によるアプローチ」
676	看護研究 I 研究の基礎

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
677	看護研究Ⅱ 量的研究の基礎
678	看護研究Ⅲ 質的研究の基礎
679	研修会「脳卒中患者の排尿ケアを考える」
680	臨床助産学セミナー「アクティブバース」、「母乳育児支援の理論と実際」
681	シミュレーションディレクター養成プログラム フォローアップ研修
682	新人助産師研修 分娩期に遭遇する産婦対応と胎児胎盤娩出スキル
683	卒前教育から臨床へつなぐシミュレーション教育事例
684	第1回シミュレーション教育センター見学プログラム「シミュレーション教育の実際を学ぶ」
685	第1回看護シミュレーション教育指導者育成プログラム(基礎編)
686	第2回シミュレーション教育センター見学プログラム「シミュレーション教育の実際を学ぶ」
687	第3回シミュレーション教育センター見学プログラム「シミュレーション教育の実際・シナリオ作成と教育技法」
688	第3回看護シミュレーション教育スキルアップセミナー University of Hawaii THSSC シミュレーションワークショップ in AI Sim
689	第4回シミュレーション教育センター見学プログラム「シミュレーション教育の活用とファシリテーションスキル」
690	第4回看護シミュレーション教育スキルアップセミナー「今どきの教え方」
691	第5回シミュレーション教育センター見学プログラム「シミュレーション教育実際と学習環境整備」
692	訪問看護師シミュレーション・トレーニング フィジカルアセスメント(呼吸)
693	●●看護管理研究会
694	看護研究塾
695	看護師特定行為研修指導者講習会
696	指導者カンファレンス
697	臨地実習指導者研修セミナー
698	喀痰吸引等研修
699	どう切り抜けるか実習指導—医療の現場・教育の現場—
700	看護研究のためのエクセルセミナー
701	看護研究指導(施設A:5講座、施設B:5講座、施設C:6講座、施設D:4講座)
702	看護実践をブラッシュアップする
703	新人看護職員研修教育担当者研修
704	臨床指導者講習会(看護理論: 、 )
705	●●県看護協会第3支部看護研究指導
706	「呼吸・循環器系モニタリング研修会(応用編)」
707	「呼吸・循環器系モニタリング研修会(基礎編)」
708	「多職種の観察の視点を活かした支援者連携モデルの構築」研究成果発表会
709	「●●市民病院 看護研究研修」
710	アメリカにおけるNPの活動
711	医療安全の現状
712	すぐにでもできる！ナースのためのコーチング活用術
713	平成30年度看護職員研修事業「実習指導者講習会(40日間コース)」
714	現場で起きている問題を共有・解決する方法としての臨床研究
715	思春期保健ネットワーク会議「いまどきの学生のSNS利用状況と人間関係構築の方法」
716	思春期保健ネットワーク会議「学校、地域でともに性の多様性を生きる」

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
717	衝動性が高く自己解釈や操作性から約束ことを守れず、対応が困難な慢性期統合失調患者へのかかわり
718	退院支援・地域移行についての取り組み
719	怒りの衝動性が強く安定した対人関係を気づくことが困難な精神障がいを抱えて地域で暮らす方の援助
720	母親との共依存により、自傷行為や暴力行為があり入院を繰り返す女性患者
721	妄想の際ねん・増強を繰り返し、施設での対応が困難となった統合失調症患者への関わり
722	事例検討会
723	在宅看護の質を高めるために
724	実習指導に活かす経験型実習教育の考え方～学生が自身の経験をリフレクションできるための実習指導
725	問題解決型ワークショップ?ケアの現象少の背景にある課題を見出し課題解決のための思考のプロセスを学ぶ
726	在宅看護シミュレーション
727	あらためて看護の本質を考える
728	終末期ケアと意思決定支援
729	レベル研修(ケーススタディー)(対象:病院1,2年目スタッフ)
730	介護支援専門員研修Ⅰ(対象:ケアマネジャー)
731	介護支援専門員研修Ⅱ(対象:ケアマネジャー)
732	介護予防勉強会(対象:地域包括支援センター職員、ケアマネジャー)
733	高齢者介護のポイント(対象:薬局薬剤師、事務員)
734	在宅重症心身障害児へのレスパイトケアの取り組み(対象:スタッフ看護師)
735	重症心身障害児のケア「レスパイト事業開始にあたっての知識の整理」(対象:病院スタッフ)
736	小児外来における看護(対象:スタッフ看護師)
737	新任期保健師研修会(対象:新任期保健師)
738	子どもの緊急対応
739	子どもの病気と事故について
740	保険者の健康づくり計画の策定支援と評価
741	褥瘡予防
742	看護師ブラッシュアップコース「救急看護」認定看護師に学ぶ急変患者のフィジカルアセスメント
743	看護師ブラッシュアップコース 看護実践に役立つ家族看護学①
744	看護師ブラッシュアップコース 看護実践に役立つ家族看護学②
745	看護師ブラッシュアップコース 看護実践に役立つ家族看護学③
746	【●●市看護職能力向上・定着確保研修】Ⅰ准看護師コース「呼吸する」を援助するための基本のきほん 他 <<全10回>>
747	【●●市看護職能力向上・定着確保研修】Ⅱ離職復帰看護師コース 精神症状や薬物療法、社会制度の理解を踏まえたこころの看護 他 <<全4回>>
748	【●●市看護職能力向上・定着確保研修】Ⅲ看護管理者車座コース 管理者のための昔話で学ぶマネジメント 他 <<全2回>>
749	【●●市看護職能力向上・定着確保研修】Ⅳトピックス 小林麻央さんのブログから学ぶ看護理論 ～中範囲理論を中心として～ 他 <<全5回>>
750	【●●市看護職能力向上・定着確保研修】Ⅴ講演会 看護教育に生かすナラティブ・アプローチ ～臨地実習における語りの効用～
751	【新人看護職員教育プログラム】2年目に向けて
752	【新人看護職員教育プログラム】インシデントから学ぼう ストレスマネジメント
753	【新人看護職員教育プログラム】看護職員として必要な基本姿勢と態度について確認してみよう!
754	【新人看護職員教育プログラム】救命救急処置技術 ～急変時の対応～
755	【新人看護職員教育プログラム】呼吸・循環を整える技術①酸素吸入療法・吸引 ・ ②人工呼吸器の管理の基本のきほん

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座	
756	【新人看護職員教育プログラム】死亡時のケアに関する技術
757	【新人看護職員教育プログラム】症状・生体機能管理① もう一度バイタルサイン 副雑音を聴いてみよう、12誘導心電図をとってみよう
758	最新の低侵襲心臓治療
759	日本人の体格に合わせた最先端の心臓治療
760	吸引に関する講座
761	教えることの基本となるもの-実りある臨地実習に向けて-
762	コミュニティ・オブ・プラクティスー実践科学としての看護学に期待することー
763	オープンダイアローグ
764	統合失調症早期介入を目指した訪問看護セミナー(●●)
765	統合失調症早期介入を目指した訪問看護セミナー(●●)
766	統合失調症早期介入を目指した訪問看護セミナー(●●)
767	統合失調症早期介入を目指した訪問看護セミナー(●●)
768	アセスメントにおける暴力の視点「暴力の構造と心的外傷後ストレス障害(PTSD)の理解」
769	シンポジウム「保健・医療・福祉における多職種連携ー病院が地域に果たす役割:事例による有機的連携と実践を目指してー」
770	看護倫理(応用編)「倫理的視点で臨地活動を分析すると・・・」
771	看護倫理(基礎編)「看護倫理を考える」
772	研究方法セミナー「看護研究の具体的方法/方法決定のプロセスと文献検討」
773	研究方法セミナー「研究テーマの絞り込みと文献検討」
774	研究方法セミナー「研究結果のまとめ方とプレゼンテーション」
775	●●県看護協会再就業支援研修「フィジカルアセスメント研修」
776	潜在看護師復職支援講習
777	Nurse Practitioner Education and Practice in the US
778	看護基礎教育と家族看護
779	看護系大学における臨地実習指導
780	基礎看護学実習における実習のあり方
781	在宅における栄養ケア
782	在宅看護学教育と臨地実習 一本学の視点ー
783	実習指導を円滑にする学生とのコミュニケーション
784	親(大切な人)を亡くした子どもたちのグリーフケア
785	特別養護老人ホームの食事についてー嚥下困難者への対応と多職種連携ー
786	排泄ケアは、奥深〜い！！
787	老年期に発生しやすい摂食・嚥下障害
788	「今から最期までの意思決定支援」
789	慢性疾患の子どもの学校における支援
790	知っておきたいがん看護の専門性 ー新たながん対策と患者の生活を支えるスペシャリストナースー
791	ラダー教育
792	リエゾン看護について
793	看護理論と実践
794	研究倫理と研究指導
795	実習指導に関する教育研修

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

B. 看護職者等の専門職向け講座

Q18-B 看護職者等の専門職向け講座

796 透析室における看護実践

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
1	●●厚労第25回看護ゼミナール, 講演・運動指導「姿勢を正して健康維持」
2	少年少女バドミントン選手向け障害予防教室 in ●●市
3	転倒しそうな高齢者を見つけ出せ! - 安定した姿勢や動作のヒミツ -
4	平成30年度ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI
5	平成30年度●●市医師会学校医心の問題講演会「教室にいられない生徒の校内支援の現状と課題」
6	平成30年度●●市教育研究所 教育相談担当等研修会「教育相談の実際をシュミレートする」
7	平成30年度●●市立●●中学校小中合同生徒指導教育相談研修会「将来, 社会不適応が予想される子どもの現状と対応」
8	平成30年度●●市立●●小学校保健委員会「子どもの気になる行動や対応・支援について」
9	野球少年向け投球障害予防教室(5回)
10	特別支援学校における医療的ケアの考え方
11	患者・医療者交流コース(インテンシブコース)「がん医療の現状とがん患者・サバイバーのかかわり方」
12	介護老人福祉施設/特別養護老人ホームにおけるエンド・オブ・ライフケア(第34回ストレス学会)
13	高校教員との共同研究: 精神障がい者のレクリエーションスポーツに関する文献検討
14	性同一性障害(性別違和)の治療(対象: 当事者の親・PTA関係者)
15	健康フェスタin●●2018(2019年10月28日)
16	健康フェスタin●●2019腎臓を大切に!!(2019年3月2日)
17	市町村等担当者会議にて、自立支援型の地域ケア個別会議の意義についての研修
18	歯科衛生士を対象とした、自立支援型の地域ケア個別会議の意義についての研修
19	ケアの意味を見つめる事例研究会「ダメだと思ったら終わり」と話す患者との関わり」
20	ケアの意味を見つめる事例研究会「外来通院中の2型糖尿病・進行胃がん患者への看護ケア」
21	ピアサポート専門員養成研修
22	意図的なピアサポート研修会
23	家族ケア症例研究会「外来フォローアップ中のAYA世代がん患者における自立/自律を支える家族へのアプローチ ~親元を離れた進学にむけての成人移行期支援~」
24	家族ケア症例研究会「高度治療を希望して転院してきた患者とその家族へのケア~期待した治療効果が得られなかった場合に、入院を肯定的に捉えるには~」
25	家族ケア症例研究会「自宅で生活する短腸症候群を抱える児の家族ケア~IVH管理と生活環境改善を目指した家族への支援~」
26	家族ケア症例研究会「終末期の壮年女性患者が穏やかな最期を迎えるための家族への看護ケア」
27	家族ケア症例研究会「妊婦健診を受けていない未婚の母親へのケア~子どもにとっての安全な養育環境の模索~」
28	第26回シフラの会「小児皮膚の基礎」
29	第1回国際看護開発学ランチョンセミナー「文化のつぼ中国、ウイグル」
30	第2回国際看護開発学ランチョンセミナー「新疆ウイグル自治区における異文化医療/看護」
31	第3回国際看護開発学ランチョンセミナー「中国文化の紹介~上海, 延辺, 嘉?」
32	第4回国際看護開発学ランチョンセミナー「日本で働く外国人看護師/外国人看護師候補者が抱える問題」
33	第5回国際看護開発学ランチョンセミナー「LGBTの人々について社会的受容度」
34	①~⑦: 助産実習施設、関連施設の助産師へ
35	⑤: T-HOC 受講生
36	家族看護論 2コマ
37	災害支援・ボランティア 3コマ
38	助産概論 5コマ
39	助産診断・技術学 I 4コマ

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
40	助産診断・技術学Ⅱ 4コマ
41	助産診断・技術学演習Ⅰ 2コマ
42	大学院：看護管理学特論 2コマ
43	第20回●●継続看護研究集会「精神障がいをもつ人との共生社会の実現を目指した現状と課題」
44	管理栄養士国家試験対策リカレント講座：社会と環境
45	国際と地域
46	“ ” スペイン語 2コース
47	“ ” ポルトガル語 1コース
48	エビデンスに基づく公衆衛生計画立案(JICA研修) 1コース
49	公衆衛生活動による母子保健強化(JICA研修)英語 2コース
50	地域保健システム強化による感染症対策(JICA研修) 2コース
51	看護研究個別指導
52	日々の疑問を研究計画へ(初級実践編)ー看護研究にはじめて取り組む方のための演習ー
53	認定看護師教育課程がん化学療法看護分野認定審査対策セミナー(第2回)
54	認定看護師教育課程フォローアップセミナー(春季)
55	”NO”を気持ちよく言えるように
56	ママのこりほぐしストレッチ
57	ものの見方をちょっと変えると・・・気持ちが楽になる方法
58	子どもの発達段階に応じた関わり方
59	第18回地域包括ケア・フォーラムin●●(排泄ケアを考える)
60	知って安心産業保健制度～パパとママの健康を守るために
61	離乳食と子どもの食について
62	外部から依頼の「小児がんで子どもを亡くした家族の会」の事務局として、企画と今後起こりえるの家族会としての運営課題について専門的立場から説明し、企画運営を行った。
63	学部小児分野として外部依頼の「心臓病を守る会」のボランティア派遣にともなる事前学生へ疾患、生活、注意事項などの専門的知識の講義
64	●●ナースアクション×ナース専科/ナースプレス タイアップセミナー「●●県の周産期医療と助産師・看護師の活躍に期待されること」
65	県立●●高等学校 平成30年度保健講話「性と愛といのちのお話し ～あなたは大切な存在～」
66	高齢者と健康
67	第8回●●大学研究者支援講演会「LGBTを理解する～それぞれが自分らしく生きるために～」
68	平成30年度男女共同参画サポーター養成講座「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)を考える」
69	平成30年度●●高等学校保健講話「それぞれの自分らしさ～LGBTを通して考える～」
70	平成30年度●●市学校保健会保健主事部会研修会「LGBTについて理解を深める 学校での対応はどうあればいいのか」
71	老化に伴うこころとからだの変化と日常
72	乳幼児蘇生法・異物除去法、わらべ歌ベビーマッサージ法
73	被災地住民の健康講座ー高齢者・乳幼児のお口の健康
74	自分を大切にしておくつきあいのマナーについて
75	文献検索をどう活用するかー1つの方法、3つの基本、5つの応用
76	多職種連携
77	IPW総合課程
78	ケア空間をつくるコツ

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
79	シルバーカレッジ
80	チャレンジジュニア育成事業(夢のかけはし教室)
81	ランニング ジョギングのためのABC 身体、機能、動きのアドバイス
82	教員免許更新講習
83	県民の日 高校生学び“夢”プラン
84	子ども大学●●●●
85	社会福祉士実習指導者講習会
86	多職種連携基礎研修
87	認知症高齢者の家族の介護負担軽減のために
88	認定看護師教育課程
89	「アレルギーとは」看護学部オープンキャンパス模擬授業
90	「国内外における小児看護」看護学部オープンキャンパス模擬授業
91	「骨とは」看護学部オープンキャンパス模擬授業
92	「命の誕生と輝き」看護学部オープンキャンパス模擬授業
93	平成29年度 地域課題研究発表会
94	平成30年度 第9回 ●●地域看護研究発表会
95	FDセミナー「成績評価の客観性および厳格化について」
96	学生相談運営部会学内研修会「気になる学生を大学全体で上手に支えるために！」
97	研究倫理セミナー
98	図書館セミナー
99	大学改革セミナー「大学院シラバス2019年度版について」
100	大学改革セミナー「平成29年度と第2期中期計画期間の業務実績評価」「次期認証評価のキーワードとポイント」
101	第1回eラーニング講習会「eラーニング ことはじめ ー科目登録と受講者登録ー」
102	第2回eラーニング講習会「eラーニング 次の一歩 ～テストコースの作成演習～」
103	●●県立大学新入生大学生基礎力調査結果報告会
104	タッピングタッチでこころと体をリフレッシュ
105	楽しく・おいしく減塩しましょう(2件)
106	看護の仕事について(2件)
107	看護大学で学ぶ「看護技術」の授業 ほか33件
108	子どもの自己肯定感を育てる関わり方
109	子どもの自殺・自傷行為の理解と予防(2件)
110	精神症状に合わせたかかわり方のヒント(2件)
111	大学で学ぶこと(2件)
112	知って防ごう熱中症(2件)
113	地域で支えよう！子どもの成長発達と毎日の生活習慣
114	日常生活の中で運動を！
115	薬に関する四方山話(2件)
116	地域で支えよう！子どもの成長発達と毎日の生活習慣
117	思春期男子のこころとからだを理解しよう
118	知っておきたい！「女性のこころとからだ」

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
119	子育て支援員研修
120	ファミリーサポーター研修会
121	性の教育講演会
122	生活習慣病予防講座内の運動実践講座
123	高校生のためのキャリアデザイン講座(24件)
124	理学療法士を対象とした吸引技術研修会
125	教員免許状更新講習5件
126	「健康活動の輪」づくり始めませんか(全5回)
127	●●健康市民大学(前期12回:後期12回)
128	ブラジル人親子の健康交流会(全6回)
129	グラウンデッド・セオリー・アプローチ入門
130	看護実践を豊かにする現象学的研究の方法
131	人生100年時代, 治す医療から治る医療へ
132	多職種連携コンピテンシーをどのようにIPEやIPWに活用できるか?
133	障がい児支援講座
134	高校生のための公開講座「あなたはしっかり話を聴いているかな?」
135	高校生のための公開講座「メタファシリテーション(対話型ファシリテーション)~『村の課題は何ですか?』『〇〇がないことです』…それってホント?~」
136	高校生のための公開講座「楽しく学ぼう高齢者看護高齢者に優しくなれる疑似体験」
137	高校生のための公開講座「赤ちゃんってすごい!!~哺乳について考えてみよう~」
138	高校生のための公開講座「痛みとこころ」
139	高校生のための公開講座「同じ体勢ってつらいのです~“床ずれ”のメカニズムと予防~」
140	COPDで在宅酸素療法を行う方へのテレナーシングによる継続的看護
141	HAG Your Baby 育児支援プログラム
142	アスベスト看護相談室
143	ダウン症候群のよりよい生活環境検討会
144	●●子・サロン
145	高齢者と家族へ 思い出帳(メモリーブック)作りプロジェクト
146	子どもと家族中心のケア 子ども健康、知ろう、考えよう~子どもの健康を家族と考える学習・交流会
147	自分の体を知ろう・伝えよう
148	世代交流デイプログラム●●和みの会
149	赤ちゃんがやってくる
150	天使の保護者●●の会
151	天使の保護者●●の会:グリーンカウンセリング
152	よくわかるギャンブル依存症 ー本人のせいにならない回復・支援
153	アカデミック・インターンシップ 高校生の研究室訪問 「精神看護学で取り扱う内容」
154	高校生向け出前授業 模擬講義 「ストレスを乗り越えなりたい自分になっていこう」
155	大学見学 高校生向け模擬講義 「ストレスを乗り越えなりたい自分になっていこう」
156	「癒しのケア」~あなたの手のぬくもりで、心のぬくもりを伝えませんか~
157	高齢者の睡眠の特徴と睡眠マネジメント

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
158	認知症の人を知り、共に生きる
159	EAS(ブラジル人学校)での身体測定会
160	●●ふれあいまつり
161	●●フェスタにおける血圧測定および健康相談
162	筋力アップで健康づくり
163	自分のからだを知ろう ～●●健康測定会～
164	●●地区出前講座 ～知って安心 認知症のこと～
165	●●村生涯学習講座 ～からだどころのストレスケア！疲れを癒す(リンパの流れをつくろう!)体験会～
166	●●市●●地区健康講座 ～今から鍛えよう飲み込む力 元気で長生きは、飲み込む力から～
167	●●高校スーパーサイエンスハイスクール成果発表会
168	認知症サポーター養成講座
169	●●市民病院 新人研修
170	●●福祉グループ 新人職員研修
171	療養者とのコミュニケーション研修
172	喀痰吸引研修
173	がんとともに穏やかに生きるために
174	人を助ける仕事がしたい
175	ブックスタートボランティア養成講座
176	●●郷づくり協議会健康講演会
177	●●被災地健康学習会1
178	●●被災地支援(健康学習会2)
179	●●被災地支援(健康学習会3)
180	●●市ヘルスステーション事業 ●●丁目公民館 第8回母と子の健康測定会
181	●●市ヘルスステーション事業 ●●丁目公民館 第9回母と子の健康測定会
182	●●中学校性教育における講師派遣について
183	●●中学校性教育における講師派遣について
184	●●小学校教職員研修会
185	●●小学校保健学習会
186	●●館(バランスの取れた毎日の食事)
187	教員免許状更新講習
188	コウトリ塾「命の授業」
189	看護研究セミナー
190	ポルトガルの地域看護の現状について
191	●●市土曜スクール 小学生向け医療体験講座
192	動機づけ面接入門
193	看護理工学がもたらす最先端の看護
194	大学における学びの技法--- critical thinkingに基づいた文章の書き方
195	国保データヘルス計画指導「個別事業計画について助言」(対象:市職員)
196	在宅医療・介護連携推進事業における講演会(対象:近隣住民・関係者)
197	病気を予防し、健康を守る力を育む看護(対象:近隣市民)

Q18. 2018年度に看護系の学部・学科、大学院が企画・運営に関係して実施した公開講座の件数とテーマをご記入ください。

C. その他

Q18-C その他	
198	防災訓練「災害時要配慮者へのサポートのポイント」(対象:高校1年生)
199	幼児家庭教育学級「子どもの発達の特徴と家庭保育のポイント」(対象:乳幼児の保育者)
200	2月のHUS子育て支援カフェ
201	HUS子育て支援カフェ あそびのひろば
202	HUS子育て支援カフェ@大学祭ー命育む、食を育む
203	健康っていいねフェア
204	看護フェスタ2018in●●大学看護学部
205	チーム医療における専門職の役割と協働の実際
206	『笑顔』は心とからだのサプリメント
207	こころとコミュニケーション
208	こどもから学ぶ
209	こりの解消法あれこれ
210	みんなで楽しく歌いましょう
211	楽しくからだを動かす!
212	元気でいるための食べ方
213	高齢者の痩せは危険信号
214	心のセルフコントロール
215	唾液の力
216	認知症を防ぐ食事
217	避難所運営ゲーム(HUG)について
218	あなたとあなたの大切な人のために…知って得する!緩和ケア!!～自分らしく暮らすために～
219	あなたの血管を若く保つために～塩、取りすぎいませんか?～
220	がんのことを知ろう!考えよう!～乳がん・肺がん編～
221	食事で健康チェック!
222	“自分らしい人生”を支援するために～ケア従事者のための倫理と死生学入門～
223	こどもの急病時のホームケア講座
224	こどもの救急 耳より情報
225	介護予防から看取りまで続く本人・家族の意思決定支援
226	看護学入門
227	急変時対応ー急変が起こる前と後ー
228	健康の秘訣(高血圧とのつき合い方)
229	子どもの事故防止と救急処置～みんなの力で子どもを守ろう～
230	若年者の生活習慣病予防の重要性
231	女性の健康について
232	夏の学問体験講座「社会を動かす予防医学:顕微鏡よりもパンを選んだイギリス人」
233	冬の学問体験講座「看護学ことはじめ:看護の視点からコミュニケーションを考える」

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
1	ルーブリック評価入門～時短・ブレない・公平な評価方法～
2	教育の内部質保証 とは
3	●●大学の“現在”と未来 について～社会人ブランド力調査より～
4	ジグソー学習法入門
5	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ
6	プロジェクトマネジメント
7	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ
8	会議マネジメント
9	学習評価の基本
10	効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)
11	効果的なグループワークの進め方
12	第30回授業デザインワークショップ
13	第31回授業デザインワークショップ
14	eポートフォリオシステムを活用した看護学教育
15	moodle研修会(活用編)ー小テスト作成を中心に
16	ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ
17	禁煙について考える
18	授業デザイン・シラバス作成ワークショップ
19	柔軟な学事暦 クォーター制の導入について
20	●●大学におけるICT活用教育の歩みと展望
21	●●大学の教育 (新任教員FD研修会)
22	入学者選抜改革について
23	「日本医学教育評価機構の評価を受審した経験より」
24	桃太郎フォーラム
25	保健学研究科フォーラム
26	『ハラル食』ってなんだろう？
27	CBT実施状況(医師国家試験との関連)およびCBT問題作成についての全体説明
28	医学部研究戦略セミナー
29	医学部授業公開(5件)「早期体験学習(チュートリアル発表会)」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「医療管理学・診断学」、「母性看護学概論」
30	医学部倫理委員会 教育訓練講習会(年5回実施)
31	国家試験対策及び試験問題の作問に関するFD
32	情報セキュリティセミナー
33	平成30年度チュートリアル・PBLチュートリアルFD
34	平成30年度第2回産学連携・知的財産センターセミナー
35	英語による授業担当者のためのFD研修会 ※年3回実施
36	全学FD・SD研修・FDワークショップ パフォーマンス評価とルーブリック
37	平成30年度教育実践報告会
38	平成30年度全学FD研修会～新任教員を中心として～
39	ICEモデル アクティブラーニングの効果的なツール

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
40	アルバイト、就職に向けて知っておきたい労働法「ブラック企業に引っかからないために」
41	これがアクティブラーニング ●●大学の目指す学びについて
42	学生から見た教養教育と学びの空間(学修支援部門共催)
43	教学IRミニFD
44	教学IRミニFD
45	教職員向けAIMS講習会
46	出会いのレッスンとしての授業 アイスペイク入門 なぜ学生と学生を出会わせるのか?—実践報告その3—
47	新任職員研修
48	グローバル教育推進にかかるFD研修
49	グローバル教育推進にかかるFD研修
50	意見箱における授業等改善活動
51	授業改善のためのアンケート実施・分析・公表等
52	新任・転任教員等教育研修会
53	全学統一テーマ「アクティブラーニング」に基づく改善活動
54	平成30年度学生支援室FD・SD講演会「障害のある学生への合理的配慮」～制度改革により教職員に求められること～
55	グループワークの技法
56	ファシリテーション力養成道場
57	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ
58	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方-
59	次世代リーダー養成ゼミナール
60	新任教員のためのリフレクションセミナー
61	大学授業入門
62	能動的学修支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門
63	BEEFの活用について①
64	ハラスメントについて
65	共同研究等における秘密情報の取扱いについて
66	男女共同参画推進について
67	標準型TP作成セミナー
68	面接者セミナー
69	H29年度ベストティチャー賞受賞教員による公開授業1「医学英語Ⅰ」
70	H29年度ベストティチャー賞受賞教員による公開授業2「看護技術論Ⅳ」
71	H29年度ベストティチャー賞受賞教員による公開授業3「分子生物学基礎」
72	H29年度ベストティチャー賞受賞教員による公開授業4「成長・発達系」
73	研究倫理教育研修会1「研究者に求められる発表倫理～不正のない論文発表のために～」
74	研究倫理教育研修会2「研究者のための画像処理と施してはいけない画像処理」
75	●●大学医師臨床研修指導医講習会
76	少人数能動学習ワークショップ
77	新任教員FD研修会
78	米国でのTranslational Research環境～自らの遺伝子治療ベクター開発経験を振りかえって～

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
79	Explain Everyting研修会(●●キャンパス)
80	Moodle研修会(●●キャンパス)
81	教養育成科目「スタートアップセミナー」公开发表会
82	授業デザインワークショップ
83	新任教員研修
84	全国地域教育シンポジウム×全国コーディネーターサミット「地域・教育を共に学び共に創る」
85	第1回イブニングセミナー
86	第1回ランチオンセミナー「TOEICのデータからわかる●●大学の1年生の状況」
87	優良教育実践表彰公開審査会
88	平成30年度FDカンファレンス
89	平成30年度新任教員FD研修
90	カリキュラム・マップの構築に向けて
91	反転授業の導入の仕方と実践事例
92	2018年度研究倫理FD研修会
93	Garr Reynolds氏による特別講演「プレゼンテーション Zen」
94	SOGI(性指向・性自認)/LGBT+と大学
95	イギリス英語で聴く!ウィンチェスター大学の魅力と英国の大学における留学生獲得への取組
96	ボルドー大学の魅力:合併による組織変革の取組
97	英語で効果的に授業を行うために
98	学生支援FD
99	学生生活関係教職員研修会
100	情報セキュリティセミナー
101	全学TA研修会
102	発達障害の診断または傾向のある学生への支援
103	平成31年度学士課程教育改革の理念と実装について
104	なぜ大学改革が必要か/●●大学に期待すること
105	今、何をすべきか?20年後のTMDUを見据えて(2018年度全学FD/SD)
106	ハラスメント防止対策講習会
107	英語教育改革推進FD
108	学生支援推進セミナー「学生対応に関する教育支援セミナー」
109	学生支援推進セミナー「文武両道のユニバーシティの在り方～スタンフォード式 文武両道のススメ～」
110	学生生活支援審議会FD(第1回)
111	教育に関する教員FD
112	研究指導力向上セミナー「英語論文執筆セミナー」
113	研究倫理に関する研修会
114	効果的な参加型臨床実習の組み立て方 FD
115	修学上の合理的配慮提供について
116	全学教育FD
117	第12回「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
118	新任FD研修会(6/15)
119	全学FD研修会 学生対応研修会 実習科目等の合理的配慮を考える「実習・実技・実験における合理的配慮について」(3/7)
120	全学FD研修会「医学部医学科のディプロマポリシー到達度可視化の試み」「生きた講義を目指して」「学生の主体的な学習を促す試み」(9/27)
121	全学FD講演会 ダイバーシティセミナー「LGBTとは トランスジェンダーの学生への支援について」(6/21)
122	全学FD講演会「文系学生の主体的学習姿勢確立のための産官学連携、PBLおよびアクティブラーニング導入型演習授業の効果と課題」 「●●大学医学部におけるアクティブラーニング」(12/18)
123	他教員・職員・学生が納得する評価の在り方を模索する
124	「学修状況報告」の現状と活用について
125	「成績評価ガイドライン」の改訂に伴うシラバス作成支援
126	LGBT等の性辞任及び性的指向の多様性に関する研修会ならびに意見交換会
127	アクティブラーニングをどう捉えるか
128	ダイバーシティの観点から障害を考える:大学の進むべき道
129	高等学校でのアクティブラーニングの現状
130	合理的配慮について理解を深める
131	障がいのある学生のための合理的配慮の発展と課題について
132	情報セキュリティ基礎講習会 他
133	大学における学びのユニバーサルデザインの実践
134	●●大学メンタルヘルス後援会
135	分煙でまわりの人を守るか
136	大学全体で多数
137	学生の学びを支援する教育システムの構築をめざして
138	受験生に配慮した公平な入試を実施するために
139	Active Learning: Evidence Based Facilitation Strategies
140	Supervision Across Cultures: Building Effective Supervisory Relationships
141	Teaching in Englishワークショップ
142	プレゼンテーション入門
143	ルーブリック評価作成ワークショップ
144	ワークショップ「初めてのシラバス作成」
145	研修会「発達障害のある学生の理解と対応」
146	講演会「アクティブラーニングの正しい理解」
147	講演会「キャンパスにおけるハラスメントをとらえる視点と予防の重要性」～学生に対するハラスメント編
148	講演会「メンタルヘルスケアから健全な職場を作る」
149	講演会「学習評価の基本」
150	講演会「現代の学生理解 学生相談室から見る学生の悩みと成長」
151	改正著作権法講演会 今、著作権教育を考える
152	大学ガバナンスから見た教育改革～改革の意味と手順を問い直す～
153	平成30年度入試結果分析と次年度以降の入試の未来予測
154	医学教育について、看護教育について
155	医学部の国際化 タマサート大学(タイ王国)をケーススタディとして
156	組織のガバナンスとは

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
157	第112回医師国家試験の出題傾向変化と客観的問題の作成方法について
158	平成30年度Post-CC OSCE評価者技能標準化講習会
159	平成30年度共通試験OSCEに伴う学内評価者講習会
160	平成30年度臨床診断学実習に伴う指導標準化講習会
161	平成31年度科研費獲得に向けた学内説明会
162	臨床医学英語論文セミナー
163	充実した学生生活を過ごすためにー学生及び教員の意識の違いとそれに起因する問題への対応についてー
164	相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして
165	アラカルトFD研修会(テーマ:「本学学修支援システムの特徴と活用」)
166	教育改善FD研修会(テーマ:教学IRについて)
167	Project型学習(PBL)の必修化に向けて
168	グラフィックシラバスー授業内容を魅せるポンチ絵ーをつくるワークショップ
169	●●大学優秀教育賞受賞記念講演(第1部)
170	●●大学優秀教育賞受賞記念講演(第2部)
171	心の病を抱える学生の理解とその対応について
172	大学教育における教養教育の在り方
173	グローバル教育支援機構FD:アクティブラーニング推進等
174	グローバル教育支援機構FD:実践から考える英語による授業のポイント
175	ハラスメント研修会及び障がい学生支援研修会(H30.10.18(木)16:00~17:00) 看護系教員6名受講
176	第1回アドミッションFD公開セミナー:平成30年度入試動向の報告等」
177	第2回アドミッションFD公開セミナー:新学習指導要領の方向性と大学入学共通テストで問いたい力
178	第3回アドミッションFD公開セミナー:●●大学における面接及び口頭試問の実践から学ぼう
179	第3期中期目標に向けて
180	PROGテストの分析と活用
181	アクティブラーニングという授業哲学と授業方法
182	パフォーマンス評価とルーブリック
183	パフォーマンス評価の本質的な理解
184	学長と学生の懇談会
185	学長と大学院生の懇談会
186	大学改革支援研究会・公立大学に関する基礎研修
187	第31回全学SD・FD研修会
188	第39回IPUHSミーティング
189	第40回IPUHSミーティング
190	第41回IPUHSミーティング
191	大学のブランドカ-教育力で選ばれる大学になるためには-(SDと合同開催)
192	地域志向教育の今とこれから(SDと合同開催)
193	SPOD講師派遣事業「学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？」
194	外部資金獲得研修会「科研費獲得のための研修会」
195	クリック利用に関する研修

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局長と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
196	シラバス作成の考え方についての研修会
197	ハラスメント相談員研修会
198	科学研究費申請の説明会・研修会
199	次年度の科学研究費申請書の書き方説明会
200	新任教職員研修
201	人権研修会
202	大学における発達障害を持った学生の生活や学習支援についての研修会
203	データから見る●●大生の特徴
204	英語で授業を行うためのワークショップ
205	学生を授業に巻き込むための発問法
206	授業を育てる
207	障がいのある学生への授業支援
208	大学改革と内部質保証ー●●大学の取り組みー
209	「学習と評価が一体化したICEルーブリックの体験ー理論と実践ー
210	「新入生の不安を安心と期待に変えるには？」ー「初年次適応」教員がすべきことは何かを考えるー
211	学生の特性に応じたキャリア形成支援を考えるー本学雇用マッチングシステムの利用を通してー
212	高大接続改革が目指すものーその方向性と大学入試のこれからー
213	授業改善意見交換会
214	障がいのある方へのちょっとした手助けのためにーあいサポート運動の取り組みー
215	教育スキルの共有と伝承Ⅱー高等教育の転換、アクティブ・ラーニングー
216	教育スキルの共有と伝承ー私たちはいかに学生を育むのかー
217	AI(人工知能)について
218	ヒューマンサービスについて
219	悪徳商法の手口と対処法(若者編)
220	質的研究の論文指導や論文審査基準等について
221	不祥事防止や服務等について
222	看護学教育カリキュラム
223	講義・実習におけるルーブリックを用いた学習評価
224	大学講義における教える技術
225	教職協働による教育改善の重要性
226	行動科目を含む学習成果の可視化およびアセスメント・ポリシー
227	新・教養セミナーと今後の初年次教育改革の展望
228	内部質保証と学習成果の可視化:学習行動調査から見えること
229	FD活動促進事業報告会(2018.6.29)
230	ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ(2018.10.26)
231	ティーチング・ポートフォリオ作成セミナー(2018.8.10-12)
232	●●大学教育改革フォーラム「アクティブ・ラーナー育成に向けた『教・職・学』の協働」(2019.3.8)
233	高大接続の観点から見た大学教育改革(2018.6.25)
234	Moodleの活用法

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
235	授業改善PDCA のためのシラバスの書き方
236	よい質的研究論文とは リアリティに焦点をあてて
237	英語論文の書き方:日本人の弱点克服
238	大学教育における主体的な学びと学生エンゲージメント
239	BT賞受賞者による「選ばれる講義」の作り方
240	医学部教育分野別評価受審に向けた準備とポイント
241	学生の健康管理に関する動向と本学の健康管理における現状と課題
242	●●大学医学部の分野別認証評価の受審とActive Learningの実践
243	2018●●市立大学研究交流会
244	アクティブラーニングの視点から見た指導と評価の方法
245	キャンパスハラスメントの防止について～加害者も被害者も出さないために～
246	とある学長の生き様と研究歴
247	基幹ネットワークシステムの更新について
248	研究倫理とは:研究倫理審査の目的とポイント
249	●●大学の情報セキュリティ対策について
250	新カリの連携授業 その実施と課題
251	アクティブラーニングを促す学習環境研究会
252	授業の基本研修会
253	宿題プログラム活用研修会
254	「学ぶスキル」と「書くスキル」の教え方
255	なぜ「アクティブラーニン」なのか ー主体的・対話的・深い学びのために
256	学生の主体性はどうやって引き出すのか? どう育むのか? フューチャーセンターや地域教育の事例から
257	教育から学習へ 新しいパラダイムの意味 第2弾
258	社会の進歩と繁栄に貢献する人材育成について
259	障害者学生支援の現状と課題 ー●●大学の取り組みを通して
260	世界大学ランキングは活用できる「武器」である
261	大学生へのメンタルヘルス ー課題と対応についてー
262	脳科学に基づくコミュニケーション能力養成
263	色のバリアフリーについて考える ～色弱の基礎知識と配慮～
264	LGBT 学生支援と大学の組織的な取り組みを学ぶ
265	教育改革フォーラム 学士課程教育の国際化
266	医学教育における評価について
267	個人情報保護研修
268	授業デザインのポイント
269	障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応(SDと合同開催)
270	情報セキュリティ研修「主体的な情報資産の保護措置」
271	診療参加型臨床実習
272	FD研修
273	授業公開

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
274	授業評価
275	ブランドを築いた●●県人の経験に学ぶ(2回)
276	統合事業を立案しよう
277	確かな教育評価制度の構築に向けた、ルーブリックに関する基礎理解
278	リサーチマップの活用
279	機関リポジトリの運用
280	研究倫理
281	合理的配慮を必要とする学生に対する対応
282	選択型FD/SD 3年生のPROG結果報告会
283	選択型FD/SD DP可視化のためのPROGテスト活用方法
284	選択型FD/SD YFL FD/SDワークショップ
285	選択型FD/SD アンチ・ハラスメントについて
286	選択型FD/SD 科研費申請に向けた研究計画について
287	選択型FD/SD 学内情報システム活用FD/SD
288	全学FD/SD研修会(コンプライアンス、障害学生支援、教職協働ワークショップ)
289	ハラスメントのない大学を目指して(SDと合同開催)
290	ブランディング研修会(SDと合同開催)
291	科研費の獲得と研究倫理に関する研修会(SDと合同開催)
292	教育の内部質保証の取り組みー学修成果の可視化についてー(SDと合同開催)
293	教育者が知っておくべきたばこの真情報～96%の人が知らない、加熱式たばこと電子タバコの違いとは？～(SDと合同開催)
294	情報セキュリティ事件・事故への対応(SDと合同開催)
295	新任教職員研修会(SDと合同開催)
296	英語で実施されている講義ノウハウの共有
297	英語で実施されている集中講義を事例にした、授業の更なる質の向上について
298	学生指導とハラスメントの境目について
299	教養ゼミで実施されているオムニバス調査システムについて(教養ゼミのこれから)
300	教養ゼミ内容の平準化と次年度を見据えたノウハウの共有
301	科研費補助金応募について
302	学生満足度調査
303	授業改善通信
304	授業評価アンケート(前期・後期)
305	イブニングセミナー「がん患者の回復期口腔管理の重要性」
306	イブニングセミナー「回復期リハビリテーションにおける栄養とサルコペニア」
307	イブニングセミナー「尺度作成のプロセス」
308	教育ワークショップ「GPA制度の活用と大学における成績評価」
309	研究倫理・コンプライアンス研修会(新採教員対象)
310	アクティブラーニングの要素を含んだ授業設計と授業改善
311	FD関連学外研修報告、卒業研究ルーブリック評価について
312	アクティブラーニングとICT導入状況に関する調査、授業紹介

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
313	●●の星空、その魅力
314	港・観光と自然(シンポジウム)
315	『アドミニ』と『ファカルティ』—本当に足腰の強い大学であるために
316	ファシリテーターとしてどうするの? ~グループワークメソッドの基本~
317	学生FDとは
318	知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略
319	入試改革の現状
320	A-STEP説明会
321	研究者倫理
322	公立大学が果たすべき役割
323	今年度の健康診断とストレスチェックの結果から
324	入試概況の分析
325	学生による授業評価アンケート
326	教員による授業ピア・レビュー
327	教員研究会「高大接続改革を●●大学の文脈で紐解く」(SDと合同開催)
328	教員研究会「再生医療と倫理」
329	教員研究会「大学の特色を活かした<入試改革>と<学修成果の可視化>—大学入試改革と第3期認証評価を見据えて—」(SDと合同開催)
330	授業担当者自己点検
331	キリスト教文化研究センター公開セミナー「キリスト教と教育—聖書が教える愛」
332	学園・大学の当面する課題について
333	研究倫理に関する研修会
334	大学教育の質的維持向上への道
335	コンプライアンス研修会 全3回
336	シラバスの作り方について 全1回
337	ディープ・アクティブラーニングとその評価 全1回
338	科研費獲得に関する研修会 全5回
339	研究者等の倫理的配慮に関する研修会 全3回
340	私立大学等経常費補助金の概要について、アセスメントポリシーについて 全1回
341	授業研究カンファレンス 全2回
342	授業の進め方、授業評価に関するグループワーク
343	授業公開
344	2018年度6年目教員研修
345	2018年度●●大学新任教員研修
346	IR活用のヒント~教育・学生指導に関してどのようなデータを集め活用しているか~
347	ルーブリック評価入門~時短・ブレない・公平な評価方法~
348	驚くべき潜在記憶とビッグデータによるその可視化—誰もが持っている素晴らしい学習能力—
349	研究倫理審査申請のチェックポイント
350	成績評価の妥当性と信頼性の向上 —組織的な評価体制の構築に向けて—
351	「2025年に向けた大学入試を」を考える! FD

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
352	ハラスメント防止対策セミナー
353	高校と大学をつなぐFD/SD
354	高大社接続改革を取り巻く状況
355	第3期大学評価における自己点検・評価
356	教育機関へのクレームの傾向と望ましい関わり
357	障害者差別解消法に伴う学生支援(組織的・体制的)について
358	IRIについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
359	ハラスメントについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
360	経営財務の状況について(2018.4.2)(SDと合同開催)
361	研究ブランディングについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
362	私立大学等改革総合支援事業について(2018.9.5)(SDと合同開催)
363	私立大学等経営強化集中支援事業について(2018.9.5)(SDと合同開催)
364	就職キャリアについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
365	中期経営計画Ⅲ 平成30年度改定について(2018.4.2)(SDと合同開催)
366	中期経営計画Ⅳについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
367	平成30年度事業計画・平成29年度事業報告(2018.4.2)(SDと合同開催)
368	本学の現状と課題(2019.1.11)(SDと合同開催)
369	激変する学生をどう育てるのかー大学淘汰の時代に求められる学生育成の理念と方法、そして技術
370	身近な体験から教育者マインドを考える「学生指導で困ったこと、考えたこと」
371	「大学院生生活と学位論文執筆～理想の大学院生生活とは?～」
372	学生が選ぶグッドティーチング賞受賞者報告会
373	学生の不安心理の理解とその対応
374	論文審査を振り返って
375	医療福祉専門職(人)に求められるメディア・リテラシーの育成
376	学生の不安心理の理解とその対応
377	医療人教育者のためのワークショップ・アドバンス
378	医療人教育者のためのワークショップ
379	「医学教育分野別評価と医学教育改革-自己点検評価報告書作成と実施調査の概要-」
380	「出版社(Elsevier社)からみるアクセプトされる英語論文の書き方」
381	「第112回医師国家試験の出題傾向変化と客観的問題の作成方法について」
382	医学部入試の現状と今後の動向について
383	2018.5.11 看護診断研修会
384	2018.7.20 申請書作成の理論
385	2018.9.13 困難ケースと向き合う～相互作用と「言葉になる前の感覚」に焦点をあてて～
386	2019.3.20 アクティブラーニング入門編
387	学内研究会(教員報告・学生報告・研修事業発表・地域連携事例発表等)
388	研究倫理に関する研修会
389	文部科学省科学研究費申請に関する説明会
390	シラバス作成

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
391	医療コミュニケーション
392	各学年の学力を担保するための進級・卒業試験の在り方について
393	学部連携地域医療実習
394	初年次のコミュニケーション入門
395	初年次のチーム医療入門
396	初年次の地域医療実習
397	人権啓発講習会
398	●●教育部の教育について
399	“学び”を問い直す～評価の視点とキャンパスでの学び～
400	“見える”成績評価のために(1)
401	“見える”成績評価のために(2)
402	学修成果の可視化に必要な取り組みについて
403	建学の精神「生命の尊厳と隣人愛」
404	事例から学ぶ困難を抱えた学生の理解と支援
405	地域での取り組みを学びにつなげていくための方法
406	「タナーの臨床判断モデル」と教育実践のリフレクション
407	1年生が学ぶ「ヘルスアセスメント方法論」
408	EndNote講習会(初心者向け)
409	Faculty Development Short Course Attendance Record
410	PubMed もっと便利に使うガイダンス(動画配信)
411	Research Implementationを促す教育プログラムー臨床実習に焦点をあててー
412	カリキュラムに関する意見交換会(2019年度以降の看護学部カリキュラムについて)
413	クラスピアレビューについて 教員相互の授業参観の実施を成功させるためのヒント
414	●●ライブラリーガイダンス
415	高齢患者のトランジショナルケア
416	大学生の発達障害と合理的配慮
417	発達障害の特性がみられる看護学生への理解と支援
418	双方向型コミュニケーションツール「PF-NOTE」の体験講習会
419	大学生の発達障害について
420	防災講座
421	これからの大学教育に求められるもの～高大接続と大学入試改革(新入試制度)を考える～
422	大学の教育力を高めるには一生き残るための大学改革ー
423	授業評価アンケートの分析
424	模擬授業・授業実施報告
425	利益相反について
426	2018年度後期 ●●キャンパス公開研究授業合評会
427	2018年度前期 ●●キャンパス公開研究授業合評会
428	e-ポートフォリオ講習会
429	新任教員説明会

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
430	専任教員説明会
431	第1回FD/SD研修会(アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の可視化― 高等教育の質保証に向けて ―)
432	第2回FD/SD研修会(主体的な学修を促すシラバスとは 他3件)
433	アクティブラーニングの正しい理解
434	アクティブラーニング型授業を実践する
435	科研費 申請書作成講座 <審査員の視点から>
436	●●大学の取り組み ―主体的学修と卒業時の質保証の実現に向けて―
437	科学研究費助成事業の概要と獲得方法に関する講演会
438	研究倫理に関する研究会
439	●●大学を語る会(※SDと合同開催)
440	動物実験講習会
441	カリキュラム情報交換会
442	ソーシャルメディア時代の若者と生活
443	よく知って大いに活用しよう、e-ラーニング
444	学生・教学委員・学生委員・カリキュラム委員合同FD・SD
445	業務効率化のためのタイムマネジメント―理論と実践を学ぶ―
446	講師会
447	実習教育連絡会
448	新カリキュラムFD
449	大学院教育における成人教育学のあり方
450	入試分析検討会
451	「地域と共に歩む」～大学の生産性を高める工夫～
452	アカデミックポートフォリオ
453	キャリア教育～いかに学生に意識付けるか～
454	教育におけるICT活用推進について
455	新任教員等研修
456	模擬講義 授業評価の高い教員【教育】アクティブラーニング含む
457	SHAIN リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点 の未来予想図
458	UNIVASに関する取り組みと今後の展開
459	ベストティーチャー座談会
460	各学科による広報活動の紹介
461	若手教員(U-35)による授業力向上に寄与する講義アイデア
462	体験学習を取り入れた授業方法の考査 ～3・1・2弁当箱法を利用して～
463	アセスメント・ポリシーと成績評価について
464	これからのAIリテラシー教育のために
465	新任・新着任教員向けFD
466	電子教科書説明会
467	FD通信の発行(計2回)
468	アクティブ・ラーニングに関する研修会(計3回)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
469	教職員カフェ(計4回)
470	授業アンケート(2期間)の実施
471	授業公開(2期間)
472	新任教職員研修
473	学生の学びの評価とCP・DPルーブリックの作成方法とその位置づけ
474	研究不正への対応について
475	●●の発展のために(FD・SD共通)
476	大学教育に求められているもの(FD・SD共通)
477	大学教育の質保証、問われる大学の主体性ー●●大学の内部質保証システムをいかに構築するかー(FD・SD共通)
478	本学の財務概要について(FD・SD共通)
479	シラバス作成方法にかかる研修会(1回)
480	ルーブリック活用研修会(4回)
481	授業評価結果の変化～何が学生から評価されたのか?～(2回)
482	TAの資質の養成のためのFD 前期TAの改善点(反省点)から後期TAに向けての取り組みについて
483	アクティブラーニングの効果検証
484	アクティブラーニングの効果検証
485	ルーブリック評価入門
486	医療科学部 学生参加による授業評価の結果に基づく授業改善策の検討
487	医療科学部アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価について
488	授業改善を目的としたシラバス作成方法についてのFD
489	授業資料配信システム導入に伴う著作権の知識と対応を身につける
490	世界最大級の文献データベース Scopus講習会 基礎編・応用編
491	全学的な国際交流の更なる推進に向けて「歯学部における国際交流の現状と課題」(SDと合同開催)
492	臨床研究支援の現状と課題「医療大学で研究を推進するために必要なこととは」
493	2050年に向けたこれからの大学像ー2050年の世界を切り開く人物像ー
494	各学部の取組みを共有ー質保証の推進に向かってー
495	教育の質的向上を目指した学修成果の可視化に向けて
496	「科研費」の最近の動向について
497	アクティブラーニングの導入を考える
498	シラバスの書き方と教育方針について
499	授業中の逸脱行動に対する大学の対応について
500	成績システムActiveportalと教育SNS Mellyの解説
501	臨床研究法に関する研究と申請・審査について
502	コンプライアンス教育・研究倫理教育
503	ハラスメントにならない指導の仕方
504	同日:シラバス・ルーブリック等についての説明会
505	同日:研究成果報告会
506	「研究指導に役立つ研究倫理申請」
507	臨地実習での指導のあり方について事例検討

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
508	Moodl講習会(2回)
509	医療系大学の教職員に求められるエートス(講演・グループディスカッション)
510	新任教員FD
511	授業アンケート全学報告書の分析を用いた授業改善の状況について
512	授業形態に応じた評価方法の厳密化
513	がん治療における心血管毒性の病態と対策 ―Once-Cardiologyの役割―
514	超早期認知症治療薬のシーズ開発と前臨床試験における課題
515	2018年度 講演会「障がいのある学生の支援について」 発達障害を抱える人の世界を理解する
516	2018年度 全学FD研修会「授業公開」-各学科の教員が2週間に渡って各自の授業を公開し、レスポンスを得る-
517	実用統計講座
518	初年次教育と質問駆動型学習ハテナソン ●●大学の取り組み
519	アセスメントポリシーについて
520	教育の電子化について
521	教育開発室報告
522	アクティブ・ラーニング型授業の実践事例-社会保障法-
523	アクティブ・ラーニング型授業の実践事例-哲学の基礎 I -
524	アクティブ・ラーニング型授業の実践事例-歴史学入門演習A-
525	ゼミにおける文献の輪読を成功させるには? -LTDの手法を体験してみよう-
526	教育改善活動フォーラム
527	新任教育職員研修会
528	●●大生の特徴を知る～新入生アンケートから見える実像～
529	2億円事業のコンピテンシーを学ぶ
530	アクティブラーニングの教授法
531	アクティブラーニング型授業をデザインする
532	シラバス作成に関する研修会
533	学習評価の基本
534	楽しくわかるインターラクティブ講義の紹介-ICTを用いた反転学習とアクティブ・ラーニング-
535	アンガーマネジメント
536	大学におけるカリキュラムと授業の改善
537	「学生の学びを助ける授業をデザインする」
538	「わかった」を引き出すアクティブラーニング
539	アクティブラーニング実践(だれでもできる! グループワークのためのファシリテーション)
540	学習支援システムGoogle Classroomを利用した授業体験】
541	大人数講義法の基本
542	ループブック評価と活用について「講義と評価表の作成」
543	看護現場学「学ぶの促進のための内省と概念化」
544	研究倫理教育の一環としての講習会
545	ICT活用研修会「少し先ゆくエクセルの初歩編」
546	学習を成功に導くループブックをどのように作成し活用するのか。

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
547	1)研究倫理について 2)研究倫理審査の実際 3)コンプライアンス教育について
548	3つのポリシーの開発と一貫性構築手法
549	カリキュラム作成等
550	・第1回FD講演会「私の授業」
551	・第2回FD講演会「私の授業—国家試験への取り組み」
552	・第3回FD講演会「FD関連の外部講習会から学んだこと」
553	学生の不安心理の理解とその対応
554	授業評価結果分析・検討と授業改善、アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価、学修行動調査の分析結果と対応、決算書類の理解と財務分析
555	障害学生支援について、ティーチングポートフォリオ、シラバス作成要領の説明
556	●●記念講演会「●●先生と●●学園」
557	人権教育・ハラスメント防止研修会「教育現場におけるハラスメント」
558	双方向ライブ型オムニバス授業
559	大学・短大事業計画の進捗状況について
560	アクティブ・ラーニング研修会
561	アセスメント・ポリシーの運用と成績評価
562	シラバス作成方法について
563	マナバフォリオ研修会
564	外国語での授業法に関するFD研修会
565	専門課程における初年次教育
566	ハラスメント防止講座
567	【内部質保証】教職員の能力の保証と開発 — 教育評価を考える —
568	内部質保証】教育プログラムの点検・評価 — 教育研究活動の質と学生の学修成果 —
569	「高校教育と大学教育の接続について(大学入学者選抜改革の動向をふまえ)」
570	PROGテストの結果からみた「本学学生のジェネリックスキルの傾向と今後の指導について」～学習成果の可視化～
571	認証評価は今年度からどう変わるか — 自己点検評価と内部質保証 —
572	啐啄同時(そったくどうじ)の教育を目指して
573	情報セキュリティについて
574	大学を取り巻く環境変化と大学改革について
575	本学学生の……授業態度における問題点～ズバリ！その対応策を考える～
576	●●大学を語る会
577	グループワークの評価方法に関する研修会
578	平成30年度●●大学 医学教育・卒後教育ワークショップ「倫理・プロフェッショナリズム」
579	Glexa(E-learningシステム)活用に向けての講習会開催～Glexaを授業に活用しよう～
580	学生を惹きつける授業とは？
581	【多職種連携教育とシミュレーション教育法】第4回講演会「医学教育とシミュレーション」
582	【多職種連携教育とシミュレーション教育法】第5回講演会「医学教育における多職種連携教育」
583	【多職種連携教育とシミュレーション教育法】第6回講演会「多職種連携教育におけるIRの役割」
584	シミュレーション教育法講習会 (第1回～第4回)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
585	第7回 FD&SD「教育・研究集会」(SDと合同開催)
586	第8回 FD&SD「成人期発達障害の理解と対応」(SDと合同開催)
587	授業アンケート(前期・後期)
588	授業参観(前期・後期)
589	授業実践報告(通年)
590	●●コミュニケーションカード(通年)
591	保護者対象授業公開(11月)
592	多様化する学生への対応力を磨く
593	無意識に行ってしまうハラスメントを避けるために
594	学生満足度調査報告とグループワーク
595	教職員研究発表会ポスター発表
596	授業における評価の基本
597	授業における評価の実践
598	教務Webポータルシステム導入に伴う教職員向け説明会
599	平成30年度FD研修会「基礎教養と専門の接続」
600	「実践能力強化型チーム医療加速プログラム」の実践と評価
601	学生が主体的に学ぶための授業づくりについて考える
602	自己評価システムの操作方法について
603	達成度自己評価システムを活用した教育活動を考える
604	平成29年度ベストレクチャー賞受賞者による公開講義
605	2018年度創立記念行事
606	Cultivating wisdom : The place of liberal arts in the world today
607	Effective Feedback on Students' Work
608	EMI(教える側としての英語)6回/新任教員研修3回/ハラスメント防止研修4回
609	International Program and Provider Mobility: New Developments and Challenges
610	SharePoint Sessions : Teaching Methodology / SharePoint Sessions : Issues in our Classes
611	Using online tools to promote classroom participation
612	Waking up students creativity and interest
613	What shall we do about the 100-minute lessons?
614	カウンセリングセンターとともに考える学生支援 / 100分授業で何が変わるのか・変えられるのか
615	これからの時代における教養教育のあり方・教養教育の意義
616	言葉だけに依存しない授業とは? Designing Context-embedded & cognitively demanding instruction
617	教職員のためのアサーティブトレーニング(SDと合同開催)
618	医療従事者のストレスの実態と対応
619	医療人育成のための効果的な教授方法(看護学科・理学療法学科・整復医療トレーナー学科)
620	人間の身体機能(関節可動域・筋肉の働き)
621	20年先●●が生き残るために
622	当該学部における当面の評価法の改善に向けて
623	あたりまえ化のグローバル”●●大学のグローバル”を考える

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局長と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
624	学習・教育に関する達成目標の設定とその評価方法-これからのシラバスに要求されていること-
625	高大接続と大学改革:現状と展望
626	アクティブラーニングを促す授業デザイン ~初年次教育と教養教育~
627	発達障害について~“what we can do?” ~私たち教職員が初めに行くこと
628	教員・スタッフのためのマネジメント教育:組織課題の見える化
629	総合基礎科目・共通専門基礎科目と専門科目との連携
630	配慮が必要な学生への教育
631	学生の諸問題を共有する
632	「配慮を必要とする学生への支援の在り方」 今、何故大学でインクルーシブ教育なのか? ~高校全入時代の影響を受けた大学は今~
633	「配慮を必要とする学生への支援の在り方」 必要な支援とは何か ~支援する側、支援を受ける側それぞれの視点から~
634	B-net Learning 講習会
635	シラバスの作成方法について
636	FDワークショップ「私の教育実践」
637	FD講習会 ~教育力向上を目指すティーチングポートフォリオ~
638	公開授業
639	「専門的知識・活用力」「問題発見・解決力」を身につけるために必要な教育方法とは何か
640	次年度の5学部体制に向けたカリキュラムの履修指導の準備はできているか
641	専門的知識・活用力を身につけるために必要な教育方法とは何か
642	Active Learningの理解と導入 (教育実践力向上セミナー選択必修第1回)
643	ICTを活用した授業改善 (教育実践力向上セミナー選択必修第6回)
644	アカデミック・ライティングの指導法 (教育実践力向上セミナー選択必修第4回)
645	グラフィックシラバスの作成と活用法 (教育実践力向上セミナー選択必修第7回)
646	グループ形式による模擬授業実践講座 (教育実践力向上セミナー必修第4回)
647	ゼミナールにおける指導・運営事例の紹介 (教育実践力向上セミナー選択必修第3回)
648	学習意欲を向上させる授業設計と技法 (教育実践力向上セミナー選択必修第8回)
649	学生の主体的な学びを促す成績評価とルーブリック (教育実践力向上セミナー選択必修第2回)
650	●●大学でのFD活動報告について (全学FD・SDフォーラム)
651	授業設計・シラバスライティング (教育実践力向上セミナー必修第3回)
652	大人数教室における効果的な授業運営を考える (教育実践力向上セミナー選択必修第5回)
653	アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価に関するFD
654	学修効果を高めるシラバスの書き方
655	授業アンケート結果を踏まえた授業改善のFD
656	異所性脂肪蓄積(学術セミナー)
657	科研費の申請事例について
658	学生の自主性とやる気を引き出すために
659	教育評価におけるルーブリック評価法の理解と作成体験
660	授業参観
661	統合失調症を患う人々の身体的経験-A氏が体験した“主体の空白化”
662	Allにできること・できないこと

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
663	AP事業成果報告会 基調講演「AI時代の大学での学び」
664	LTD話し合い学習法の基礎と活用
665	キャリア教育・支援を「大学教育の日常」に埋めもどす
666	プレゼン力を高める講談の話術力
667	高大接続の視点からみたグローバル化の流れと大学教育
668	大学から職業への移行における課題
669	電子書籍入門
670	特色ある授業実践から学ぶ1
671	特色ある授業実践から学ぶ2
672	特色ある授業実践から学ぶ3
673	2018年度後期 ●●キャンパス公開研究授業合評会
674	2018年度前期 ●●キャンパス公開研究授業合評会
675	e-ポートフォリオ講習会
676	教育改革ICT戦略大会
677	新任教員説明会
678	専任教員説明会
679	ICT活用、授業の工夫と試験問題の作り方
680	学生の態度教育の必要性
681	教職員研修会
682	「英語化プロジェクトから学んだこと」—大社接続 社会が大学教育に期待していること—
683	「学生自身による学修のPDCAサイクルの確立 ～●●大学における教育改革に係る取組について～」
684	医療経営について 「なぜ医療に経営といった考え方が必要なのか」「医療経営、病院管理学といった学問について」
685	男女共同参画学「近代日本における女性解放の先駆者 —岸田俊子の人生と文学—」
686	男女共同参画学「女性と地方の未来への投資」
687	FD・SDシンポジウム「アセスメントポリシーの策定について」・情報セキュリティ講習会」
688	近年の高等教育政策の流れ—10年後、価値ある大学をめざして—
689	COC最終成果報告会
690	シラバス作成について
691	高等教育におけるactive learningのためのICT活用法～Moodleのエンドユーザー的使用法～
692	私立大学のガバナンスと財政課題について
693	●●学
694	本学の教職・学芸員センター教員による教育方法講習会
695	「実践能力の向上をめざした教育のあり方」能力評価の現状と課題、OSCEを用いて
696	FDフォーラム 「学習成果をどう把握・評価し、どう活用するのか?～本学の現状と課題～」
697	manabaを通じたe-learningの推進について
698	manaba講習会(前期)と(後期)
699	アセスメントポリシーを踏まえた成績評価に関する研修会
700	シラバスに関する講習会
701	リサーチウィークスポスターセッション

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
702	学習者中心アプローチに則る講義科目における効果的な双方向学習課題の開発
703	教育改革推進(学長裁量)経費予算による研究・開発の報告
704	効果的かつ効率的な反転授業法開発の取り組み
705	第一部<<基調講演>>『●●大学の改革について』
706	第二部<<教員向け>>『ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性検証に関するワークショップ』
707	著作権に関する講習会
708	ものの見方や感じ方を鍛える私の「俳句人生」コーチングとは何か
709	パフォーマンス課題を評価するためのルーブリック評価
710	3つのポリシーの実質化を目指した組織的な教育改善の取り組みについて
711	Moodle利用講習会
712	全学共通教育部主催講演会
713	大学教育の内部質保証とは何か-能力論・学習論・評価論の観点から-
714	平成29年度学長裁量経費採択者による報告
715	アセスメントポリシーについて
716	ハラスメントについて(パワハラ・セクハラ)
717	科研費の申請に関する説明会
718	学生指導について・平成29年度後期授業評価アンケートについて
719	授業評価アンケート結果を踏まえた授業改善
720	新任教員ミーティング
721	新任教職員対象研修会
722	アセスメント・ポリシーにかかる成績評価について
723	シラバス作成に関する講習会 2回
724	科研費獲得の方法とコツ
725	公開授業 5回
726	新任教員対象説明会-医療系学部・学科の教員について
727	全学合同検討会「学科課題シート」
728	教育の質向上に向けた内部質保証の取り組みを考える -さらなる学修成果可視化の実現に向けて-
729	夢実現に向けた学生に対する取り組みを考える -実就職率向上にむけた学科の役割-
730	大学におけるハラスメントと対策 (H30.9.11 SDとの合同研修会)
731	大学教育の質について
732	特性理解から自立をめざす支援へ (H30.7.5 SDとの合同研修会)
733	教育改革等事業助成報告会
734	第12回FD研修会「内部質保証について」「本学における内部質保証体制について」「第3期認証評価大学評価システムと自己点検・評価報告書の作成について」
735	第17回FDサロン「大学に課せられた『社会人基礎力養成』という人材育成」
736	平成30年度ハラスメント研修会「ハラスメント相談における初動対応や具体的な対応事例、発達障害やLGBTについて」
737	平成30年度学生支援センター教職員研修会「大学での自殺相談対応研修を受けてみよう」「自殺を考えている人に向き合うときの心構え」
738	平成31年度科研費公募要領等説明会及び科研費セミナー、研究倫理教育研修会
739	A-STEP機能検証事業ほかJST支援メニュー説明会
740	スタートアップゼミⅠ・Ⅱ

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
741	ゼミ・講義における無料インターネットサービスの活用
742	科目ルーブリックを作成するワークショップ
743	学生対応スキルを上げるロールプレイ研修
744	公的研究費の運営・管理に関する取組みについて
745	障がいのある学生支援について～発達障害のある学生の修学支援と就職にむけた支援について～
746	シラバス作成のガイドライン
747	大学教員に必要なリサーチマインド
748	未来の教育をかたちづくる高大地域連携～学生が社会で輝くために私たちはどんな課題を解決すべきか～
749	授業アンケート・授業の自己点検書・授業見学の実施(前・後期)
750	大学入試改革について
751	・～試験及び成績評価基準の考え方について～ ・前期の国家試験対策の状況報告と100%合格への取組み
752	・～他大学の教育方法の伝達～ ・～教育方法改善検討会～ 伝達講習内容を本学に取り入れるためどうすればよいか
753	・「●●大学のこれからの教育と実習施設について」 ・「国家試験100%合格の方法」
754	・2017年度 授業評価アンケート(自ら学ぶ意欲の向上)の高評価教員による講義方法の発表 ・10月開講のチーム医療論の概要と講義の進め方について
755	・2018年度チーム医療論を終えて見えてきた課題について今年度の課題点をもとに次年度の該当科目の改善についてグループワークする
756	・チーム医療論について ・チーム医療論各チームの課題発表と次年度の改善項目について
757	・リハビリテーション学科 厚生労働省にて検討中の理学療法士作業療法士カリキュラム検討の内容について ・看護学科 看護学教育コア・カリキュラムに関する報告研修
758	・学生が学習習慣を身に着けるための取組(休退学防止) ～学習低迷者への効果的な指導法～ ・看護学科・リハビリテーション学科の自己点検評価に関するFD研修
759	・研究活動における研究費不正行為防止に関する研修 ・科学研究費採択者から講演 研究内容や研究手法、科研費獲得の工夫等
760	・試験作問の作法について教授する ・2019年度卒業生(2期生)の国家試験対策について
761	・臨床実習で成長した学生への指導・臨床実習で躓いた学生への指導 ・臨床実習のサポートについて
762	FDレポート第12号発行
763	FD講習会開催
764	秋学期授業に関するアンケート実施
765	春学期授業に関するアンケート実施
766	春学期授業に関するアンケート実施結果公開
767	第10回アクティブ・ラーニング研究会開催
768	第11回アクティブ・ラーニング研究会開催
769	学生部FD「ジェンダー・セクシュアリティ研修会」「キャンパスハラスメント防止研修会」など 7件
770	教務部FD「卒業時の質保証」「AP学修支援プログラム」「AP事業の成果発信」 3件
771	就職部FD「2018年度上半期における就職市場(IS含む)動向について」など 3件
772	新任教員FD(12回開催)
773	精神面でサポートが必要な学生への対応 ～精神科における心理臨床の経験から～
774	3つのポリシーと学修成果の可視化について
775	共通教育懇談会へのジョイント企画「教室で『気になる学生』について」
776	授業での発声講座

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
777	大学評価及び内部質保証に関する説明会
778	第1回 Cafe FD
779	第2回 Cafe FD
780	シラバス作成に関する説明会
781	学生の不安心理の理解とその対応
782	平成30年度各キャンパスFD活動報告／平成30年度学生が選ぶグッドティーチング賞受賞者報告会
783	地域社会と連携したアクティブラーニングについて
784	精神的に不安定な学生に対する教育的配慮
785	育てたい学生像の言語化
786	パフォーマンス評価入門
787	大学教員のためのプレゼンテーション入門
788	ICT活用による授業改善の実践(SDと合同開催)
789	manab@IMUの積極的な活用に向けて(SDと合同開催)
790	「学修成果の評価検証方針及び基準」—適切な成績評価と質保証—(SDと合同開催)
791	シラバス作成について—授業方法等の留意点解説—(SDと合同開催)
792	●●大学の教育現状と今後の展望について
793	安全管理上の対応について～熱中症、アレルギー反応
794	学校における生徒、学生のメンタルサポート
795	救命救急講習
796	現代学生の理解と関わり方
797	『非常勤講師との連絡会』の開催
798	外部の研修会(教育改革ICT戦略大会 等)への参加
799	学生による授業評価アンケート
800	教員相互の授業参観(ピアレビュー)
801	『ねむり』に満足しているか? 日常生活を科学する大切さ～
802	Sun Vote の利用について
803	よりよい教育と研究につなげるために
804	科研費取得を目指した申請書の書き方のコツ
805	●●学園「ハラスメント講演会」
806	医学教育WS
807	医学教育分野別認証評価受審に関するFD&SD(2回)
808	新任教員教育FD
809	神経科学と機械学習
810	第112回医師国家試験の分析と第113回への対応に関するFD
811	平成30年度公的研究費について
812	平成30年度公的研究費に係る使用ルール等について
813	倫理審査申請システム説明会
814	臨床研究WS看護
815	臨床研究WS講習会

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

A. 全学主催のFD

全学主催のFD	
816	臨床研究WS統計
817	シラバス作成方法に係るFD研修会
818	科学研究費助成事業の概要と獲得方法に関する講演会
819	研究倫理に関する研究会
820	●●大学を語る会(SDと合同開催)
821	動物実験講習会
822	科学研究費助成事業の概要と獲得方法に関する講演会
823	研究倫理に関する研究会
824	●●大学を語る会(※SDと合同研修)
825	動物実験講習会
826	新学習指導要領と大学入試改革
827	海外危機管理セミナー
828	学生の意欲を向上させる大学教育とは～成功体験につながる学びに向けて～
829	教職課程探求シンポジウムーこれからの教員養成、資質・能力養成に応える教育の在り方を問う(教職FD)ー
830	効果的なシラバスとその作成について
831	第3回●●大学教職課程研究会ー教育実践報告会ー
832	著作権に関する講演会(著作権法の一部改正に伴い、教育機関に関連する内容について)
833	「学修成果の可視化」の実質化に向けて
834	見えないものを見るー学修成果の可視化について改めて考える
835	平成31年度シラバス作成の留意点
836	平成31年度科学研究費助成事業の公募等について(●●キャンパス)
837	平成31年度科学研究費助成事業の公募等について(●●キャンパス)
838	平成31年度科学研究費助成事業の公募等について(●●キャンパス)
839	何のためのアクティブラーニング？
840	看護学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方と運用
841	最新医療テクノロジーと看護研究のこれから
842	●●大学における教育の質の保証について
843	●●大学理解のために
844	2020年度大学センター試験に替わる試験制度および高校の指導要領改訂に伴う本学の取組み
845	eポートフォリオ・LMS(Learning Management System)の活用に関する研修
846	ハラスメント防止研修会
847	研究倫理審査に関する研修
848	困難事例への対応についてのグループワーク
849	大学校と病院間における配慮を要する学生の健康状態の情報共有の方法に関するグループワーク
850	医学教育ワークショップ

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
1	ルーブリック評価入門～時短・ブレない・公平な評価方法～
2	教育の内部質保証 とは
3	●●大学の“現在”と未来 について～社会人ブランド力調査より～
4	接遇研修
5	OJTの実践
6	SDC養成講座フォローアップセミナー
7	SDコーディネーター養成講座 in ●●
8	カリキュラム・マネジメント
9	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ
10	次世代リーダー養成ゼミナール_3回
11	次世代リーダー養成ゼミナール_開放講義_6回
12	職員のための講師養成講座
13	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ、Ⅱ、Ⅲ)_3回
14	アクティブラーニングについて協働で学ぶ
15	桃太郎フォーラム
16	●●大学自殺防止FD・SD研修会
17	障害のある学生に対する支援に関するFD・SD
18	ITスキルアップ研修
19	ビジネスマナー研修「接遇講座」
20	全学FD・SD研修・FDワークショップ パフォーマンス評価とルーブリック
21	ハラスメント防止講演会(50分)
22	新任職員研修会
23	接遇研修会(看護部)
24	放送大学受講研修(1学期)
25	放送大学受講研修(2学期)
26	平成30年度学生支援室FD・SD講演会「障害のある学生への合理的配慮」～制度改革により教職員に求められること～
27	アンプロフェッショナル学生に関するFD・SD研修会
28	教育方法改善に関するFD・SD研修「学修の評価」
29	教職員生涯学習講演会1「HPVワクチンとリスクコミュニケーション」
30	教職員生涯学習講演会2「グローバルヘルスにおける実践上の課題」
31	ハラスメント防止研修
32	女性キャリアアップセミナー
33	女性キャリアアップセミナー
34	大学に求められるガバナンスについて
35	大学マネジメント教職員の役割
36	経営力を高める研修(計6回)
37	危機管理に関する講習会
38	情報セキュリティ・個人情報保護研修会
39	今、何をすべきか～20年後の●●を見据えて

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
40	今、何をすべきか～20年後の●●を見据えて(2018年度全学FD/SD)
41	平成30年度情報セキュリティ研修会(9/11.9/21)
42	FD/SDサマーワークショップ
43	FD/SDスプリングワークショップ
44	コンケン大学(タイ王国)教員交流プログラム招へい教員による特別講義
45	セキュリティスキル養成講座
46	医工連携セミナー
47	一歩差がつく!情報検索データベース講習会
48	介助技術体験セミナー
49	学生特別支援室相談会
50	研究リーダー力向上支援セミナー
51	資料から見る成年後見制度の利用状況の変化
52	世界を照らすLED
53	大学のダイバーシティ推進と人材育成ー産業界からの期待
54	優秀な人材確保のためにーダイバーシティの観点から
55	大学全体で多数
56	Excelを用いたテキストデータ取扱講座
57	アドバイラストレータ研修
58	プレスリリース講座
59	会計実務研修
60	研究活動に関する不正防止研修
61	個人情報保護研修会
62	事務職員eラーニング利用研修
63	事務職員ビジネスライティング(Eメール)研修
64	事務職員英会話スキルアップ研修
65	事務職員海外語学研修
66	事務職員海外短期集中研修
67	簿記資格取得支援事業
68	改正著作権法講演会 今、著作権教育を考える
69	大学ガバナンスから見た教育改革～改革の意味と手順を問い直す～
70	IRから考え、IRを活かす
71	窓口対応職員向けSD研修会
72	大学改革の時代を突破する職員になる
73	階層別(部長・係長・中堅職員・新規採用職員)研修
74	教職協働で拓く高等教育の未来
75	語学研修(英語力向上、事務職員の海外研修)
76	公立大学協会による事務職員研修
77	実務系研修(OJTによる人材育成、コンプライアンス)
78	他大学との交流研修

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
79	コンプライアンス研修
80	メンタルヘルス研修会
81	交通安全講習会
82	財務会計事務出前講座
83	第1回ダイバーシティセミナー
84	第31回全学SD・FD研修会
85	第39回●●ミーティング
86	第40回●●ミーティング
87	第41回●●ミーティング
88	人権啓発・ハラスメント防止研修会「事例から考えるハラスメント」
89	IRの初歩(データを「情報」化する)
90	学生の特性に応じたキャリア形成支援を考える ー本学雇用マッチングシステムの利用を通してー
91	高大接続改革が目指すもの ーその方向性と大学入試のこれからー
92	障がいのある方へのちょっとした手助けのために ～あいサポート運動の取り組み～
93	教育スキルの共有と伝承Ⅱ ー高等教育の転換、アクティブ・ラーニングー
94	教育スキルの共有と伝承ー私たちはいかに学生を育むのかー
95	個人情報保護研修会
96	障害者雇用の現状としくみ
97	ハラスメント防止研修「事例で学ぶハラスメント対応」(2018.9.21)
98	共同研究セミナー「共同研究等に関する注意点や成果の取り扱い, 学内手続きにつて」2019.2.14)
99	高等教育に関する研修「2030-2040年を見据えた教育改革・大学改革の動向」(2018.8.31)
100	知財セミナー「研究活動における知的財産権の留意事項について」(2018.11.30)
101	平成30年度目標・計画に係る後期説明会「平成30年度後期の目標・計画について」(2018.9.20)
102	平成30年度目標・計画に係る前期説明会「平成30年度前期の目標・計画について」(2018.4.25)
103	教職員のための危機管理
104	大学運営説明会
105	大学改革の動向と公立大学のあり方
106	本学の現状と課題
107	コンプライアンス研修について
108	イラストレーター研修
109	キャンパスハラスメントの防止について
110	情報セキュリティ研修
111	働き方改革
112	FSD研修会 教教分離
113	新任職員研修
114	第1回法人職員研修
115	第2回法人職員研修
116	「7つの習慣」セミナー
117	あなたはAEDを使えますか? 自動対外式除細動器(AED)の重要性

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
118	ニュースリリースの書き方と読みやすい記事のまとめ方
119	パワーハラスメント防止研修
120	緩急活動と知財 大学研究者が将来出願するときのポイント
121	情報セキュリティ意識を高めるために 大学における情報セキュリティ対策
122	LGBT 学生支援と大学の組織的な取り組みを学ぶ
123	教育改革フォーラム 学士課程教育の国際化
124	在職者研修(3年目、4年目、7年目、8年目)
125	新規採用者研修
126	ACCESS研修
127	EXCEL研修
128	ハラスメント防止研修
129	メンタルヘルス研修
130	キャンパスライフの安全と充実について
131	最近の学生の状況と企業の新入社員の不満
132	授業料の無償化について
133	情報セキュリティの確保について
134	大学入学共通テストにおける英語認定試験の取り扱いについて
135	働き方改革関連法施行に向けた対応について
136	平成30年度全員参加型SD講習会 男女共同参画講演会
137	内部質保証システムの確立と効果的運用に向けて
138	大学改革の時代に事務職員はどのような能力が求められているか
139	選択型FD/SD 3年生のPROG結果報告会
140	選択型FD/SD DP可視化のためのPROGテスト活用方法
141	選択型FD/SD YFL FD/SDワークショップ
142	選択型FD/SD アンチ・ハラスメントについて
143	選択型FD/SD 科研費申請に向けた研究計画について
144	選択型FD/SD 学内情報システム活用FD/SD
145	全学FD/SD研修会(コンプライアンス、障害学生支援、教職協働ワークショップ)
146	公立大学の役割と地域貢献
147	自己点検評価について
148	いつでもどこでもだれにでも～必要な支援を受けられるためにすべきこと～
149	●●県における研究費の使用ルール・手順について
150	大学教職員のための著作権の基礎知識
151	公立大学にもとめられる人材育成—高度専門職人(プロフェッショナル)としての大学教員・大学職員—
152	『アドミニ』と『ファカルティ』—本当に足腰の強い大学であるために
153	知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略
154	公立大学が果たすべき役割
155	今年度の健康診断とストレスチェックの結果から
156	入試概況の分析

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
157	「ディスカバリー」プロフェッショナルな組織人として働くことの意識を持つ
158	「教職員に期待する『具眼考究』の実践」
159	「私学経営を担う大学職員とは」
160	「大学事務職員大改造論」
161	マインドフルネスの理解と実践により、集中力の向上・ストレス耐性強化等を図る
162	私学事業団での経験や課題を発表して共有し、キャリア形成に対する意識を高める
163	自己肯定感を高め、相互尊厳、相互信頼を築くコミュニケーション力を養う
164	大学教職員のための「7つの習慣」
165	評価者としての役割を認識し、公平で納得感の高い評価のためのポイントの理解を図る
166	法制執務に関する基礎知識を学習し、規則制定、改正等の実務遂行能力の向上を目指す
167	本学決算書の読み方・財務状況の正確な理解力を習得することにより、事務職員の経営管理能力向上を目指す
168	役職者として期待される役割・心構えを学ぶ
169	大学マネジメントに資するIR - ●●大学におけるIR活動 -
170	新学部改組について
171	●●大学との合同研修
172	評価機構受審にあたっての留意点や事務処理の在り方
173	みんなでつくる、ハラスメントのないキャンパスを
174	災害心理の基礎知識-西日本豪雨から2ヶ月 被災地からの学生を迎えるにあたって-
175	障がいがある学生への支援と学生支援センターの役割
176	創設者「●●」を知る
177	SWOT分析研修
178	ハラスメント研修会
179	国試教採就職等対策情報交換会 計11回
180	新教育課程について
181	大学における様々な学生支援についての研修
182	2018年度新入事務系職員オリエンテーション
183	コンプライアンス・研究倫理の講義・理解度テスト
184	信念対立で困っている学生を支援する方法～信念対立解明アプローチ入門～
185	人を惹きつける話し方
186	入学者の現状と背景分析
187	高大接続改革の動向と入試改革で取り組むべきこと
188	テーマ別研修(PCスキルアップ・コミュニケーションスキルアップ・仕事に活かせる統計学)
189	マスタープラン経営・財務報告会
190	法人を取り巻く環境・人事制度
191	個人情報保護について
192	●●の将来の創生に向けた考動
193	人権擁護に関する研修会
194	IRについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
195	ハラスメントについて(2018.9.5)(SDと合同開催)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
196	経営財務の状況について(2018.4.2)
197	研究ブランディングについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
198	私立大学等改革総合支援事業について(2018.9.5)(SDと合同開催)
199	私立大学等経営強化集中支援事業について(2018.9.5)(SDと合同開催)
200	就職キャリアについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
201	中期経営計画Ⅲ 平成30年度改定について(2018.4.2)
202	中期経営計画Ⅳについて(2018.9.5)(SDと合同開催)
203	平成30年度事業計画・平成29年度事業報告(2018.4.2)
204	本学の現状と課題(2019.1.11)
205	2020年高大接続改革に向けて～大学入試が変わる～
206	認証評価制度と大学の質保障 ～認証評価受審に向けて～
207	平成30年度自己点検評価の到達点と今後の展望
208	第20回日本のMayo Clinicをめざす会全体集会「最強のチームをつくるには」
209	第21回日本のMayo Clinicをめざす会全体集会「医療の質向上に向けた取り組み」
210	ハラスメント
211	研究費不正使用防止等
212	2018.8.28 エピベン及びAED講習会
213	2019.3.27 「ハラスメント防止」講習会
214	SD研修会「SDGsをどう大学経営に生かすのか」
215	事務総合職内定者研修会
216	新入職員講習会
217	部課長研修会(係長・主任研修会と交互に隔年で開催)
218	絵手紙の実践
219	国公立私立大学協会教務事務職員研修会報告
220	事務局研修報告
221	奨学金制度について
222	入試制度について
223	“学び”を問い直す～評価の視点とキャンパスでの学び～
224	教職員夏期研修会「人間らしい知性を豊かに育てる」
225	AED講習会
226	GSD研修(係長職以下職員向け)～あいさつの定着に向けて
227	ストレスのセルフケアに役立つ習慣とは
228	英語とコミュニケーションスキル
229	●●大教職員のための運動不足解消術
230	中間管理職研修～大学職員の意見交換会
231	特別な配慮を必要とする学生への支援
232	ストレスとうまく付き合う方法－教職員がいきいきと働くために－
233	より良い授業のための留意点(話し言葉に着目して)－図形並べ－
234	最近の学生の特徴と学生との接し方

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局長と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
235	授業の双方向を高める●●(●● University Mobile Clicker)の活用
236	新・伝える伝わる話し方 Part1 伝えるための基本、わかりやすい話し方
237	新・伝える伝わる話し方 Part2 聴き手を惹きつけ、飽きさせない話し方
238	新・伝える伝わる話し方 Part3 印象に残る授業を目指した、魅力ある話し方
239	相互理解を深めるコミュニケーション 相手の情報を受け止めるための「積極的傾聴法」
240	相互理解を深めるコミュニケーション—アサーション(自分も相手も大切に自己表現の方法)を学ぶ—
241	相手の立場に立って情報を伝えるカートラストウォーカー
242	manaba course2講習会
243	主任候補者研修(職員対象)
244	初期研修(職員対象)
245	情報セキュリティ講習会
246	職場のハラスメント防止セミナー
247	職場のメンタルタフネスセミナー
248	事務職員研修会(10月)
249	事務職員研修会(3月)
250	高大接続改革について ～入試選抜試験がどうなるの?～
251	「接遇・マナー」ステップアップ研修 大学・病院におけるコンプライアンス体制の徹底
252	大学における個人情報の取り扱いについて
253	コンプライアンス教育(営業秘密を含む)
254	ハラスメントについて
255	学生のメンタルヘルスについて
256	研究倫理について
257	障がい学生への合理的配慮について
258	SHAIN リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点 の未来予想図 (FDと共催)
259	UNIVASに関する取り組みと今後の展開 (FDと共催)
260	ベストティーチャー座談会 (FDと共催)
261	各学科による広報活動の紹介 (FDと共催)
262	若手教員(U-35)による授業力向上に寄与する講義アイデア (FDと共催)
263	体験学習を取り入れた授業方法の考査 ～3・1・2弁当箱法を利用して～ (FDと共催)
264	「職場におけるハラスメントを正しく理解する」～教職員間のパワハラ、モラハラを防ぎ、快適な職場づくり～
265	「職場環境改善」SD研修会
266	●●学院の発展のために(FD・SD共通)
267	大学教育に求められているもの(FD・SD共通)
268	大学教育の質保証、問われる大学の主体性—●●大学の内部質保証システムをいかに構築するか—(FD・SD共通)
269	本学の財務概要について(FD・SD共通)
270	アクションカード作成WS ～大規模地震発生時取るべき行動は～
271	学生の厚生補導に関するSD 学生相談室での相談内容と相談者の移り変わり、および教職員としての学生への対応方法について
272	教職協働で推進する大学改革 ～カリキュラム・マネジメント始動に向けて～

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
273	平成30年度医療科学部救急法講習
274	パワーハラスメント防止セミナー
275	よりよい睡眠のために
276	健康づくりのための社会関係資源(Social capital for Health Promotion)
277	大学入試・広報セミナー
278	キャンパスハラスメント最新事情ーこんな時どうする、事例で考えるー
279	平成30年度 後期大学方針説明会
280	平成30年度 大学方針説明会
281	スポーツスカラシップ生・特待生制度と効率的な奨学費の運用について
282	学修支援の取組みと効果検証について
283	高等教育を取り巻く諸情勢と今後の展望
284	専門職大学について
285	適正な人事計画のための情報整理について
286	労務管理について
287	ハラスメントにならない指導の仕方(FDと一緒に)
288	ハラスメントにならない指導の仕方(FDと一緒に)
289	大学教育の質保証とIR・EMの役割(管理職対象)
290	同日:シラバス・ルーブリック等についての説明会
291	「高大接続改革で教育はどう変わるか」
292	2020年大学入試が変わる。高校現場で始まっている教育改革の現状
293	ハラスメント防止研修会
294	評価者研修
295	BLSヘルスケアプロバイダー コース(多職種)
296	LGBTQに関する研修会
297	アルコールに関する研修会
298	ハートセイバーCPR AED(多職種)
299	医学教育研修会
300	医療安全管理者養成講習会
301	管理職研修会(新学長の「運営方針」報告会)
302	管理職研修会(働き方対策「障害者雇用、超過勤務時間の縮減と業務効率化」)
303	個人情報保護法に関する研修会
304	平成29年度決算報告会
305	平成30年度●●大学教育セミナー「本学における働き方改革についての問題意識を持った業務効率化の取り組み」
306	高大接続改革に係る入試方法の見直しに向けて
307	内部室保証システムの構築をめざしてー自己点検評価報告書における「問題点」の共有、そして今後の対応について
308	認証評価の实地調査に向けて
309	本学の教育改革と私立大学等改革総合支援事業
310	「中堅職員研修・マネージメント研修」フォローアップ研修
311	IT研修 Microsoft Access 応用

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
312	アイデアがサクサク出る会議のやり方
313	チームの力を最大化するコーチング・コミュニケーション講座
314	ハラスメント防止講演会
315	ビジネス人間力(基礎)
316	マネージメント研修
317	外部派遣研修
318	新入事務職員業務研修
319	新入職員研修(接遇・ビジネスマナー)
320	中堅職員研修
321	評価者再訓練
322	⑬働き方改革実践セミナー ～部下を鍛える承認力で信頼関係構築をして強い組織を作る～
323	⑭PCスキル・マナー等
324	情報セキュリティ研修
325	次年度入試について
326	●●大学の3つのポリシーに基づくPDCAサイクルの現状と課題
327	学修評価の基礎とルーブリック作成
328	ハラスメント研修 ～大学内におけるコンプライアンスの重要性～
329	決算書(計算書類)の見方、評価の仕方 一敵を知り、己を知れば百戦危ふからず、財務情報も又しかりー
330	アンガーマネージメント
331	人権をめぐる近年の動向
332	グループ討議
333	接客、クレーム対応、ロジカルライティング研修
334	ハラスメント研修
335	教職協働の推進
336	本学における地域貢献の過去・現在・未来
337	1)ハラスメントについて 2)私立大学等経営強化集中支援事業 ～決算書の読み方および本学の財務状況と分析～ 3)原点を原典に学ぶ～ヨハネ福音書4章から～
338	ハラスメント研修「多様な性のあり方について考える～LGBT等～研修」
339	広報研修「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」
340	ハラスメント-グレーゾーンをどう考えるか、どう対処するか
341	授業評価結果分析・検討と授業改善、アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価、学修行動調査の分析結果と対応、決算書類の理解と財務分析
342	障害学生支援について、ティーチングポートフォリオ、シラバス作成要領の説明
343	●●記念講演会「●●先生と●●学園」
344	人権教育・ハラスメント防止研修会「教育現場におけるハラスメント」
345	双方向ライブ型オムニバス授業
346	大学・短大事業計画の進捗状況について
347	ハラスメント防止研修会
348	経営・財務状況の把握・分析についてのSD研修
349	現代学生の理解と関わり方
350	人権教育研修会

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
351	ハラスメント防止講座
352	新入職員研修
353	「ハラスメント防止研修会」(専門家によるハラスメント防止のための研修会)
354	「メンタルヘルス・メンタルタフネス講習会」(管理者監督対象の産業医によるメンタルヘルスケアのため)
355	「幹部者研修」(教学マネジメントの観点から本学の将来計画や課題、高等教育に関する国の施策・動向等) ※4月.6月.8月.11月 全4回開催
356	「管理職者研修会」(部下育成)
357	「健康づくり・健康管理講習会」(産業医による健康管理講習)
358	「合同SD研修会」(教学マネジメント、大学改革等に関連するSD講演会)
359	「合同SD研修会」(財務状況・経営改善計画への取組状況等について、中長期計画の進捗状況の報告)
360	「合同SD研修会」(職員中心の業務領域を超えた知見の共有と知識の共有)
361	「対人対応力向上研修会」(外部・学生に対する基本的マナー及びコミュニケーションスキルの向上)
362	「防災関連教育」(平成30年度個別訓練)
363	「防災関連教育」(平成30年度総合防災訓練)
364	「新しいブランディング戦略とその方法」
365	本学園の財政状況と補助金交付状況
366	情報セキュリティについて
367	大学を取り巻く環境変化と大学改革について
368	第24回事務職員研修会
369	第25回事務職員研修会
370	●●大学を語る会
371	SDGsについて、障がい者差別解消法施行後に大学に求められる対応と課題について
372	ハラスメント防止のために
373	リフレクションを通じた授業改善
374	海外研修・海外語学研修について、コーオペ実習について
375	各学部の地域連携の取り組みについて、サービスラーニングについて
376	公的研究費のコンプライアンス研修会
377	国際交流・海外学会引率・劉格・海外語学研修等における危機管理について
378	創造性教育について
379	平成30年度基本方針について
380	SD研修の意義と求められる事務職員
381	キャンパスプランの学修支援への効果的活用について
382	学生支援のあるべき姿について
383	教務的視点から見た大学設置基準と厚労省資格の関係について
384	内部質保証に資するIR活動の展望
385	学ばせる大学へ～●●大学の挑戦～
386	ハラスメント啓発講習会
387	メンタルヘルセルフケア研修
388	情報リテラシー研修【管理職以上対象コース】
389	情報リテラシー研修【全教職員対象コース】

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
390	●●警察本部および近畿管区警察局による情報セキュリティ研修
391	第14回全体集会「学校法人●●大学としての成長」
392	平成30年度コンプライアンス研修
393	ハラスメント研修会
394	学修状況調査結果報告会
395	新しいブランディング戦略とその方法
396	認証評価システムと大学教育における質保証について
397	2018年度夏季SDプログラム
398	2018年度大学職員共同研修プログラム ビジネスマナー研修(基礎編)
399	●●大学SDフォーラム
400	SDフォーラム
401	管理職研修
402	経営方針及び各校園・事務局運営方針説明会
403	新規採用事務職員研修
404	第14回事務職員研修会
405	第51回信任教職員研修会
406	平成30年度夏季職員全体研修「建学の精神と学園史の理解」
407	平成30年度初任者研修会
408	アカデミックハラスメントに関する研修会
409	IR研修
410	イエズス会四校合同研修会
411	インドサービスラーニング研修
412	カトリック学校法人リーダー研修会
413	リールカトリック大学研修
414	職員英語能力向上研修
415	新入職員研修
416	大学基準協会スタディ・プログラム研修
417	東南アジア・東アジア カトリック大学連盟研修
418	●●大学合同研修
419	●●大学大学院薬学研究科とその運営について
420	「見える化」「見せる化」情報共有会(全3回)
421	学習・教育に関する達成目標の設定とその評価方法-これからのシラバスに要求されていること-
422	高大接続と大学改革:現状と展望
423	教職協働によるクリエイティブチームの作り方 ～入試改革・教育改革・組織改革～
424	コンプライアンス研修
425	2040年に向けた高等教育の将来構想と本学がこれから取り組むべきこと/本学がおかれている経営状況の共有とその対策を考える
426	現行の教育方法、教育評価の課題と新学部に向けた改善プランについて
427	中教審ブランドデザイン答申後の行方/IR データを活用した自己点検評価
428	不祥事発生時の広報対応(マスコミ対応)について

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
429	未来の年表～人口減少日本で起きること～
430	「思考」の方法を学ぶ(教育実践力向上セミナー職員の一部第3回)
431	●●大学と高等教育の現在地・データから見る本学学生の特徴(教育実践力向上セミナー必修第2回)
432	●●大学の入職者に求められる基礎知識 (教育実践力向上セミナー必修第1回)
433	2019年度大学運営に関する基本方針について・高等教育の負担軽減(高等教育無償化制度)の具体的な方策について
434	科学研究費補助金について
435	情報モラル・セキュリティについて(FD・SD)
436	LGBTから考えるキャンパス環境改善
437	manaba course2講習会
438	主任候補者研修(職員対象)
439	初期研修(職員対象)
440	情報セキュリティ講習会
441	職場のハラスメント防止セミナー
442	職場のメンタルタフネスセミナー
443	ハラスメント防止講演会
444	日常業務における「著作権」の落とし穴
445	ビジネスマナー
446	救命講習入門コース
447	●●市●●エリア等の発展に向けた相互連携協議会SD研修会
448	教職員向けハラスメント研修会
449	近年の高等教育政策の流れー10年後、価値ある大学をめざしてー
450	「2020年4月大学敷地内禁煙に向けて」タバコのこと本当に知っていますか？
451	3つのポリシーに基づく大学の取り組みの自己点検・評価と内部質保証について
452	外部研修参加者による報告会
453	時代に選ばれる学園になるコツ5
454	就業規則から学校会計の基本①
455	就業規則から学校会計の基本②
456	就業規則から学校会計の基本③
457	就業規則から学校会計の基本④
458	テーマ別発表 (a)専門職大学とは何か (b)チーム学校とは何か
459	学校会計の基本と財務
460	教育職員にSDが必要とされる背景について
461	高大連携 地域連携の優秀企画の発表
462	大学の機能強化と国際化推進
463	第1期中期計画
464	附属図書館の「ビブリオバトルの推進」
465	ハラスメント相談員研修
466	リサーチウィークスポスターセッション
467	ロジカルシンキング研修(書記対象)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局長と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
468	改正法令研修
469	障害のある方との仕事の仕方
470	新人研修
471	新任管理職マネジメント研修
472	第一部<<基調講演>>『●●大学の改革について』
473	第二部<<教員向け>>『ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性検証に関するワークショップ』
474	中堅職員研修
475	面談スキル向上研修
476	問題解決ファシリテーション研修(役職者対象)
477	学校現場におけるハラスメント対策『タイムマネジメント研修』LMC 研修 vol.1 リーダーシップ
478	学修成果のアセスメント
479	教育の質の保証と情報公開
480	薬学から学ぶ大学運営
481	キャリア研修
482	学生指導について
483	新任教職員対象研修会
484	新任職員研修
485	大学業務についてについて
486	大学行政管理学会参加報告会
487	評価者研修
488	予算・施設について
489	教育の質向上に向けた内部質保証の取り組みを考える -さらなる学修成果可視化の実現に向けて-
490	夢実現に向けた学生に対する取り組みを考える -実就職率向上にむけた学科の役割-
491	科学研究費補助金について (H31.2.15)
492	人事評価研修会 (H31.2.26)
493	大学の会計について(基本編) (H30.12.5)
494	大学の会計について(実務編) (H30.12.25)
495	ハラスメント予防対策
496	教職協働による新たなアクティブ・ラーニングを目指して
497	A-STEP機能検証事業ほかJST支援メニュー説明会
498	スタートアップゼミⅠ・Ⅱ
499	ゼミ・講義における無料インターネットサービスの活用
500	科目ルーブリックを作成するワークショップ
501	学生対応スキルを上げるロールプレイ研修
502	公的研究費の運営・管理に関する取組みについて
503	障がいのある学生支援について～発達障害のある学生の修学支援と就職にむけた支援について～
504	平成30年度新任教職員研修会 学園の概要ガイダンス
505	重視される内部質保証及びその実質化について
506	コミュニケーション研修の実施報告

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
507	ハラスメントに対する相談への対応
508	学園のIT状況
509	基本金について
510	個人調書のチェックポイント
511	高等教育を取り巻く現状
512	仕事と問題解決についてー問題解決型の組織風土づくりー
513	私学大学事務組織実態調査報告
514	消費税について
515	大学の募集環境についてー2018年ど進研もし6月志望動向よりー
516	短期大学就職状況と課題
517	幼児教育無償化と高等教育無償化
518	・「●●大学のこれからの教育と実習施設について」 ・「国家試験100%合格の方法」
519	・【学生募集】2019年度オープンキャンパスに向けて ・業務改善(超勤時間削減)
520	・2018年度の入試広報総括と2019年度の入試広報について ・卒業式の総括次年度に向けての対応
521	・2018年度国家試験対策の総括について ・私立大学等改革総合支援事業において、IRはどう位置づけられているか
522	・2019年度 学生便覧更新についての検討会 ・超勤対策、業務改善
523	・リハビリテーション学科 厚生労働省にて検討中の理学療法士作業療法士カリキュラム検討の内容について ・看護学科 看護学教育コア・カリキュラムに関する報告研修
524	・自己点検評価【実地対策】 設置認可申請時から完成年次までの大学活動の検証 ・各部署の数値データの調査分析発表
525	・●●大学HPについて ・2018年度の就職状況の報告
526	・新入職員・若手職員による活動報告 ・ふれあいグループの就職支援状況と今後の課題について
527	教育改革と同志社の今後
528	事務室業務の効率化
529	働き方改革～生産性を高めて何をする？～
530	学生部SD「ジェンダー・セクシュアリティ研修会」「キャンパスハラスメント防止研修会」など 7件
531	教務部SD「AP学修支援プログラム」「教員スタンダードガイドブック編集」 2件
532	就職部FD「2018年度上半期における就職市場(IS含む)動向について」など 3件
533	新任教員SD(12回開催)
534	入試部SD「大学入試センター試験業務説明会」など 5件
535	経営計画及び財務状況等の説明会
536	大きな変化の時 文科省の考え方～～～～延命措置はしない
537	大学存亡のとき 2018年問題は私たちの問題
538	地域社会と連携したアクティブラーニングについて
539	交通安全に関する意識の向上と安全運行の徹底
540	法人の全体像について
541	●●大学研究倫理委員会の活動状況と今後の課題
542	SDGs(持続可能な開発目標)と最先端技術を活用した地域連携戦略-地域から愛され続ける大学になる為に-
543	具体的な事例から考える地方小規模大学の戦略

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

B. 全学主催のSD

全学主催のSD	
544	『教育改革推進支援事業報告会』実施
545	研修会『大学におけるハラスメント』開催
546	研修会『大学における教員養成教育の在り方』開催
547	教職員のための著作権入門セミナー:著作権の基本と35条改正について
548	精神面でサポートが必要な学生への対応
549	医学教育分野別認証評価受審に関するFD&SD(2回)
550	2030年に向けた私立大学の競争戦略 ~本学ならではの価値の明確化が生き残りのカギに~
551	事務職員研修会(3月)
552	事務職員研修会(9月)
553	事務職員研修(3月)
554	事務職員研修(9月)
555	てんかんの対応について
556	ハラスメントの防止について
557	介護が必要となった時に
558	海外危機管理セミナー
559	教育シンポジウム「学生の意欲を向上させる大学教育とは」
560	著作権法改正に向けての対応ー教育の情報化に対応した権利制限規定の拡充ー
561	働き方改革関連法案の開設と対応について
562	人事評価「新」システムについて
563	「大学に自己点検・評価と内部質保障について」3つのポリシーに基づく大学の取り組み
564	ハラスメントと相談員の業務研修
565	メンタルヘルス講演会「発達障害と大学生」
566	学校会計と学生の就職指導について
567	危機管理(メディア対応含む)研修
568	情報セキュリティセミナー「●●大学を取り巻く情報セキュリティ」
569	●●大学理解のために
570	2020年度大学センター試験に替わる試験制度および高校の指導要領改訂に伴う本学の取組み

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
1	混合研究法 はじめの一步
2	看護学生と共に歩む先輩看護師としての姿
3	学生指導の事例検討会
4	経験型実習を用いた学生指導の事例検討会
5	新任教員FDプログラム ①採用時オリエンテーション
6	新任教員FDプログラム ②看護実践基盤技術 I
7	新任教員FDプログラム ③基礎看護学実習 II
8	平成30年度 看護学科ハラスメント防止研修会 (全2回)
9	平成30年度 看護学科研究交流会
10	平成30年度 実習指導者検討会主催 研修会 (全3回)
11	平成30年度 実習情報交換会
12	平成30年度 授業科目参観型FD研修
13	平成30年度 新カリキュラム検討会 (全2回)
14	看護学科入試に関するFD
15	アウトカム基盤型教育について
16	アクティブ・ラーニングの本質を考える
17	ハラスメント防止研修会 ～ハラスメント予防するコミュニティをつくるために～
18	保健学研究統合部門について
19	コミュニケーションの障害とその支援
20	教育学部の授業(アクティブラーニング)の見学
21	研究推進・社会連携機構から学ぶ 社会と連携しながら研究を推進するためのポイント
22	あっぱくん講習会
23	ハゲタカジャーナルに気をつけろ!
24	教学IRについてーデータに基づく議論のスミナー
25	大学機関別認証評価に向けて
26	2017年度「授業改善アンケート」報告 保健学科奨励賞候補者選定(セミナー)
27	アクティブラーニング型授業についての検討会
28	シラバスチェックの実施報告
29	看護学概論(授業参観)
30	授業参観実施での授業評価報告(セミナー)
31	多職種連携における国内外の動向、JIPWENの多職種連携教育内容の紹介、多職種連携を実施するためのカリキュラム作成(講演会)
32	平成30年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介(セミナー)
33	放射線物理学Ⅱ(授業参観)
34	こころのふれあい*バザー展
35	教員の在宅ケアマインド要請に関するグループワーク
36	健康フェスタin●●
37	大学病院における地域完結型看護の実践者・指導者を養成する現任教育プログラムに関する実態調査
38	地域包括ケア時代の保健・医療・福祉を担う人材に対する教育内容の分析
39	臨床研究と研究倫理について

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
40	2018年度看護学科教育改革推進FD講習会
41	医学教育FD講習会
42	第1回防災FD講習会
43	第2回防災FD講習会
44	教育力を磨く
45	看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定の背景と●●大学看護学科カリキュラム
46	カリキュラム開発に関するFD
47	海外でボランティア
48	看護の楽しさややりがいをどのように学生に伝えているか
49	後期から始まる附属病院の臨地実習について
50	実習カンファレンス運営上の課題と課題を解決するための方法・工夫についてディスカッションする
51	●●大学主催の看護教育ワークショップ報告会
52	第3回附属病院との合同会議 臨地実習まとめの会
53	電子カルテにおける情報管理、電子カルテの使用法、臨地実習における電子カルテの活用方法
54	附属病院での臨地実習について
55	シラバス作成に関するFD
56	シラバス点検に係るFD
57	発達障害学生の支援について
58	ギフトの視点から実現するD&I ダイバーシティ・アンド・インクルージョン
59	●●IPEステップ1の指導教員への研修会
60	●●IPEステップ2の実習指導担当者への研修会
61	●●IPEステップ3の演習指導担当者への研修会
62	●●IPEステップ4の演習指導担当者への研修会
63	学習者の興味とディスカッションを引き出すファシリテートの秘訣
64	看護学研究科における倫理審査の考え方と体制および申請の留意点
65	看護学部開講科目における事前事後学習に関する情報共有
66	看護学部入試における面接FD
67	情報セキュリティにおける部局内研修
68	心の健康セミナー
69	認知科学の視点から考える教育・学修支援 について
70	ベトナムの看護学士課程教育～医療体制と看護師免許制度の特徴をふまえて～
71	米国の看護教育～大学教育と臨床現場のギャップをなくすために～
72	『グローバル化に対応するために必要な教育』について
73	アクティブラーニング(保健衛生FD)
74	カリキュラム(看護学専攻FD)
75	グローバル化に対応するために必要な教育
76	ハラスメント研修(看護専攻FD)
77	看護学専攻のカリキュラムについて
78	医学部FD講演会「医学・医療教育における電子教材の利用と著作権法改正」(12/5)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
79	医学部FD講演会「医学教育分野別評価を受審して～今後の課題と展望～」(9/4)
80	医学部FD講演会「韓国のシミュレーション教育」(1/24)
81	医学部FD講演会「産官学連携事業による人材育成」「アクティブラーニング型授業の実践報告」「ヒューマンコミュニケーション授業と学生相談の実践と展望」(3/18)
82	助産実習指導者検討会－基礎助産教育と実習の課題(臨床実習(助産)に関わる人を対象)
83	研究と教育のさらなる充実
84	感染症予防について
85	研究倫理の必要性について、●●大学の研究倫理の現状について
86	卒業時の総合評価を考える:ポートフォリオ・カリキュラムマップの観点から
87	大学入試における英語認定試験及び記述式問題の活用に関する説明
88	H30年度 看護学専攻・看護部合同 Faculty Development 20180913「地域在宅看護学実習 NOW」
89	ホームページ作成講習
90	異分野融合 看護理工学の取り組み
91	学生にとっても教員にとってもより良い臨地実習を目指して
92	人間支援のための医工学 最近の研究そして看護学、保健学との共同・融合についてのこれから
93	“ICTを用いた教育改革”理系における反転授業－知識の修得と応用展開能力養成の試み－
94	英語文献検索の講習会 Ovid MEDLINE(R)・EBM Reviews の活用
95	高度な文献検索の講習会 ～日本語文献を網羅的かつ系統的に検索するスキルを身に付ける～
96	混合研究法のデザインと統合のプロセス
97	量的研究:調査研究の基礎
98	臨床研究、どうやってやるの? 結果から分かること、気を付けるべき点について
99	看護OSCE ～●●大学での取り組み～
100	看護学教育(アウトカム, コンピテンシー)に関するFDワークショップ
101	看護学教育(アウトカム・コンピテンシー案, アウトカム評価)に関するFDワークショップ
102	看護学教育(キャリアポートフォリオの活用方法)に関するFDワークショップ
103	看護学教育(小領域コンピテンシー)に関するFDワークショップ
104	本学医学科の今後の教育方針について～分野別評価(国際認証)に向けて～
105	医学部保健学科FD:学生教育の国際化を目指して
106	大学院保健科学院FD:世界に向けた情報発信の促進
107	看護学科・医学科独自のルーブリック評価をつくってみよう
108	形成的評価について理解を深めよう
109	看護学科第1回FD研修会 テーマ「看護プロフェッショナルの育成に向けて」(講演会)
110	看護学科第2回FD研修会 テーマ「臨床から生まれ、臨床で役立つ研究を目指して」(講習会)
111	臨床医学英語論文セミナー
112	アジアにおける看護学の国際交流
113	豊かな倫理的感性を備えた看護職者の育成－スチューデントナース教育・現任教育の観点から－
114	Peer reviewing a journal article
115	共分散構造解析をやってみよう
116	Eラーニング講習会(入門編)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
117	カリキュラム改正に向けた現行カリキュラムの検討
118	クリニカルスキル教育の充実に向けて
119	ワークショップ「PBLとテュートリアル教育」
120	臨地実習のゴール設定と方法論:若手教員の活動報告会
121	学部教育における災害看護の教授法
122	研究倫理審査申請書の書き方のポイント
123	事例研究について
124	実習における学生との対話について
125	臨地実習指導について語ろう!
126	ヘルスリテラシー向上を目指して(看護学科)
127	合理的配慮が必要な学生への支援を考える(看護学科)
128	人を対象とする研究に関するルールの概要(研究科)
129	学生の主体的な学びを促す授業の工夫ー情報交換と共有ー
130	CP(カリキュラムポリシー)策定のための教員検討会(6月)
131	看護学部教育課程検討委員会活動報告(2018年度実施した各種アセスメント報告)(3月)
132	看護学臨地実習指導に関する臨地・大学合同勉強会
133	実習委員会主催第1回教員勉強会
134	実践知をどのように集積するか 事例研究のメタ統合について考える メタ統合の基本的な考え方とその方法(8月)
135	大学におけるIRーその意義と運用について(8月)
136	第1回●●●●病院との合同勉強会
137	第1回実習カフェ
138	第2回実習カフェ
139	●●県看護教員継続教育事業(3回)「実践に活用できる看護技術教育」
140	看護学科教育研究セミナー(3回)講座企画テーマ「地域包括ケアにおける看護実践」「特別な配慮や注意を要する学生の学習支援」
141	若手教員の実習指導の指導力向上を目指して(2回)
142	若手教員研修の為の教育活動の振り返り(4回)
143	クリック利用に関する研修
144	シラバス作成の考え方についての研修会
145	科学研究費申請の説明会・研修会
146	次年度の科学研究費申請書の書き方説明会
147	大学における発達障害を持った学生の生活や学習支援についての研修会
148	The Human Face of Your Research Special Seminar on Presentation & Poster Session for ●● School of Nursing
149	傾向スコア分析の方法と注意点
150	対話を活用した自律的学習者の育成
151	文献検索をどう活用するか
152	量的研究の勉強会(2回開催)
153	科研費獲得に向けたFD情報交換会
154	真のヒューマンケアリングの意味と価値
155	ハラスメント防止研修会

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
156	合理的配慮が必要な学生支援への組織的な取り組みの経緯、現状について
157	新カリキュラムに向けたFD 看護学教育における倫理
158	新カリキュラムに向けたFD 実習指導の検討(看護過程)
159	新カリキュラムに向けたFD 初年次ゼミナールについて
160	Problem-Based Learning(PBL)を継続する中で見えてきたこと
161	「人体・治療学」に関する研修会
162	1年次生学習に関するガイダンス
163	WBL/WBR(Work Based Learning/Research)に関する国際交流プログラム
164	外部研究資金応募に向けた研修会
165	学生生活支援の方針の検討と共有に向けた研修会
166	看護実践研究指導事業のこれからを考える研修会 その2
167	教養選択科目に関する研修会
168	研究倫理教育プログラム
169	国際交流スタートアップカフェ報告会
170	新任教員研修
171	成績評価のあり方を考える研修会
172	大学の内部質保証に関する研修会(SDと合同開催)
173	ハラスメントに関する最近の動向
174	FDニーズリストの作成
175	教養セミナーの授業改善
176	交流型教育システムの構築に向けての現行カリキュラム評価検討
177	コアとなる看護実践能力の育成に向けた教育の方向性の明確化と教育内容の充実
178	学生のヘルプサポーターマインドの育成における地域貢献事業の効果の検証
179	教員と実習指導者との情報共有と教育方法の改善
180	地域を主体とした多職種協働による地域包括ケアシステムの推進と課題探求型地域創生人材育成をめざした実践力・研究力・教育力の強化
181	臨地実習教育の充実
182	グローバル社会における持続可能な開発目標(SDGs)と看護の教育・研究
183	サミュエルメリット大学短期研修の学び
184	看護を語る会×2
185	看護学士課程教育の質を高めるカリキュラム開発に関する研修会
186	教員が学生に対して行う倫理的配慮
187	健康分野・医・看護分野研究におけるエスノグラフィーの課題と可能性
188	研究における質的研究と量的研究の接点について
189	原点から考える これからの看護教育ーナイチンゲール思想を通して
190	臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導
191	ハラスメント防止に関する研修会
192	看護学教育と本学の教育についての理解を深める 2回
193	看護学実習指導力のスキルアップに向けたファシリテーション
194	査読対応の実際 ー論文投稿者と査読者に必要な心得ー

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
195	大学が取り組むセクシュアル・マイノリティへの支援
196	大学生の理解を深め、真に必要な支援について考える
197	臨床実習における教員と実習指導者の役割と学生の反応を理解する 2回
198	地域包括ケア時代の臨地実習
199	災害時における医療系大学の役割
200	臨床教授等研修会
201	AACN synergy model for patient careとは～シンプルな理論とその概要～
202	看護学部の2020年度入試変更について
203	入試改革における目指すべき方向性と課題整理
204	普通のかかわりが難しい人へのアプローチ
205	平成30年度看護コンソーシアムの活動報告
206	模擬患者参加型演習・OSCEにおける教員の役割
207	模擬患者参加型学修を効果的に行うために
208	英語の看護研究論文の書き方
209	英語の看護研究論文の書き方2
210	英語の看護研究論文の書き方2
211	看護の主要概念を英語の視点から見直す
212	男女ともに互いに尊重しあえる人権
213	学士課程における放射線看護教育のあり方
214	看護モデル・コアカリキュラムの理解と本学30年度カリキュラムの内容の共有化
215	看護学学士課程教育の質を高めるカリキュラム開発に関する研修
216	研究計画書(科研費)の書き方と審査のポイント
217	アカデミックライティング(全3回)
218	科研費申請手続き
219	教員相互による授業参観
220	若手教員への研究支援
221	●●県看護大学研究集会
222	研究授業(カンファランス見学)
223	授業における学習効果を上げるために
224	大人教員講義のコツ
225	看護学教育における授業評価
226	看護職のメンタルヘルスにおける行動科学のアプローチ
227	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ
228	看護学教育ワークショップ: CQIモデルについて
229	看護基礎教育検討:看護学教育モデル・コア・カリキュラム
230	看護学部シラバスセミナー
231	看護学部臨地実習連絡会議
232	源流塾「カード方式で学ぶ実践的医療倫理学」
233	「授業時間が90分から60分になるとどうなるの？」

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
234	GPAIについて
235	実際に60分授業をしている先生の工夫、アドバイス
236	ディプロマ・ポリシーを再考してみよう(研修)
237	ルーブリック評価(コロキウム)
238	地域包括ケアシステム構築のための病院・大学のパートナーシップ(研修)
239	ルーブリックの作成と活用における課題
240	修士論文作成における指導方策について
241	ルーブリック研修会
242	学生支援に関する研修会
243	研究集談会(4回)
244	研究不正防止に関する研修会
245	研究倫理研修会
246	大学におけるIRの導入と活動
247	看護学科FD 現カリキュラムの課題について/育成する人材像について
248	FD・SD活動の意義とこれからの課題(SDと合同開催)
249	どういった学生を育てたいか(SDと合同開催)
250	フリーラジカル解析装置デモ(SDと合同開催)
251	ルーブリックについて(SDと合同開催)
252	学部教育の今後に姿2回(SDと合同開催)
253	看護学における事例研究の意義と可能性(SDと合同開催)
254	研究倫理について(SDと合同開催)
255	私たちが考えるワークライフバランス(SDと合同開催)
256	次年度どういった教育をしていきたいか(SDと合同開催)
257	実習指導の工夫2回(SDと合同開催)
258	多様性を受容する社会に向けた地域貢献活動(SDと合同開催)
259	臨地実習での現状と課題
260	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づいた研究-私の研究の倫理的な留意点は何か(SDと合同)
261	研究倫理
262	大学教育においてハラスメントを起こさせない組織としてのコンプライアンス
263	FD活動に関するアンケート結果について
264	How to get 科研費
265	グループディスカッション「主体的に学べる授業設計とは」
266	科研費の執行に関する説明
267	看護キャリア開発センターについて
268	私の講義～その分析と再構成～
269	主体的に学べる授業設計とは(実践編)
270	退院後の小児がん患児の在宅療養における母親体験
271	大学教育を考える
272	SCAT研修会報告

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
273	マークシートを用いた試験
274	科研費採択に向けて
275	授業運営の工夫
276	本学における到達度試験について
277	看護研究と倫理審査
278	エビデンスと実践をつなぐ量的研究論文の読み方・使い方
279	学位論文を書く一貫的研究を中心に
280	看護職、その発達の軌跡 ～学位取得の意義の確認～
281	「FD外部研修報告会」計2回実施
282	「ハラスメント研修会」(SDと合同開催)
283	「学生の主体性を引き出すために大学教員が修得すべき理論と態度について」
284	「授業内容の相互理解を目指して(在宅看護学)」
285	カリキュラム勉強会
286	科学研究費助成事業ガイダンス
287	FD活動の法的小および実務的な位置づけの理解 教育研究力向上のポイント等について
288	シラバスの作成方法について
289	プロジェクトチームによる基礎的な教育手法を組織的に習得
290	学習成果の評価の方針(アセスメントポリシー)について
291	授業改善を図る制度的取り組み
292	大学における基礎的な教育手法論の習得
293	学部:講演会「臨床看護教育の専門家を育成する取り組み」 ●●大学 ●●先生
294	学部:臨床教員の役割を構築するための意見交換
295	大学院:講演会 混合研究法 ～実践編～ ●●大学国際政治経済学部教授
296	看護学教育評価の動向を知る
297	シミュレーションにおけるデブリーフィング・ファシリテーションスキル
298	シミュレーションにおける評価～OSCEの導入に向けて～
299	院生の研究指導に対する主指導教員と副指導教員の役割及び円滑な関わり方について
300	看護研究における倫理的疑問や課題について考えてみよう
301	レジリエンスを鍛える～折れない心をつくるために～
302	授業設計と授業の組織化のための基本的知識とその活用—学生への質の高い授業提供を目指して—
303	2019年度新カリキュラムに関する全体像の情報共有・意見交換
304	新カリキュラム 1回生科目の教授方法について
305	新カリキュラム 2回生科目の教授方法について
306	新カリキュラム 3回生科目の教授方法について
307	新カリキュラム 4回生科目の教授方法について
308	新カリキュラムの共有内容の統合、全体まとめ
309	新カリキュラムまとめ
310	●●大学保健学部・保健学研究科FDセミナー (シラバス作成方法について、研究倫理審査申請の考え方)
311	教員自己評価シートの活用と改善

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
312	アクティブラーニングの手法
313	C-Learningによる小テスト活用研修会(2018.11.19)
314	C-Learning活用研修会(2018.6.11)
315	科研費獲得のための研修会(2018.9.26)
316	研究倫理、科研費研修会(2018.10.11)
317	G Suite(●●.jp)の使い方について
318	研究倫理と倫理申請
319	他大学における合同教育の実際
320	どんな学生を育てたいのか
321	看護学科FD「学生の対応で困難だったこと ～さらによりよい実習指導の質を向上するために～ 第2弾」
322	看護学研究科FD「看護研究論文のクリティーク ～看護研究能力の向上に向けて～」
323	「化学物質のリスク管理の将来」
324	カナダの短期研修報告
325	学生指導する上での心構えについて
326	授業改善のための教育評価について
327	「看護系大学学士課程の臨地実習の基準」を参考にした実習の自己評価・自己点検による課題の検討
328	質的研究に関するセミナー・ワークショップ
329	助教を対象としたFDワークショップ
330	総合実習・看護総合セミナーにおける学生の学びを通じた教育の質保証
331	「ハラスメントが組織に与えるリスクについて」
332	アクティブ・ラーニングICT活用講習会
333	医療看護学部説明会・講演会(改定カリキュラム説明会、災害危機管理講演会)
334	教職員ワークショップ「グローバル化に対応した人材育成」
335	大学院FD講演会「ケアや施策のランダム化比較試験を行うには」
336	臨地実習指導者研修会
337	看護学教育モデル・コア・カリキュラムについて
338	看護学士課程教育の質を高めるカリキュラム開発について
339	教員研究発表会①
340	教員研究発表会②
341	教員研究発表会③
342	病院で勤務する教育職員を対象とした教育ワークショップ
343	各教員の評価の視点と共有
344	協同学習の考え方と技法
345	PBL学習会
346	シラバス作成に際しての留意事項
347	ルーブリック評価に関する講義・演習 第1回
348	ルーブリック評価に関する講義・演習 第2回
349	研究倫理について
350	授業公開(公開件数としては、4件)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
351	少子高齢社会における看護系大学・看護基礎教育に期待するもの
352	PC必携化に向けて—PC,タブレットを用いた学部教育の可能性
353	Web利用のルーブリック評価
354	ほんとに使える！？看護実践力を育てるシミュレーション教育
355	看護学生におけるがん患者の抑うつ症状アセスメントに対するパフォーマンス評価の有効性の検討
356	新入生の学修状況の情報交換
357	大学院生と教員のFD懇談会
358	知的障害のある思春期女子の月経教育に関する調査
359	地域包括ケアシステムに向けた医療療養病棟における在宅療養移行支援の看護モデル開発
360	被虐待・愛着障害・発達障害・精神障害・非行などにより療育が困難な子どもを受託し、不調による措置変更を体験した里親夫婦の体験とその背景
361	放射線被爆に関する看護師の認識と教育セミナー実践について
362	カンボジア王国の首都近郊における看護の構成要素の検討
363	乳がんサバイバーのレジリエンス尺度の開発及び信頼性・妥当性の検討
364	看護現場の疑問こそ真の看護研究の仮説への道
365	海外の教育機関から学ぶ
366	看護学科のFD活動計画をFDする
367	「がん」では死なない「がん患者」
368	看護ケアと現象学的研究
369	2018年度カリキュラム看護学概論とコミュニケーション論における工夫
370	2018年度養護実習の報告
371	アクティブラーニングの実際の教育への応用
372	アクティブラーニングの狙いと授業への導入法～主体的・対話的で深い学びを可能とするために～
373	科研費採択へ向けての準備—申請書類作成のコツ—
374	疾病と看護における展開や工夫—専門基礎領域および成人看護領域からの報告
375	新任教員の研究活動について
376	専門基礎領域の重点教育内容
377	第18回●●学部特別研究成果発表会
378	1.2018年度夏季FD研修会 テーマ:●●ビジョンに基づいた目標の共有
379	2.平成30年度 春季FD研修会 学科の運営・教育方針について学びを深める
380	海外研修の短期にハワイとオーストラリアの引率教員
381	FDカンファレンス1「大学における看護学教育カリキュラムと本学が目指しているカリキュラム」
382	FDカンファレンス2「各領域にみる新カリキュラムの特徴1」
383	FDカンファレンス3「各領域にみる新カリキュラムの特徴2」
384	FDセミナー「教育・人間・ケア」
385	授業聴講
386	新任教員FD「本学の目指す看護教育-大学教育を基礎から考える」
387	看護学部で目指すべき教職員像を考える
388	論文とは何か その本質と演習
389	FD研修 授業評価の高い教員による研修【クリティカルケア】

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
390	FD研修 授業評価の高い教員による研修【精神看護援助論Ⅱ】
391	FD研修 「授業に関する聞き取り」および「3ポリシーの適切性に関する聞き取り」についての報告と質疑
392	LA研修報告
393	イギリス国際交流事業報告
394	シミュレーション教育の運営方法について
395	ベトナム国際交流事業報告
396	科研費獲得者によるアドバイス
397	看護の日記念講演会
398	国際交流研修会参加教員報告会(UEA)
399	小児のSimジュニアの操作方法の研修と、事例作成方法についての研修
400	新任教員(教育経験初任者)FD(振り返り・目標設定)
401	新任教員オリエンテーション
402	臨地実習指導者研修会
403	臨地実習指導者責任者調整会議
404	看護大学院における社会人学生の教育のあり方について
405	Team-Based Learningの活用
406	シラバスの書き方
407	研究倫理に関する講習会
408	高度実践能力向上を目指す指導の改善に向けて:経験知を活かす”と名の学び”への支援
409	実習指導スキルアップ研修会
410	助成金申請書の書き方
411	人権倫理相談員研修
412	APシンポジウム
413	アクティブラーニングの質を上げるための授業設計
414	コンプライアンス教育研修
415	メンタルヘルス研修
416	メンタルヘルス不調学生に対する事例検討会
417	科研費研修会
418	学内ワークショップ
419	学内ワークショップ
420	教職員向け英語研修(入門編)
421	新任教授による教育・研究紹介のための会
422	ハラスメント防止研修会
423	教育に関する講演会(FD・SD研修会)
424	研究活動報告会 全4回
425	研究予算・資金について
426	研究倫理審査の申請及び利益相反について
427	大学院特別講演会(シングルケース研究法)
428	防災研修 全3回

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
429	本学のアセスメントポリシーに関する研修会
430	シラバスの作成要領について
431	科研費獲得に向けての事務手続き
432	研究助成金(科研費等)獲得に向けた研修会
433	大学教育におけるカリキュラムの動向と本学のカリキュラム改正について
434	大人数講義室におけるアクティブラーニング
435	看護の統合と実践 I (OSCE)についての意見交換(ワークショップ)
436	新ガールーン説明会
437	新学務システム説明会(シラバス対応)
438	認知症の最新の知見と研究設計
439	令和元年度科学研究費助成事業応募説明
440	大学における教育を問い直すー学びをデザインする支援等の創造ー
441	●●大学医学部における産学連携教育ー“発明楽”による発想力育成教育の実践ー
442	eポートフォリオシステムを活用した看護学教育「システムの概要・教員体制づくりと今後の課題」
443	エデュカフェ:学部の将来を考えるー養成する人材・めざす教育
444	韓国における障害学生支援の現状と課題
445	公衆衛生学の歴史および疫学的視点
446	実習指導に役立つ感染管理の最新知識ー症状からみる感染管理ー
447	人権感覚の醸成と実習教育
448	地域共生社会時代における社会福祉教育のあり方
449	学生と創りあげる双方向の講義ーファシリテーターとしての教員の在り方
450	看護学科学学生の思考・判断力を養う授業の工夫ー平成30年度 授業評価アンケートの分析結果を踏まえてー
451	教育学生間のコミュニケーションスキル:ワークショップを通して
452	授業の公開
453	国際学会での効果的なプレゼンテーションスキル習得に向けたFD
454	主体的な学びを促す学習評価の方法
455	授業参観での学びを基にした教授法の検討
456	新任教員FD
457	看護研究による理論構築
458	研究者の責任と倫理
459	世界の健康課題とWHOの活動
460	“ ” 「エスノグラフィー」
461	“ ” 「グラウンデッド・セオリー・アプローチ」
462	ピアレビュー
463	リサーチクエストの立て方
464	共同研究費(若手研究・領域研究)助成成果報告会
465	共同研究費による画買い研修費助産成果報告会
466	今からでも遅くない科研費申請
467	質的研究のすすめ方「ライフストーリー法」

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
468	新任教員の研究紹介
469	コモンルーブリック・学士ルーブリックについて
470	看護学科がより良くなるためには
471	授業アンケート結果と課題の共有について
472	全学共通シラバスの作成要領について
473	ICT化とAI技術導入の時代の看護の可能性と課題
474	科学的知見を看護に生かす -システムティックレビューの基本とEBP-
475	学部FD研修会:「チームケア論」複合学科によるグループワークにおけるファシリテーターの役割 ~ヒューマンケアに基づいたチームケアの実現のために~
476	学部FD研修会:アカデミックハラスメントの防止のために(3)ハラスメントのないコミュニケーション ~無自覚的加害者にならないために~
477	看護学科・看護学研究科FD研修会:看護学実習における感染対策その2 感染対策の基本と様々な場面での具体的な実践
478	第1回看護学科FD研修会:新カリキュラム2年次における看護学実習について(基盤実践看護学実習Ⅱ、母子看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ)
479	第2回看護学科FD研修会:新カリキュラム3年次前期における多領域連携科目について(臨床実践看護学演習Ⅰ、リハビリテーション看護概論)
480	科研費採択に向けた効果的なアプローチ
481	学習課題を抱えた学生に対する支援の在り方 ~支援ニーズの把握と支援プロセス~
482	看護のためのポジティブマネジメント ~次世代育成~
483	看護の動機付けを高める実習指導
484	インシデント事例検討
485	ADHDを理解する
486	FD講演「多人数授業でのアクティブ・ラーニング型授業の設計」
487	公開授業「健康行動と行動変容に関する理論②」
488	公開授業「研究デザインとその実際 質的研究②」
489	公開授業「地域住民の健康課題解決に向けた健康教育」
490	質的研究において意味あるインタビューとするために
491	ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成ワークショップ
492	救いについて
493	授業の自己評価の視点
494	ケア専門職養成教育の課題と方向
495	シミュレーション教育の実際 ~ふりかえり手法としてのデブリーフィング~
496	教育目標の実現につなげる学生への関わり
497	実習評価の見直しを図るⅡ—情意領域の評価に焦点を当てて
498	効率的効果的魅力的な授業設定
499	科研費獲得のポイント-若手研究
500	看護技術習得の教育技法-基礎看護学領域
501	看護技術習得の教育技法-母性看護学領域
502	「コアコンピテンシーをどのように意識して授業や実習に取り組んだか—教育到達程度や今後の課題—」
503	「投稿論文」の書き方-査読者の視点から(大学院)
504	SPSSを用いた重回帰分析(大学院)
505	看護学教育モデル コアコンピテンシーとは何か

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
506	基礎看護学教育における臨地実習の位置づけ
507	基礎看護学実習に向けてのFD研修会
508	質的研究(初心者からわかりやすく)-量的研究との寄って立つところ(パラダイム)の違い、データ収集方法・分析方法、クリティークの方法-(大学院)
509	実習指導案の書き方
510	実習指導案の発表
511	実習指導案作成
512	新任教員のための研修会
513	看護における「研究倫理」
514	研究とは何か
515	ディプロマ・ポリシーの視点から見た教育評価のあり方(全5回)
516	『渋沢栄一の思想と教育』
517	臨地実習指導者研修会
518	「妥当性のある授業評価策定とその活用を目指した教員の能力育成」
519	「大学における授業評価の必要性和意義」
520	「障害のある学生の修学支援」～合理的配慮の観点から～/●● 教授
521	ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ/●●大学 ●● 准教授
522	学びを促すシラバスの作成/事務局 ●● 参事
523	学習者のアクティブ・ラーニングを促進する授業を行うためのチーム基盤型学習法(TBL)/●●大学ウィメンズヘルス・助産学 ●● 准教授
524	医療専門職者を育成するとは
525	看護師の就職環境の変化とキャリア支援
526	実習が主体的な学びとなるための指導の工夫
527	ハワイ大学・シャミナード大学における海外研修について
528	看護研究における量的データの取扱いについて
529	看護実習施設説明会
530	国立病院機構説明会
531	障がい学生学修支援について
532	●●学部について～教員としての心得～
533	倫理審査する側から見た倫理審査申請書の書き方のポイントについて
534	看護学科のディプロマ・ポリシー
535	アクティブラーニングを理解する
536	シラバス執筆のためのFD
537	新任教員研修参加者による伝達講習会
538	FD報告会:公費での研修参加した教員による伝達研修
539	アクティブラーニング実践例
540	今後の授業へのアクティブラーニング活用の可能性
541	新人新任教員のFDワークショップ参加
542	新人新任教職員の1年間の振り返り
543	シラバス作成(研修会)
544	学生による実習アンケート調査とリフレクションの公開(常時実施、各領域)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
545	学生による授業評価が高い授業の取り組み(研修会)
546	「-アクティブ・ラーニングの評価法-」FD講演会
547	2019年度シラバス記載のポイントと実習ポートフォリオ(案)に関する意見交換
548	The Ethics of Geritechnology: New Perspectives on Nursing Ethics Education
549	看護学部におけるアクティブ・ラーニングの推進-教育実践例の共有と今後のあり方?
550	●●大学FD講演会[アセスメント・ポリシーの基本]
551	3つのポリシーの策定の意義と一貫性構築技法
552	ルーブリック評価入門-時短・ぶれない・公平な評価方法-
553	学習評価の基本
554	生き抜く力を育むヘルスコミュニケーション
555	心身の健康上の課題を持つ学生の支援 -学生相談室との連携-
556	基礎教育の基礎
557	看護教育の実践(グループワークによる事例検討・発表)
558	学士課程におけるカリキュラムの概念・構成
559	看護教育の実践(グループワークによる事例検討・発表)
560	多様な学生とその指導方法
561	看護教育の実践(グループワークによる事例検討・発表)
562	自主性・自律的な学生を育む支援について語り合おう
563	授業アンケートについて
564	大学及び看護学部の理念とカリキュラム構築の基本
565	本学のカリキュラムポリシーとカリキュラムの課題
566	本学のカリキュラムポリシーについて
567	本学のディプロマポリシーについて
568	本学のディプロマポリシーを再考する
569	ファンドライティング講座
570	医療統計セミナー(EZRの使い方)
571	研究交流会
572	平成30年度 国試100%合格に向けて
573	臨床研究倫理研修会
574	臨床研究倫理講演会
575	論文の書き方講座/分析方法
576	学内ICT環境の活用の実際
577	シミュレーションを用いたアセスメント・トレーニングの実際
578	ディプロマポリシーの策定方法-カリキュラム・マップの目的と活用
579	科研 研究費について
580	症例基盤型臨床実習から臨床参加型実習へ ~クリニカル・クラークシップの活用~
581	第1回 研究推進検討会看護学科FD -若手教員研究支援- 研究者としての現状と課題
582	第2回 研究推進検討会看護学科FD -若手教員研究支援- 1.論文作成のための輪読会 2.論文のクリティークトレーニング

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
583	第3回 研究推進検討会看護学科FD ー若手教員研究支援ー 1.論文作成のための輪読会 2.採択されるための科研費申請書作成のためのチェックリスト
584	第4回 研究推進検討会看護学科FD ー若手教員研究支援ー 1.論文作成のための輪読会 2.論文のクリティークトレーニング
585	第5回 研究推進検討会看護学科FD ー若手教員研究支援ー 1.論文のクリティークトレーニング 2.今年度の活動総括と次年度に向けた意見交換
586	教員対象FD「臨地実習の到達目標について考える」
587	大学院FD研修会・看護質的統合合法
588	臨地実習指導者・教員合同研修会「看護学生の卒業時目標到達に必要なコンピテンシー」
589	学習困難な学生への対応について
590	実習指導の難しい学生の問題と対応について/ “やる気” を引き出すスキルについて
591	より良い看護基礎教育のためのDP・CPの正しい理解
592	より良い看護基礎教育のためのDPの再検討
593	外部資金獲得に向けて
594	看護研究における混合研究法の活用
595	研究計画と倫理的配慮
596	Critical Reflection in Nursing Practice and Education
597	教育評価について
598	青年期の発達障害とかかわり方
599	チーム力(組織)の向上
600	医学科のICT教材活用の実際と今後
601	看護教育のカリキュラム構築における課題とポイント
602	協同学習の考え方と技法
603	IR推進本部が実施した「卒業時アンケート」等からみた学生指導について
604	アスリートや受験生に対するメンタルサポートの実際について
605	医療看護現場における紛争解決
606	「シナリオ」シミュレーションシステム説明会
607	「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」(伝達講習)
608	教員研究紹介
609	研究論文の書き方
610	公開授業(ヘルスアセスメント)2回
611	公開授業(基礎看護学方法論Ⅱ)2回
612	公開授業(基礎看護学方法論Ⅰ)
613	公開授業(小児看護学方法論Ⅱ)
614	公開授業(母性看護学方法論Ⅱ)
615	新任教員研修
616	組織の在り方について
617	ルーブリック作成の理論と実際
618	経験学習のすすめ
619	学生と共有する教育評価について
620	看護課程学生への指導方法

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
621	地域連携の推進における看護職の役割(講演を受けてのグループワーク)
622	領域実習要項の目的・目標・期待される結果の点検・評価(看護学科の3Pとの合致しているか)
623	看護系の学部・学科、大学院主催のFD実習指導での困難さ及び課題の共有(学生指導に生かすコーチング)
624	マインドマップを用いた情報整理・学習方法への活用
625	国家試験対策の現状と課題
626	H30年度後期参観における評価の共有
627	H30年度前期授業参観における評価の共有
628	コア・カリキュラム施行に向けた検討会の報告
629	シラバス執筆と査読・点検に関する注意について
630	学生による授業改善に向けた検討会
631	看護師・看護学生が地域を知るためのGISの活用
632	急性心不全患者における離床遅延に関する因子と予後に関する研究
633	今後の研究計画について
634	今後の研究計画について
635	湯たんぽによる低温熱傷を予防するための安全な使用方法の検討
636	妊娠初期の血清葉酸濃度とBIRTH DEFECTS発生リスクとの関連
637	離床に伴う姿勢変化が換気に及ぼす影響
638	シミュレーション教育の在り方
639	研究倫理の在り方と教育研究成果の発表
640	私立大学における教育の在り方(国家試験対策・保護者の理解と対応)
641	専門領域における臨地実習の教育的試み(成人看護学)
642	大学院学則・諸手続きの理解
643	大学院教育の在り方の検討と次年度に向けた課題
644	カリキュラム評価について(ワーキンググループからの報告)
645	モデル・コア・カリキュラム について
646	看護教育における臨地実習指導のあり方
647	「生活支援看護実習」について
648	シミュレーションシナリオ試演会
649	講演会主題 : “地域で生活する患者を支えるケア”～「治す医療」から「治し支える医療」への転換 スピーチテーマ : 「家族と一緒に過ごした時間」 (H30.7.13)
650	コミュニケーション障害に関わる多職種連携
651	学生の学習意欲を推進する授業をつくらうーインストラクションデザイン(ID)の視点から授業や研修等を設計するー
652	平成29年度看護学部研究助成成果報告会
653	臨地実習指導者研修会
654	教えることの基本となるもの-実りある臨地実習に向けて-
655	セクシャルハラスメントの2次被害に関する研修会
656	国家試験に向けて効果的な学生支援を考える
657	科学研究費申請について
658	学士教育における看護実践能力の育成について
659	学生支援講習会 大学生の発達障害について

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
660	看護学部の新たな挑戦
661	教育力向上のためのリフレクション
662	効果的な臨地実習指導のあり方について
663	初年次教育研修会一人と人との関係性に焦点を当てた組織開発、チームビルディングの視点から
664	”学びやすく教えやすいカリキュラムを考える”
665	看護学教育コア・カリキュラムに関する報告
666	看護学部FD講習会(看護基礎教育のこれから)
667	看護学部FD講習会(臨床におけるナラティブ実践のすすめ)
668	第17回リサーチセミナー
669	2019年度シラバスの作成方法について
670	看護学教育をめぐる動き
671	看護大学の臨地実習における教育を考える
672	教育研究報告会
673	教育実践力の向上(シミュレーション教育研修会報告(教員報告)、模擬患者を用いた授業組立に関する講義(外部講師)、国際学術集会参加報告(教員報告))
674	研究環境の整備と研究活動の推進(科研費の採択に向けての申請書の書き方(外部講師)、電子教科書の説明会(業者)、研究フィールドの開拓に関する取り組み(教員報告))
675	新任教員FD(大学概要説明、施設見学、看護学部概要説明、FD計画説明、各種法令の概要説明):3回開催
676	ICT活用と著作権の基礎知識
677	助教の実習での教育指導に関する意見交換会
678	インストラクショナルデザイン研修会(講師招聘)
679	実習における学生と教員のかかわり検討会
680	第1回ランチョンセミナー～教員の教育研究活動や専門分野の活動などの発表と意見交換～
681	第2回ランチョンセミナー～教員の教育研究活動や専門分野の活動などの発表と意見交換～
682	第3回ランチョンセミナー～教員の教育研究活動や専門分野の活動などの発表と意見交換～
683	第4回ランチョンセミナー～教員の教育研究活動や専門分野の活動などの発表と意見交換～
684	第5回ランチョンセミナー～教員の教育研究活動や専門分野の活動などの発表と意見交換～
685	科研費獲得に向けて
686	学習する組織と伝統の創造
687	学習意欲を高めるための教育方法(成田キャンパスFD委員会主催)
688	●●学部における授業ピアレビューの実践
689	知的体力を養うアカデミック・ライティングの教育
690	米国の看護教育におけるシミュレーション教育の現状
691	留学経験教員による留学生に対する支援
692	臨地実習教育の質の担保・向上のため非常勤実習助手に対するFD
693	臨地実習指導事例検討一指導事例をととして臨地実習教育における教員の役割・指導方法について考える
694	学生の主体性を育むカンファレンスのあり方
695	GPA導入にあたっての経緯と課題
696	開学3年目を迎え、看護学部生の特徴と指導について考える
697	学生と教職員による懇談会
698	科学研究費制度改革と申請書作成のポイント

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
699	研究費不正防止に関する研修
700	若手研究者セミナー
701	新任教員の立場から考える大学教員
702	いまどきの学生と実習指導
703	成績評価の方法 ルーブリックの作り方
704	理工系に学ぶPBL(課題解決型学習)～●●大学におけるenPITの取り組み～
705	「ケア・スピリット」について理解を深めよう 1. 平成29年度研究成果報告 2. ケア・スピリットについて
706	⑫2018年度実習指導反省会 1.教員と臨地実習指導者の役割について 2.インシデントの共有 ⑬●●大インタラクティブ・ティーチング 各回所要時間:1時間程度(計16回)
707	FDマザーマップについて 1. FDマザーマップの活用について 2. FDマザーマップ・支援データベースへの登録、評価
708	タブレット教育方法FD
709	ナーシング・グラフィカ説明会
710	一次救命処置講習会
711	科学研究費補助金獲得に向けてのFD研修会 1. 科学研究費補助金に採択されるために 2. 科学研究費補助金獲得に向けた方略
712	看護研究における倫理的配慮
713	研修報告会(FD・SD研修会) 1. 自大学の強みや使命を活かすCQI 2. 看護師の特定行為研修説明会 報告 3. 平成30年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー
714	研修報告会「2018年度大学新任教員のための研修会」 1. 看護系私立大学とは 2. 看護系私立大学の教員になるには 3. 若手看護教員のためのFDガイドラインについて
715	実習指導に関するFD研修会 1. 講義「臨地実習指導の在り方」 2. フォーラム「早期体験実習および療養援助実習Ⅰについての情報交換会」
716	成績不振学生への学修支援 1.成績不振学生の課題を共有する 2.成績不振学生の学修支援の方策を検討する
717	看護教育モデルコアカリキュラムと教育課程
718	科研のとり方
719	教育支援システム勉強会(アプリ)
720	実習や国家試験対策に役立つ自己学習方法の改善
721	実習指導方法について
722	実習指導方法に伴うDVD勉強会
723	統合実習・卒業研究ゼミナールについて
724	薬物等の犯罪被害について
725	トランスレーショナル教育の構築に向けて:ルーブリック理論の看護教育への応用
726	学生の学びを促す学習評価について
727	学生の主体性を促す学習支援
728	ディプロマポリシーを踏まえて、講義・演習・臨床実習の連動性と実習計画の検討
729	看護師国家試験対策研修
730	現在の授業展開・教材活用
731	新採用教員研修会
732	臨地実習でのSNS投稿関連問題に対するこれまでの取組と事案の検証・今後の対策について
733	科研費獲得に向けた具体的なポイントとコツについて(1回)
734	看護学部教員の研究テーマについて(計5回)
735	関連病院看護師との看護研究相談会(計2回)
736	若手教員に向けた能力向上への支援(計4回)

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
737	『看護学領域における英語によるアカデミックライティングーアクセプトされやすいコツー』
738	クリティカルシンキング・ロジカルライティングについて(第1回)
739	クリティカルシンキング・ロジカルライティングについて(第2回)
740	「ナーシングスキル・アン」説明会
741	「ナーシングスキル日本語版」説明会
742	「広いフィールド観」をもつ学生を育てるための教育、地域看護学領域との共催
743	2018年度の活動報告会(教育、研究、学内運営、社会貢献)
744	イブニングセミナー:教員3名の研究業績を題材とした専任教員によるディスカッション
745	クリティカルパス勉強会
746	感染制御勉強会
747	教員の教育力基盤力向上を考える、「広いフィールド観」を育てる看護ビジョンを考える。
748	近年の看護の動向についての3つの情報提供、及びグループディスカッション
749	●●学部における看護学:教育の継続的質改善
750	地域包括ケア等に特徴のある取組をしている病院の訪問・見学
751	本学で研究をスタートするためのノウハウ
752	Web会議システムについて
753	ポートフォリオ研修
754	マイナートラブルとして扱われる女性の痛み研究
755	看護学生版カウンセリング自己効力感尺度の妥当性検証と実態について
756	教育ITソリューションと小児看護技術研鑽の展望
757	手術前患者の口腔内衛生とその関連要因に関する基礎的調査
758	精神看護学の動向と今後の私たちの研究課題について
759	大学院設置に向けての報告
760	アクションリサーチの進め方について
761	わが国の看護基礎教育制度の変遷と本学で求められる基礎看護教育について
762	研究活動スタート支援・若手研究・挑戦的研究・基礎研究の獲得に向けて
763	新任研修“臨地実習における指導力向上をめざして”
764	第1回 学会・研修会報告
765	第2回 学会・研修会報告
766	論文査読時の対応について
767	論文投稿にチャレンジ!!
768	「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修
769	認知症サポーター講習会
770	AV機器使用に関するFD
771	ICTを活用した学習支援環境
772	ポータルサイトに関連するFD
773	ルーブリック評価の基礎的理解
774	ルーブリック評価の基礎的理解(グループワーク)
775	レールダルメディカジャパンSimManの使用方法講習会

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

C. 看護系の学部・学科、大学院主催のFD

看護系の学部・学科、大学院主催のFD	
776	科目「あすなろ」における教員が果たす役割とその方法
777	行政保健師と児童福祉司の経験から見出した研究テーマ
778	国家試験合格のために今から取り組む組織的活動
779	新規採用教員のための「研究活動スタート支援」FD
780	日本看護系大学協議会総会報告(学部長)
781	非常勤実習助手に関するFD
782	⑬ シミュレーション教育の設計
783	看護理工学にみるケアイノベーション
784	基礎教育課程とカリキュラム
785	学生指導について考える
786	ベストティーチャー賞の受賞者の講義

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

D. 看護系の学部・学科、大学院主催のSD

看護系の学部・学科、大学院主催のSD	
1	EMS概要について 平成29年度EMS活動報告及び平成30年度EMS目的・目標及び実施計画
2	●●県西部地震災害対応検討セミナー
3	教員懇談会(年7回)
4	UCSF&ハワイ大学視察研修報告会
5	研究紹介～大学院活性化のために～
6	●●大学基金事業「UCSF看護短期研修」成果報告会
7	災害看護の発展と展望ー看護のリーダーシップと放射線看護への期待ー
8	脳腫瘍の放射線治療とQOL大学院生のころから取り組んでいる課題
9	ハラスメント相談員研修会
10	新任教職員研修
11	人権研修会
12	情報セキュリティ研修
13	ハラスメント研修
14	研究倫理研修
15	情報セキュリティ研修
16	大学で働く人々の労働法
17	気がつかないうちに・アカハラ・パワハラをしていませんか？
18	新採用教職員研修会
19	大学入学者選抜改革への対応
20	大学における内部質保証のあり方とポイント
21	情報研修会
22	『アドミニ』と『ファカルティ』ー本当に足腰の強い大学であるために
23	知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略
24	教職協働による教育研究活動の活性化の手法論の習得
25	ハラスメントについて
26	補助金研修会(2018.8.9)
27	「ハラスメントが組織に与えるリスクについて」
28	キリスト教と倫理(生命倫理)
29	研修会「リーダーシップを考える、決断するとは？」
30	筑後のキリシタン史「筑後はキリシタンの町だった～ミゼリコルディアを訪ねる旅～」
31	SD研修 オックスフォード語学研修の引率者報告
32	SD研修 科研費の書き方・科研費の申請の仕方
33	キャンパス・ハラスメント防止研修
34	●●の看護と看護教育の歴史から学ぶ
35	APシンポジウム
36	SD伝達講習会
37	アクティブラーニングの質を上げるための授業設計
38	コンプライアンス教育研修
39	メンタルヘルス研修

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

D. 看護系の学部・学科、大学院主催のSD

看護系の学部・学科、大学院主催のSD	
40	メンタルヘルス不調学生に対する事例検討会
41	学内ワークショップ
42	学内ワークショップ
43	教職員向け英語研修(入門編)
44	情報に関する研修会(Excelについて) 全2回
45	大学事務に関する講演会
46	AED実技講習
47	ハラスメントの無い職場・教育環境づくり
48	情報リテラシー
49	看護の統合と実践 I (OSCE)についての意見交換(ワークショップ)
50	新ガルーン説明会
51	新学務システム説明会(シラバス対応)
52	3つの方針の実施状況と課題等の共有について
53	学生相談体制強化について
54	ハラスメントに関するDVD視聴による研修会(全教職員対象)
55	職位別研修(課員)
56	職位別研修(管理監督職)
57	大学におけるLGBTの理解(2019.3.19)(全教職員対象)
58	キャンパスライフアンケートのデータ分析結果を活かして～学生支援環境の改善を考える
59	～内部質保証の実質化に向けて～「IRってなんだろう」/事務局 ●● 参事
60	IRer養成講座in大阪 参加報告1/学務課教務係 ●● 主事
61	IRer養成講座in大阪 参加報告2/看護学部 ●● 助教
62	ハラスメント防止対策研修会/●●大学キャリアカウンセラー ●●先生
63	科研費取得に向けての申請書の書き方/●● 教授・●● 講師
64	介護福祉学科の学生募集について/介護福祉学科 ●● 教授
65	学生の健康管理について 保健管理・学生健康相談センター/メンタルクリニック●●駅前 院長 ●●先生
66	学生募集・入学試験の変更点/入試・広報課長 ●●
67	看護大学の入試について/看護学部 ●● 教授
68	高等教育の将来像について/将来構想等検討委員会●●大学理事長特別補佐・質保証推進室長 ●●先生
69	情報セキュリティ研修会～個人・機関としてのセキュリティ～/危機管理委員会
70	健全な職場づくりと活性化:SOCの視点から
71	職場を元気にするヘルスコミュニケーション
72	アカデミック・ハラスメントとは～その理解と対応～
73	学生満足度の向上に向けて
74	日本学生支援機構奨学金の仕組みと学生のメンタルケアについて
75	平成31年度入試制度説明会
76	実習指導の更なる向上を目指して
77	IRとその活用法
78	SNSについて

Q19. 貴大学の看護系の学部・学科、大学院のFD(ファカルティ・ディベロップメント)及びSD(スタッフ・ディベロップメント:事務局員と教員も含んだ共通の教育)の状況について伺います。  
2018年度内に開催されたFD及びSDの件数とテーマをご記入ください。

D. 看護系の学部・学科、大学院主催のSD

看護系の学部・学科、大学院主催のSD	
79	カリキュラム改正に向けて
80	ハラスメント防止研修
81	平成30年度学生募集に向けて
82	平成30年度大学機関別認証評価に向けて
83	研究指導をするための査読力の向上を目指して
84	発達障害の理解と支援
85	セクハラ・パワハラ・アカハラ事案にどう取り組むか ―危機管理の観点から―
86	教育の質および学生支援の質の向上をめざすFD・SD活動
87	高等教育機関の職員に必要な能力と専門性
88	財務、補助金理解のための研修
89	ADHD(注意欠陥・多動性障害)について
90	本学図書館が1PUをめざすために
91	良好な人間関係構築のための積極的傾聴法
92	「ケア・スピリット」について理解を深めよう ― SD研修会 1. ケア・スピリットについて 2. 平成29年度研究成果報告
93	一次救命処置講習会
94	研修報告会(FD・SD研修会) 1. 自大学の強みや使命を活かすCQI 2. 看護師の特定行為研修説明会 報告 3. 平成30年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー
95	本音で語る『看護系大学・専門学校の進学』
96	学園の現状と展望
97	認知症サポーター講習会

Q20. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の取り組みについて伺います。

D. GPA制度は何に活用していますか。〔当てはまるものすべてに○〕

GPA制度は何に活用していますか。	
1	●●大学学業奨励金の選考, 短期海外研修参加者の選考, ●●県看護協会優秀学生賞の候補者選考, 助産師コース選抜
2	成績優秀者の選出、海外留学助成金制度、保健師・助産師選択者選考要件
3	保健師課程の配属について
4	慰霊祭の代表者選考、助産師専攻選考試験、保健師専攻選考試験
5	卒業判定
6	研究室配属の際の参考として
7	大学での表彰
8	保健師コース履修者選抜に利用
9	活用していない
10	表彰者の選考
11	学生がそれぞれのニーズに応じて活用
12	学生の推薦
13	学部生が大学院授業科目を早期履修する際の基準として、GPA値を設定している。
14	卒業判定
15	学長表彰者の選考
16	授業料免除の選考
17	学生表彰
18	成績優秀者表彰に使用
19	授業料減免
20	教職課程(養護教諭一種免許)履修生の選考
21	就職試験の推薦枠の該当者選定(順位付け)
22	保健師課程選抜試験
23	授業料減額免除の選考
24	学生表彰の判断基準として活用
25	専門領域選考
26	表彰制度
27	保健師課程履修者選考試験の評価
28	学生の表彰制度
29	卒業・進級についての判定材料として使用している。
30	教職課程の履修の条件 保健師課程の選考の材料
31	国家試験対策の基礎データ、学業優秀賞
32	卒業時の表彰
33	保健師、助産師選択試験時の参考
34	教育実習・養護実習の履修要件
35	2018年度入学生からの導入のため、まだ活用はしていない
36	「養護実習」履修時の基準
37	学長表彰(GPA賞)
38	特待生選考
39	退学勧告
40	成績優秀者の表彰、授業料減免のための一基準

Q20. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の取り組みについて伺います。

D. GPA制度は何に活用していますか。〔当てはまるものすべてに○〕

GPA制度は何に活用していますか。	
41	保健師課程、助産師課程の選抜試験対象者の選考
42	看護師国家試験 保健師課程選抜及び助産師課程選抜に向けて
43	コース選考、退学勧告
44	学習到達度の目安値, CAP上限緩和, 選択履修課程の出願基準および合否基準
45	成績優秀者判定、退学の勧告、教育・運営に係る検討
46	保健師課程履修者選考
47	優等賞の基準
48	主席選定、保健師コース選抜材料
49	進学・就職の大学推薦基準
50	保健師および助産師科目履修者選考
51	卒業時表彰者の選定(成績優秀者として)
52	保健師課程履修者の選考、助産師課程(別科)推薦者の決定
53	国試対策
54	保健師選択コース・助産師選択コースの選抜試験に利用
55	保健師課程選抜
56	保健師コース選抜
57	在籍管理(退学勧告)
58	保健師・養護教諭課程 選抜の際に活用。
59	保健師課程の選考 卒業時の勉学表彰者選考
60	卒業判定・学生表彰
61	卒業判定、助産師課程選考
62	資格課程の選考基準
63	学費免除者の判定
64	保健師課程履修のための選抜試験
65	公衆衛生看護学課程履修生選抜の一時審査
66	保健師課程、助産師課程の選抜試験対象者の選考
67	保健師コース選抜
68	指導、注意警告、退学勧告の基準に活用
69	退学勧告
70	保健師課程に関して活用
71	保健師課程選抜基準
72	保健師・助産師国家試験受験資格取得学生の選考
73	選択科目履修者選考の際の一要素
74	保健師課程履修者の選抜試験
75	教員間の成績評価基準の平準化のため
76	保健師課程履修学生の選考における出願要件
77	保健師養成課程の選考材料として
78	学長賞の選考
79	海外研修の受講

Q21. 貴大学には、看護関連の研修事業がありますか。[いくつでも○]

その他

- |    |  |
|----|--|
| 1  | 地域包括ケア・介護予防研修センター  |
| 2  | 看護研究・看護実践セミナー  |
| 3  | 島嶼・地域ナース育成センター   |
| 4  | 高度医療人材養成プログラム  |
| 5  | 全国の看護系大学教員対象のFD<br>全国の病院等施設における看護管理者対象のSD                                      |
| 6  | ポストクプログラム(若手研究者育成プログラム)  |
| 7  | 医療スタッフ研修センター①在宅医療推進のための看護師育成事業 ②看護師特定行為研修                                      |
| 8  | 教員免許状更新講習(養護教諭)  |
| 9  | 特定行為研修   |
| 10 | 特定行為研修   |
| 11 | 看護師研修セミナー  |
| 12 | 認定看護管理者は大学院博士前期課程にコース設定している  |
| 13 | ・病院での看護研究等への講師派遣<br>・地域のニーズと教員の研究テーマがマッチした研修                                   |
| 14 | ●●県委託事業 新人看護職員研修事業   |
| 15 | 「地域連携推進センター」の中で、「●●メンタルヘルス研究会」(精神)と「訪問看護学び合い塾」(在宅)を開催している。                     |
| 16 | 看護実践研究指導事業   |
| 17 | 緩和ケアを推進する看護師養成プログラム(BP)  |
| 18 | ①●●県●●地域等訪問看護師育成講座<br>②新任及び中堅保健師研修会<br>③喀痰研修会<br>④がんプロフェッショナル養成プランによるリカレント教育事業 |
| 19 | 新人職員研修、中堅職員研修  |
| 20 | 卒業生対象「シャトル研修」、卒業生インストラクターによる在学生対象「卒業前スキルアップトレーニング」                             |
| 21 | 助産学専攻科   |
| 22 | 特定行為研修   |
| 23 | 専門看護師教育課程  |
| 24 | 看護師特定行為研修  |
| 25 | 看護研究指導者研修等の現任教育  |
| 26 | 地元ナース養成プログラム   |
| 27 | 感染管理認定看護師教育課程があるが、2018年度は休講。   |
| 28 | 看護師特定行為研修  |
| 29 | 卒後教育(●●SIM)  |
| 30 | 認知症看護エキスパート養成プログラム   |
| 31 | 看護師特定行為研修センター  |
| 32 | 高度実践看護師(専門看護師)教育課程   |
| 33 | 産後ケア研究センター従事者研修  |
| 34 | 女性医療人キャリア形成センター  |
| 35 | 実習指導者研修会(本学独自のプログラムによる)  |
| 36 | 看護職、福祉(介護職)に対する継続教育、シミュレーション教育研修   |
| 37 | 地域交流センター事業(看護師・保健師向け講座、看護研究)   |
| 38 | シミュレーション教育のための研修   |
| 39 | 特定行為に係る看護師の研修制度(大学院修士課程で実施)  |

Q21. 貴大学には、看護関連の研修事業がありますか。[いくつでも○]

その他	
40	放射線看護研修センター①がん放射線看護認定看護師課程②看護教員・臨床看護師に対する放射線看護研修
41	キャリアアップ講座
42	実習教育研修会
43	「●●市看護職能力向上・定着確保研修」「新人看護職員教育プログラム」
44	実習教育会議、実習調整会議
45	特定行為教育課程(呼吸器関連、創傷管理関連)
46	看護師の特定行為に係る研修

Q22. 貴大学における、看護関連の附属研究・研修機関について伺います。

C. 財政基盤について [いくつでも○]

その他	
1	予算処置はない
2	自己収入
3	文部科学省 平成28年度概算要求(新規事業) 看護学を基盤にした異分野融合型イノベータティブ看護学研究を推進する若手研究者養成事業(平成28年度～平成32年度)
4	自己収入(受験生からの授業料、受講料)
5	セミナー開催に伴う収入、認定看護師教育課程受講料の収入
6	講習参加料等、事業利用者の受益者負担金及び自治体からの受託事業収入
7	認定看護管理者教育課程の受講者の授業料
8	学校法人の予算内
9	受講生及び研修生からの受講料徴収
10	有料の研修会の収入
11	教員の個人研究費
12	科研費

Q22. 貴大学における、看護関連の附属研究・研修機関について伺います。

D. 活動内容について〔いくつでも〇〕

その他	
1	医療職・介護職のための継続教育・暮らしの保健室の開設と運営
2	若手研究者に対する研究コンサルテーション
3	1. 専門学校・短大卒業の看護師への大学院進学支援 2. 臨床判断能力・教育指導力強化のための教育プログラム開発・支援 3. 教育効果測定研究
4	認定看護師教育課程、子育て支援事業
5	認定看護師教育課程
6	受託研究、公開講座(専門職向け)、知的財産、地域からの協力依頼、その他研究推進、地域貢献関連活動
7	認定看護師教育課程
8	特定行為研修
9	県内医療機関に対する看護研究支援
10	認定看護管理者教育課程
11	小中学校の福祉体験学習受入・タウンミーティング・看護職のための研究支援・認定看護師教育課程 等
12	認定看護師教育課程、認定看護管理者教育課程
13	認定看護師教育課程
14	認定看護師教育課程
15	医師・歯科医師があらかじめ作成した手順書(指示)によって、特定行為を実施することができる看護師の養成
16	看護実践能力プログラム開発、卒後教育(大学院生修了者のサポート・学部卒業者の進学サポート)、臨床教育病棟の開発、本学の教育目的のサポート
17	認定看護師教育課程
18	復興支援活動(●●県●●市に避難している●●町民に対する健康支援事業)
19	教員のための教育スキルアップ
20	認定看護師教育課程の開講
21	自治体への政策提言
22	研究活動・研究倫理に係るコンサルティング、公的研究費を用いた研究。
23	認定看護師教育課程、特定行為教育課程
24	研究指導

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
1	奨学金支給(月額3万円)	留学又は語学研修に対する支援(最大20万円)		
2	学費免除、宿舎提供	奨学金、学費免除		
3		大学の授業として単位を認められる派遣事業について、アジア3万円、欧米5万円を支給する。応募者多数の場合には、成績により支給者を決定。		
4	開講20周年記念基金(Ⅲ外国人留学生奨学援助事業) 奨学金	医学部●●国際交流助成金、医学部後援会、医学振興助成金事業、開講20周年記念基金(Ⅰ外国へ留学する学生援助事業 Ⅱ医学部及び医学系研究科海外研究発表円授与事業) 奨学金	開講20周年記念基金(Ⅳ外国人研究者等招へい援助事業)渡航費、滞在費	医学部●●国際交流助成金、医学振興助成金事業、開講20周年記念基金(Ⅴ国際交流活動援助事業)渡航費
5	大学間または学部間学術交流協定を締結し、学生交流の覚書のある海外の大学に在籍する学生に、渡航費、奨学金を支援する。	長期で留学する学生に、留学先機関における授業料相当額(学費・登録料)、奨学金、往復渡航費、保険料等の経費を支援する。修士課程レベルでは、University College London で学ぶ学生に、ロンドンへの渡航費、滞在費、授業料等を支援する。	大学の外国人研究者宿泊施設があるが有料。	年に1～2回、若手教員が海外へ研修に行く際の渡航費・滞在費を支援する事業あり(申請者の中から各部局1名程度を選考)
6	奨学金、学費免除	奨学金		
7	●●大学では交換留学生に対して奨学金により支援は実施していない。また交換留学生には、留学期間中キャンパス内にある留学生寮「●●大学国際交流会館」の単身室が用意されている。(宿泊費や公共料金は学生の個人負担)交換留学生の入学検定料、入学料、授業料は協定に基づき原則、不徴収。	2018年度は以下の奨学金を実施した。 短期留学(派遣)奨学金・学術交流協定を締結している外国の大学へ留学する学生(交換留学生)を対象とし、月額4～5万円を給付 短期海外研修奨学金:外国の高等教育機関等で6ヶ月未満の短期研修を行う学部学生を対象とし、1件10万円を上限に給付 パロー・Vドラッグ海外研修奨学金:海外の大学、研究機関及びこれに準ずる期間において単位取得又は専門の研究を行う大学生を対象とし、授業料・渡航費(上限30万円)及び月額8～12万円を給付 優秀学生の海外派遣プログラム:学生表彰及び応援奨学金を対象とし、1件25万円を上限に給付 また、交換留学の留学期間が●●大学の学期を超える場合、当該学期の授業料を免除している。	・外国人研究者用の宿舎の提供 ・外国人研究者の受入を行う教員への経済的支援(助成金)	・本学との協定校に渡航する教員を対象にした経済的支援(助成金) ・本学若手中堅教員の海外渡航を対象にして経済的支援(助成金)
8		渡航費の一部		
9		学生の海外派遣支援として主に大学院生に海外学会参加の旅費を支援している。		
10	●●大学学生海外派遣支援事業奨励金、●●大学基金による「留学・派遣経費補助事業」による奨学金、講演会による援助			
11		派遣プログラムに参加する学生に対し、奨学金を6万円支給している。		
12		●●大学基金による留学費援助	外国人研究員制度。生命・医学グループとして総額1,500万円を支給経費の上限とする。	若手教員長期海外派遣制度。1派遣につき330万円を補助額の上限とする。

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
13		学生後援会と同窓会から一部援助あり		
14	宿舎(国際交流会館)の提供(有償)			
15		●●提携校への2週間程度の短期海外研修、大学独自の奨学金制度に申請し、一人6万円の補助あり		
16	宿舎	SEEDS基金により渡航費の一部補助、後援会費により留学生危機管理サービス費用の補助		
17	学費免除(条件等あり)、宿舎の提供	留学等海外へ渡航する学生を対象とした支援制度	宿舎の提供	
18		●●大学海外派遣奨学事業 奨学金月額6-10万円		
19	日本学生支援機構による奨学金制度	学部学生・大学院学生を対象とした海外研修奨学金制度および日本学生支援機構による奨学金制度		・グローバル化推進事業の費用 ・大学のグローバル推進のための予算
20	国際交流基金による外国人留学生奨学援助事業	国際交流基金による学生海外派遣援助事業	国際交流基金による外国人研究者招へい援助事業	国際交流基金による教職員海外派遣(短期)援助事業
21		●●大学海外留学奨学金制度		女性教員海外派遣制度
22		●●大学医学部保健学科国際交流支援金(海外留学)		
23	●●大学受入留学生等支援金、国際交流会館	●●大学学生海外派遣支援金、●●大学医学部奨励金、●●大学後援会補助金	国際交流会館	引率経費補助、海外旅費
24	宿舎の提供(有料。抽選の場合もあり)、入学料・授業料免除(免除不可の場合もあり)、総長奨励金(学費免除・奨学金支給)、私費外国人留学生特待プログラム(学費免除・奨学金支給)	国際交流基金にて、学生の学会発表に係る旅費の一部を補助		
25		●●奨学金	・交流実績を有する海外機関等の教員を対象とした渡航費等の支援 ・外国人教員・研究者向けの宿舎(有料)の整備	
26	協定により、学内宿舎利用の際は、宿舎費不徴収	協定校へ派遣される学生を対象に、学内での助成金を支給。協定により、学内宿舎利用の際は、宿舎費不徴収	協定により、学内宿舎利用の際は、宿舎費不徴収	協定により、学内宿舎利用の際は、宿舎費不徴収
27		●●大学基金による「学生の海外派遣等助成事業」(1件当たり20万円まで) 学生を中心に国際学会発表の経験等のための海外渡航及び語学研修のための海外渡航又は研究活動に伴う海外フィールドワークに対し、学生個人が計画する海外床にかかる経費の一部を助成。		
28	本学卒業生の寄附を財源として、グローバル人材育成や学生の国際交流支援を目的とした本学独自の奨学金制度を整備しており、交換留学生として受け入れている外国人留学生への支援を行っている。また、留学生や外国人研究者の宿舎があり、单身室及び世帯室を用意している。	本学卒業生の寄附を財源として、グローバル人材育成や学生の国際交流支援を目的とした本学独自の奨学金制度を整備しており、交換留学や短期海外研修等による派遣学生への支援を行っている。	外国人研究者用の宿舎に入居可能。また、間接経費を活用した学内の競争的研究資金である「戦略的研究推進経費」から旅費の支出が可能。	間接経費を活用した学内の競争的研究資金である「戦略的研究推進経費」から旅費の支出が可能。

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
29		学部奨学金による補助		
30		在学中に1回、20,000円を支給		申請により海外研修に渡航・滞在費の助成
31				渡航費、滞在費、現地通信費等の支援
32	奨学金			
33		●●医学大学に派遣する研修生に対し1人当たり25,000円を助成		
34		渡航費の負担		渡航費、研究費の助成
35		協定校への海外研修の渡航費補助		
36	奨学金、学費免除			奨学金
37		後援会からの助成金		
38	留学生と日本人学生との交流推進を目的とした「●●大学国際交流基金」において、新規受入れ留学生に対して、生活準備金を支給している。また、交換留学生用の宿舎を準備している。	海外語学研修、交換留学を行う学生に対し、助成金を支給している。(支給要件あり)		
39	企画が承認されれば、100万円の補助がある	企画が承認されれば、学生1人につき5万円の補助		
40				旅費等
41				海外大学等派遣研修生として、対象者に旅費・活動費を支給する
42			滞在費	旅費、航空賃、海外保険手数料
43	「国際交流事業促進支援制度(短期)」相手国との国際親善・相互理解を深める機会を促進することを目的とし、一か月以内の短期受入に対し、要領に定める額を支給	「国際交流事業促進支援制度(短期)」相手国との国際親善・相互理解を深める機会を促進することを目的とし、一か月以内の短期派遣に対し、要領に定める額を支給	「国際交流事業促進支援制度(短期)」相手国との国際親善・相互理解を深める機会を促進することを目的とし、一か月以内の短期受入に対し、要領に定める額を支給	「国際交流事業促進支援制度(短期)」相手国との国際親善・相互理解を深める機会を促進することを目的とし、一か月以内の学生の短期派遣に関する引率教員に対し、旅費全額を支給
44	学部研究推進費		学部研究推進費	学部研究推進費
45		派遣留学生経済支援制度(部局短期分)		
46		渡航費を一部補助		
47	●●大学講演会費より滞在費等を支給	●●大学講演会費より滞在費等を支給	特別研究奨励費より渡航費・滞在費等を支給	特別研究奨励費より渡航費・滞在費等を支給
48		交通費・宿泊費・実習費の一部を助成		若手研究者国際学会発表助成事業(10万円×10人/年)、代替教員なしなら基本給支給する
49		大学の振興協力会から渡航費用を助成		
50		奨学金		
51	看護短期研修	看護短期研修	学術交流(中国)	看護短期研修(米国)、学術交流(中国)
52	学生が来日後、すぐに必要な日用品を提供する。	交換留学の場合は、月額2万円の奨学金を支給する。		
53			JICA青年研修 母子保健管理コースの実施(対象:アフリカ英語圏より助産師など16名)	
54		短期海外派遣奨学金(1ヶ月程度2名)		
55				滞在研修制度。1年以内の海外を含む派遣研修費を助成。
56				旅費等

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
57	全学の留学生を対象とした経済支援制度「外国人留学生給付型奨学金制度(授業料減免)」を設置している。毎年度、成績優秀な留学生を対象として、授業料の1/2または1/4相当額の奨学金を給付する。	海外留学・研修プログラムに参加する学生に対し、1.5万円から最大100万円(プログラムによって異なる)の返済不要型の経済的支援を行っている(ただし、看護学科に限らず、全学部対象)。		
58	協定校の場合は、現地での授業免除	協定校の場合は、現地での授業免除		
59		学則で定められた協定に基づく留学の場合、奨学金の給付あり		
60		海外旅行保険掛金の負担		
61	私費外国人留学生授業料減免制度: 本学に在籍する私費外国人留学生を援助するため、当該年度授業料の30%が減免される。	在学留学期間中、授業料を除いた学納金を免除。但し、在学留学期間のうち特に優れた者に対しては在学留学期間中の授業料の納入も免除することがある。		教育職員研修規程により、長期国外研修(6ヶ月以上1年以内)と短期国外研修(3ヶ月以上6ヶ月未満)に研修費を支給する。
62	学生寮への居住	助成金の支給		医療福祉研究費(教員の研究費)による旅費負担
63		講義や施設見学等の通訳費を支援している。	宿舎が空いている時に限り、宿泊費を半額で利用できるよう支援している。	
64	在留資格(留学)の学生において、経済的に困難な学生に対する授業料減免制度	ハワイ大学ヒロ校奨学金留学(授業料相当額免除)1セメスター		
65	本学に在籍する外国人留学生で学業、人物共に優れ、留学生生活を続けていくために経済的援助が必要と認められた者に対して、授業料の2分の1の額を免除する制度		宿泊の提供	派遣手当の支給
66		大学が定めた海外研修・留学プログラム等に参加する者で成績優秀で勉学意欲に富み、課外研修・留学の成果が期待できる者を対象とする。		
67	宿泊費	交通費、海外留学奨学金		
68	授業料(年間)の40%免除	語学研修費用の補助(補助金は派遣先によって異なる)		
69		本学が許可した研修プログラムに対して費用の4分の3(上限20万円)を補助する(在学中1回限り)。		
70		●●記念●●大学看護医療学部教育研究奨励基金 1件につき10万円から50万円の範囲で支給し、旅費・滞在費をはじめとする学習・研究活動に必要な経費に使用する。		
71	●●奨学金制度(主にアジアの途上国のための奨学金制度。授業料、住居費、生活費を支給)			
72		教育後援会(保護者会)からの費用支援		
73		大学の国際交流プログラムで、一人当たり10万円を限度に8名まで補助金を支給。		海外出張補助として、一人当たり10万円を限度に10名まで補助金を支給。
74	外国人留学生に対する授業料減免制度	海外での留学・研修・研究発表等に関する育成推進奨学金制度		研究を目的とした教員の海外派遣に関する旅費補助

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
75	奨学金を支給している。宿舍を無償提供している。	奨学金を支給している。	宿舍を無償提供している。	給与総額の一部を支給している。
76	私費外国人留学生を対象にした授業料減免制度有。本人からの申請により、審査を経て採用されると年間授業料の半額相当が免除される。毎年申請可。	留学を開始する年度の前年度GPAが3.0以上の学生を対象にした学納金減免制度有。留学期間中の本学の授業料が75%、実験実習料と施設充実費がそれぞれ100%免除される。		
77	宿舍提供	現地交通費支援(移動時の車両料金負担など)	宿舍提供	現地交通費支援(移動時の車両料金負担など)
78	私費外国人留学生への授業料等減免			
79	学生の受入・派遣に併せて、年間2000~3000万円程度、寄付金を財源とする学生国際奨学金制度を整え、海外渡航に係る経済的負担をサポートしています。	学生の受入・派遣に併せて、年間2000~3000万円程度、寄付金を財源とする学生国際奨学金制度を整え、海外渡航に係る経済的負担をサポートしています。	同窓会からの寄付金を財源として、年間150万円程度、(1)教員の海外研修のため、(2)海外からの大学の教授および看護専門職者の招聘のため、費用援助をしています。	同窓会からの寄付金を財源として、年間150万円程度、(1)教員の海外研修のため、(2)海外からの大学の教授および看護専門職者の招聘のため、費用援助をしています。
80		費用の半額を大学が援助		渡航費、宿泊費は大学が援助
81		長期:海外派遣留学奨学金、海外長期研修奨学金。短期:海外短期研修奨学金、大学院進学者短期研修奨学金		
82	「私費外国人留学生授業料減免制度」:成績・経済状況等に考慮して授業料の減免を行っている。	「短期留学生奨学金貸付制度」:留学プログラムに参加する学生に50万円を上限として貸し付けている。		
83		学部学科海外研修補助金		学科予算で全面的に支援
84	渡航費、宿舍提供	渡航費、宿舍提供		
85	交換留学生の宿泊代	交換留学生の宿泊代	引率教員の宿泊代	旅費・宿舍代
86		協定校への交換留学、共同プロジェクト、契約校への短期研修		
87	私費外国人留学生に対する授業料減免	海外研修参加学生に対する助成金	認定された国際交流事業に対する助成金	教員短期留学制度に選考された教員に対する奨学金
88		●●記念基金奨学金より、支出される。		
89	受入れ期間の学費、宿泊費、昼食代、交通費(市内移動)全額負担	旅費の一部補助	受入れ期間の宿泊費全額負担	派遣に係る経費 負担
90	日本滞在にかかる交通費および昼食費用を大学負担とした(朝・夕食はホームステイ先から提供)。			
91	交流協定提携校の学生を受け入れた際は、平日の昼食代、宿泊代を本学が負担する。	ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、アフリカに研修等で渡航した場合は50,000円までの旅費の補助 アジア、オセアニアに研修等で渡航した場合は30,000円までの旅費の補助		
92		派遣プログラム参加学生に対し、一人当たり2万円の支援金(旅費の一部助成)を給付		
93	外国人留学生は授業料免除制度有り。	学生の海外留学研修の促進の一環として補助金(15,000円)を支給している。		
94	タイ国コンケン大学の短期留学	ベトナム ハノイ医科大学の学生には入学前の日本語教育、住宅支援、アルバイト先(院内)を行っている。 タイ国コンケン大学の短期留学		

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
95	(協定により)一部協定校に宿舎を提供	後援会より補助金を支給		海外研修引率の教員に滞在中の旅費交通費を支給
96	各種奨学金、国際寮(安価での居住が可能)、学部留学生への入学金の免除	各種奨励金、長期派遣留学生への留学期間中の学費減免	中国の協定校からの教員受入に際し、宿舎を無料提供している。	
97	大学の国際交流予算をプログラム経費の一部に補填し、学生負担金をおさえている	大学の国際交流予算を財源とする奨学金を各学生に支給している		
98	宿舎の提供	「医学教育海外交流基金奨学金」支援	宿舎の提供	旅費の支給
99	学納金の金額を正規生より低く設定している。	往復の航空運賃を支給する場合がある。		
100				在外研究員制度
101				年に2回、特別研究費を提供
102	留学生奨学金制度			
103	経済的に就労困難な私費外国人留学生を対象に本学の規定に基づき、審査のうえ授業料を減免している。	留学期間に応じて、奨学金の給付および授業料と施設設備費の減免措置を講じている。		
104	奨学金、学費免除			
105	外国人留学生修学支援奨学金:年間1人につき20万円、年2回に分けて給付	留学生貸与金:長期留学する者には上限1,000,000円を、短期留学する者には上限250,000円を貸与する 長期留学生給付金:別途選考基準により50万円を上限として給付する 交換留学生特別奨学金:サキナハレ-州立大学への交換留学生に長期留学生給付金に加えて30万円を給付する	交換教授:受入れ期間中の給与、健康保険代、研究費、交通費の支給及び住居の無償提供	交換教授:派遣期間中の給与、渡航費、海外旅行保険代、研究費(準備金等)の支給
106		・長期語学留学奨学金制度:1年の留学期間で30万円の補助 ・中期語学留学奨学金制度:半年の留学期間で20万円の補助 ・短期語学留学奨学金制度:1ヶ月の留学期間で15万円の補助		
107	研修にかかる諸費用は、受け入れ側の大学負担			出張扱いとして、交通費・宿泊費・日当等諸費用を全額大学負担
108				教員の短期海外派遣の費用については、大学の特別研究費で補助している。
109	学費免除			
110	研修期間中の生活費の一部(昼食代等)、研修に際しての異動に係る交通費		●●国際医学医療交流センター海外交流支援(奨学金)制度	●●国際医学医療交流センター海外交流支援(奨学金)制度
111	入学金50%負担、授業料30%負担の留学生用奨学金制度			
112	交換留学生協定による受入交換留学生生活援助費(奨学金)など	海外留学奨励費(奨学金)、各種●●奨学金など	短期教員交換協定を締結している大学からの受入教員への支援(宿舎提供) 海外招聘客員教員受入制度による招聘教員への支援(渡航費、生活費、等)	短期教員交換協定を締結している大学への派遣教員への支援(渡航費)
113				派遣先での研究費の負担(一部)
114	国際交流奨学金、授業料免除	国際交流奨学金、授業料免除、往復渡航費支給		
115	奨学金など	奨学金など	宿舎の提供など	滞在費など

Q23. 2018年度における貴大学の看護系の学部・学科、大学院の国際交流の状況について伺います。

H. 海外からの学生・教員の受け入れ、海外への学生・教員の派遣における大学独自の経済的支援の有無とその内容を教えてください。

	学生受入 内容	学生派遣 内容	教員受入 内容	教員派遣 内容
116	「私費外国人留学生授業料減免制度」：成績・経済状況等に考慮して授業料の減免を行っている。	「短期留学生奨学金貸付制度」：留学プログラムに参加する学生に50万円を上限として貸し付けている。		
117		海外演習時に添乗員経費及びその他の雑費を教育予算より支出		海外大学視察時に大学予算から出張費を支出
118		学科独自の学生短期海外研修については、旅費及び滞在費を一部補助。	研究に要する経費、滞在費及び旅費の全部又は一部を支給。（「客員研究員受入れ規程」を適用）	旅費及び滞在費を一部補助。（「海外研修員規程」を適用）
119				教員海外研究活動の出張規程があり、経費の一部を支援している。
120	国際交流協定校からの受入学生については、授業料を免除する制度がある。	国際交流協定校への派遣学生については、授業料を免除する制度がある。	国際交流協定校からの受入については、宿泊費、食事2食、宿舎から大学までの交通費を免除する制度がある。（3ヵ月未満の場合）	国際交流協定校への派遣については、宿泊費、食事2食、宿舎から大学までの交通費を免除する制度がある。（3ヵ月未満の場合）
121	宿舎の提供			
122		奨学金の提供		
123		大学独自の経済的支援：短期留学生対象に8万円の奨励金（TOEIC400点以上または英検2級以上、上限人数あり）		大学独自の経済的支援あり
124	●●奨学金			
125		「派遣留学」により留学する学生に対し、「学生外国留学奨学金」を給付している		学外研修者として選考された場合、滞在費・渡航費を給付している
126	授業料半額免除			研修費の一部負担
127	授業料は半額免除 本学の留学生別科から入学した場合の入学金は免除。また、別科に1学期のみ在籍し、大学へ入学するものについては、入学金を100,000円減額する。			
128		宿舎、異動のための車両借入		宿舎、異動のための車両借入
129				旅費等
130		海外研修生には期間に応じて大学が助成金を給付することがある。		学術研究及び教育の充実・向上を期する目的で、40歳以下の教員が外国において研究に従事する場合、留学（研修を含む）先から給与が支給されない者に対し留学費用を助成する。
131				旅費等全額支給
132	授業料減免制度●●奨学金、●●奨学金	●●大学奨学金留学、協定校派遣留学	教員交流協定に基づく助成	海外研究員派遣制度
133	交換留学生は学費と寮費を免除。在留資格が「留学」の学生には奨学金（105千円～270千円）を給付。	留学先を地域に分けて、奨励金として補助を行う。		
134	日本語能力試験N1取得、日本留学試験「日本語」の得点250点以上取得、J. TEST実用日本語検定の得点を650点以上取得した者は入学金と授業料を50%免除。			

Q24. 2018年度における貴大学のハラスメント防止、コンプライアンスの推進への取り組みについてお伺いします。

C. 発生したハラスメント事例に該当するものを選択してください。〔いくつでも○〕

その他	
1	詳細はハラスメント相談センター内で情報管理される。
2	非公開のため不明
3	相談はあったが、申し立て案件には至らなかった。
4	非公開
5	正式に認定されていないため、回答できない。
6	患者から学生へのハラスメント
7	発生の有無や内容について原則非公開となっている
8	個別事例については非開示

Q25. 2018年度における貴大学の学修支援等についてお伺いします。

C. 大学入学前教育の対象者についてお答えください。[いくつでも○]

その他	
1	一般入試合格者のうち、「生物(4単位)」を履修していない者
2	高等学校において「生物」を未習の入学予定者
3	推薦入学予定者の内、希望者のみ受講
4	一般入試(後期)入学予定者を除く入学予定者
5	地域密着型推薦入学試験
6	奨学生入試、一般入試(前期)、大学入試センター試験利用入試(前期)入学予定者
7	併設校からの入学予定者
8	同窓生子女入学予定者
9	複数のプログラムを用意しており、プログラムごとに対象者が異なる。
10	AO入学および推薦入学予定者
11	指定校推薦入試入学予定者
12	社会人
13	社会人入試
14	推薦入試(専願)入学予定者
15	社会人入学予定者
16	12月までに入学が決定し学生に対して
17	一般入学・センター利用入学予定者の一部
18	一部入試の合格者を対象に実施。ただし、受講は任意。
19	看護学部特別選抜
20	一般入試1月実施者を含む。

Q25. 2018年度における貴大学の学修支援等についてお伺いします。

D. 学習形態についてお答えください。[いくつでも○]

その他	
1	DVDとテキストにより学習し、定められた期限までに確認テストを郵送で提出する。
2	DVD学習
3	スクーリング
4	DVD教材視聴後のテスト実施、添削
5	DVD講座
6	センター試験を受験し、自己採点結果を提出
7	映像授業(DVD)
8	英語テスト
9	課題に対する試験
10	外部委託プログラム
11	学外にて、DVDもしくはテキスト学習後、課題提出や確認テストを実施
12	学力テスト(業者作成)
13	看護に特化したテキスト教材
14	参考書籍の提示
15	通信
16	併設校からの進学者には課題図書3冊の他に予備校作成のアプリを使用
17	理科系科目の学習手引きとして参考となる書物を紹介し、科学・生物学を中心に学習に取り組むことを勧めている。

Q25. 2018年度における貴大学の学修支援等についてお伺いします。

E. 実施体制についてお答えください。[1つだけ○]

その他の自由回答無し

Q25. 2018年度における貴大学の学修支援等についてお伺いします。

F. 費用負担についてお答えください。〔1つだけ○〕

その他	
1	特に費用は発生していない。
2	費用負担は発生しない
3	費用は発生しない
4	負担なし
5	費用は発生しない。
6	希望者のみ、全額自己負担にて実施
7	指定校・系列校特別推薦入試合格者全額大学負担、それ以外の推薦入試合格者は全額自己負担。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

B. よろしければ支援の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—B	
1	新人看護師研修会、臨床実習指導者研修へ教員が参加し指導している。
2	附属病院看護部の臨床実習指導者研修会を年間2回実施し、学生指導の事例検討会を実施している。
3	附属病院看護部とのユニフィケーション活動として、実習指導検討会を定期開催 ●●県等の新任保健師研修への支援
4	大学病院に就職した新人看護師を対象とした研修の支援を行っている。具体的には、心電図モニター、輸液ポンプの管理、採血、胃瘻挿入、洗腸、導尿、酸素療法、感染防止等について支援をしている。
5	学生の看護技術演習に実習指導者が参加して教育連携を図っている。
6	実習施設である医学部附属病院の臨床実習指導者の育成を毎年実習前に6回コースの実習指導者研修を看護部と協働で実施している。内容は、1.実習指導の原理と学生の理解、2.学習環境の整備と看護学実習における教授案、3.実習指導の評価、4.在宅を見据えた実習指導方法、5-6.実習指導の方法
7	研修の講師
8	実習指導者講習会の講師
9	研究指導、講義・演習(事例報告のしかた、質的研究について など)、研修での講師、県内3大学と県とが共同で指導者研修を実施
10	看護学研究科・医学部附属病院看護部連絡会議において、技術研究支援、教育プログラム企画アドバイス、研修講師等の取り組みを企画・実施している。
11	臨床実習指導者研修
12	新人助産師
13	大学病院看護部(看護部長および副看護部長等)と看護学専攻教員(3人)が、1回/月の定例ミーティングを行い、実習指導、指導者研修会等について協議している。
14	一部講習会の講師等を担当
15	文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」の事業中から事業終了後も、引き続き、大学病院の新人看護師育成教育プログラムに参画している。二つ目は大学病院の臨床指導者育成支援として、実習委員会が臨床実習教育に講師として研修を担当している。三つ目は臨床教授制度のもと、臨床教授等連絡協議会を年1回開催し、実習指導の課題を共有している。
16	臨床実習指導者会議の開催、倫理研修
17	実習病院看護師の卒後研修で行われている事例検討会で、大学から助言者として支援している。
18	研修等の講師、委員会委員の就任
19	①臨床での看護研究支援 ②現任教育研修会
20	看護学実習指導者研修の企画会議の委員を引き受けています。また、その講師も多くの教員が引き受けています。また県や市町村保健師の研修(新任期、中堅期、管理期)の企画や研修講師を引き受けています。
21	毎年、2月に看護学科の実習施設の実習担当者らと教員を対象とした、「実習指導者講習会」を開催している。内容の概要は、基調講演・次年度実習スケジュールの紹介・各領域の実習における課題や学生の状況等である。2018年度は「折れない心を育む」のテーマで●●先生(●●大学文学学術院)に講演頂いた。参加者数119名。
22	実地指導者、教育担当者、研修担当者など新人指導に関わる看護職を対象として、新人看護職員指導のための知識、技術を学ぶことを目的とした新人看護職員研修事業を行っている。
23	主要実習施設の新人看護師研修に講師として協力、実習協議会の中で臨床実習指導者研修を実施。保健師については、新人・プリセプター・中堅期・リーダー研修の企画から実施・評価まで関わっている。
24	実習施設の実習指導者に対し「短期実習指導者教育プログラム」を実施し、実習指導に関する講義と演習を大学教員が講師として開催。プログラムにて実習指導案を作成し実習指導の展開につなげている。
25	臨床講師、臨床教授等の称号付与
26	看護研究の支援
27	●●県保健師助産師看護師実習指導者講習会の講師を担当している。
28	・臨床指導者研修における実習の受け入れ ・臨床看護研究指導 ・臨床実習指導者研修会での講義、実習指導 ・附属機関である実践教育センター主催の臨床実習指導者研修の講師として多くの教員が携わっている
29	県内の主な実習施設の管理者と新任者の定着及び人材育成に関する意見交換を行い、職場定着支援及び看護実践能力の育成支援を進めた。
30	OSCEの支援
31	・実習指導者対象に関連図に関する研修会の実施 ・臨床教授等の実習指導者対象の研修会の実施
32	臨床実習指導者の方の研修参加費用の助成を行っている(年に1人)
33	1施設と大学との包括的連携事業で、複数の病棟で新人看護師対象の1時間程度のシミュレーション勉強会の企画と運営支援を、6回/年程度行った。新人看護師研修実地指導者リーダー研修への支援、新人看護師研修への講師派遣を行った。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

B. よろしければ支援の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—B	
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主たる実習施設の看護部長と臨地実習教育協議会を開催し、実習に関する課題を話し合っている。</li> <li>・臨地実習指導者研修会を年1回開催している</li> <li>・新卒者等訪問看護師育成プログラム</li> <li>・大学で臨地実習指導者研修会を行っている。また、小児看護領域として1実習施設と連携し、理論導入と看護の質向上のプロジェクトを実施している。</li> </ul>
35	講師派遣
36	実習先施設との連携協定に基づき、研修等を実施
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人研修における臨床判断能力向上(フィジカルアセスメント)</li> <li>・リーダー研修における看護研究の講義・演習、研究指導、問題解決技法の講義、看護倫理研修等</li> <li>・看護研究の講義と研究指導</li> <li>・新人指導と実習指導者向け講義</li> </ul>
38	研修会、院内研究指導等
39	新人・中堅看護師の現任教育への参画。附属病院の看護師研修にて講義を実施している。
40	実習施設病院(附属病院)の指導者研修カリキュラムの一部として、大学での講義・演習に参加してもらい、大学の教育内容および実習前学生のレディネスを理解してもらっている。
41	医療機関や行政機関における新採用看護師(保健師)研修会のプログラム作成支援と講師の受託
42	臨床実習指導者研修に教員を派遣。
43	県からの委託を受け、助産師研修等を実施している。
44	テーマに対応した講師派遣
45	共同研究の実施、学術集会合同企画運営
46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属病院における新人看護職員研修及び継続教育研修の一部にファシリテーターとして教員が参加</li> <li>・附属病院実習指導者とのワーキング活動の実施</li> </ul>
47	看護学科として臨地実習施設連絡会議を開催し、研修を通じて指導者間の交流の場としている。また、教員と指導者との連携の場とし、実習環境の調整及び実習指導の質の向上に努めている。
48	実習指導方法の検討
49	実習指導者養成研修における担当者との教育内容の協議ならびに講師派遣
50	基礎看護学実習、領域別看護学実習等における実習説明会・報告会の場を活用し、実習受け入れ施設の実習担当者とともに、学生指導の課題、方法等についての検討を行っている。
51	依頼のあった実習施設の職員研修の講師を担当した(年一回)。
52	大学病院が実施している臨床実習指導者研修の講師を派遣している。
53	講義に出向く、指導マニュアルの作成に協力する
54	●●県からの委託事業として「実習指導者研修会」を実施
55	実習施設である●●病院や●●病院と教育研究に関する包括協定を締結し、本学教員と実習指導者との間で、臨床教育合同研修会の実施、看護の質向上を目的とした継続教育に関する取組を実施している。
56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者研修会、事例検討会を行っている。</li> <li>・新人看護師研修や臨床実習指導者教育(勉強会)に講師を派遣している。</li> </ul>
57	施設で企画・計画している研修に参画、教育研究部門での協働を実施している。
58	臨床実習指導者研修
59	病棟で看護師および学生の教育的役割を担う臨床指導ナース育成プログラムにおける講義、演習を学部教員が担当している。
60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属病院4年目看護職対象の看護研究講義</li> <li>・卒後2年目の看護師に対して「看護理論を看護過程に活かす」というテーマで講義</li> <li>・コーチングの研修</li> </ul>
61	大学グループ病院の実習指導者の研修会講師を担当している
62	実習指導者講習会運営会議への参与・講師派遣・実習指導・実習発表会講評者の派遣、院内認定看護師制度の講師派遣、看護管理コース講師派遣
63	大学が看護師との人事交流を行い、新人看護師研修を実施。 臨地実習指導者に対して、実習運営委員長(大学教育)が講義を実施。
64	本学看護学部の教育の理念を踏まえつつ、臨地実習の場において教育と臨地実習指導者との協力により一貫した指導を提供できることを目的として「臨地実習指導者研修会」を年1回(2日間)実施している。
65	臨地実習指導者研修部会および実習委員会による年3回の臨地実習指導者研修会を実施しており、指導体制および協力体制の強化を図っている。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

B. よろしければ支援の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—B	
66	実習施設と大学がグループ法人であり、看護実践・教育に対する基本理念を等しくしていることより、実習施設で行われている現任教育の一部を大学教員が担っている。臨床実習指導者研修においては、本学「臨床看護実践学」「スキルラボ臨床レベル3」(オスキー)に参加することにより学部教育の理解に繋がっている。また、新人看護師研修については、大学の演習室を定期的に開放し、本学教員による看護技術支援と共に卒業生のメンタルフォローを実施している。更に、臨床と大学の協働による看護基礎教育における最適な臨床教育/学修環境と学修モデル構築に向けて、平成29年度より施設側(看護部)と検討を開始した。現在、2病棟を教育モデル病棟に指定し、臨床看護教授や臨床看護講師を付与した実習指導者を中心に実習指導体制を構築中である。
67	看護実践と教育・研究を結びつける人材の育成のため、フューチャー・ナース・ファカルティ育成プログラム(FNFP)を継続して進行している。
68	「看護セミナー」と称する教育セミナーを、年間3～4回程度開催し、主に実習先の看護職者に案内を発送している。(受講料は無料)
69	臨地実習指導者研修
70	実習指導者研修会
71	9月中旬～12月中旬の間、40名を受け入れ、240時間以上の講義・演習・実習指導場面見学等を開催している。
72	実習協議会開催により交流会と討議、実習指導者研修の開催
73	女性医療人キャリア形成センターが大学にあり、その中で自己学習支援プロジェクト、キャリア/メンタルヘルス相談プロセス委員プロジェクト、変革推進力育成プロジェクト、働き方支援プロジェクトなどを行っている。
74	看護キャリア支援センターにおいて、卒後教育プログラムを開講している
75	臨地実習指導者研修会
76	看護研究指導
77	院内研修への講師派遣
78	臨床指導者研修の実施
79	施設での新人研修にあたり、当大学の研修施設(メディカルシミュレーションユニット)を使用されている。研修内容や実施について相談役割を取っている。
80	県主催の新任期研修会等に毎年講師を派遣している。
81	病院の指導者を臨地実習指導者講習会に参加できるようにしている。大学病院と大学の合同教育担当者会議を定期的に行い、話し合いの場としている。
82	臨床実習指導者研修および3年目研修を支援している。
83	実習指導方法、看護過程、研究指導
84	実習協力施設において、臨地教育の指導等、必要な職務を本学実習要項に基づき行う
85	大学と実習施設が合同で臨床実習指導者研修を実施している。
86	平成30年度 ●●県実習指導者講習会に教員3名を講師として派遣した。
87	「看護職者の成長を支援する講座」を継続的に開催している。
88	臨地実習指導者会議を開催し、実習施設との連携を図り、臨地実習における効果的な学生指導及び教育方法について話し合い実習指導に活かしている。
89	教室・実習室・シミュレーターの使用等、研修環境の提供。
90	看護研究の指導
91	ラダー(看護研究)支援
92	本学のシミュレーション教育センターを活用し新人看護師のシミュレーション研修を実施している。
93	実習病院の新人看護師の研究活動(ケーススタディ)の支援を大学の教員が行っている。
94	大学から講師の派遣を行っている。
95	一部の施設での新人看護師研修へ教員等を派遣している
96	学内:FD研修、臨床実習指導者との合同研修 学外:実習病院等における看護師研修講師
97	・実習指導に関する研修会
98	実習室の貸出し、実習生の受入れ
99	実習施設の院内研修(実習指導者研修会)において講師として協力している。毎年1回(9月)に臨地実習指導者研修会を実施している。
100	看護部主催の研修会に講師として派遣。年1回、看護師を対象とした人材育成セミナーを開催。
101	研究指導などの実施

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

B. よろしければ支援の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—B	
102	連携・実習施設等への講師派遣 実習指導者会議を使った指導者研修
103	院内の看護研究に対する研究指導
104	・実習施設のクリニカルラダーの作成 ・他大学への研修等の参加依頼
105	臨床指導者への大学教育カリキュラムの紹介と効果的な実習指導
106	新人看護研修に、大学教員を講師として派遣している。
107	臨床指導者への教育講習
108	臨床実習指導者研修会を実施
109	臨地実習指導者養成研修を終えていない実習指導者候補を対象とした講義を実施
110	研修会への講師派遣
111	・新人看護師研修に使用する備品の貸与 ・実習指導者の事例検討へのコメンテーター
112	指導者連絡会での講義
113	臨床指導者講習会の講師
114	臨床実習指導者研修での講義を担当
115	臨床実習指導研修を4月1回実施
116	熟練者と看護管理者にも対応できるプログラム(年間計画)を作成
117	臨床実習指導者研修会の開催
118	●●病院 研究指導
119	新人看護師研修、シミュレーション研修時の実習室及び備品等の貸与 看護研究、倫理に関する研究の支援 実習施設等の研修会への講師派遣
120	●●県主催の実習指導者講習会について聴講を支援している。
121	同一法人組織である生涯学習センターにおいて保健師助産師看護師実習指導者講習会を開講し、本学関連医療施設や実習受入れ施設の看護師を受講生として募集し、各キャンパスの教員と協働で研修を実施している。
122	実習指導者講習会の開講
123	実習指導の教育的かわりについて
124	実習指導者連絡会における共同FDの開催
125	看護師を対象とした研修会の講師を教員が行っている。
126	認定看護管理者研修と研究指導について、実習施設から依頼を受け講師を派遣している。
127	研究指導
128	研修部において、「看護研究」、「院内教育」、「認知症高齢者の看護」、「外国人受診者を対象とする看護マネジメント」等、計9コースを実施した。また、実習施設の実習指導者等を対象として保健師助産師看護師実習指導者講習会を開催し、臨床系の教員の殆どが担当講師として役割を担った。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

D. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—D	
1	●●大学医学部看護ユニフィケーションシステム推進委員会を組織し、定期的に看護部と看護学科で会議を開催している。
2	人事交流のシステムがあり、大学の演習に大学病院の看護師が臨地講師として参画する。看護部や大学病院主催の研修会等へ大学教員が講師として講義を実施している。
3	講義に非常勤講師となってもらっている。 看護学教育研究支援センターを通して、病院職員の学部での研修受け入れを行っている。
4	演習におけるファシリテーター、演習での指導、病棟でのイベントの協力、入院している子どもとその家族への『遊び』を支援
5	附属病院の看護師を特命助手として研究科へ配置している。
6	病院の看護職員が2～3年程度、大学教員として出向することがあった。
7	実習施設の指導者による講義
8	臨床指導者による講義
9	定期的な委員会を開催している
10	文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」の事業中から事業終了後も、引き続き看護教員が大学病院の新人看護師育成教育プログラムに参画し、また本学科の看護演習科目に臨床の看護師が非常勤講師として任用を受け、教育に関わっている。
11	臨床教授制度の職名を活用し、大学病院から看護師・保健師が看護教員として派遣される連携体制をとっている。
12	医学部附属病院看護部と「看護教育検討会議(2か月に1回)」を実施している。
13	看護学科と附属病院看護部との人事交流を基盤として、看護学科教員が病院で専門領域に係る実践研修を実施することにより教育に必要な看護実践能力、マネジメント能力、実践に貢献する研究能力を高め、また、看護師が看護学科で教育及び実習指導を行う教育実践研修を実施することにより教育力を高めるシステムを確立することを目的としている。
14	本学看護学科は、●●病院とユニフィケーション契約を結んでおり、2018年度は、成人看護領域2名(がん看護のコンサルタント)、基礎看護領域1名(リンパ浮腫外来)が4月から出向という形で病院側から辞令をもらい、活動している。
15	附属病院看護部から教育・研究を行う臨床特任講師として受け入れている。
16	実習施設より教員として異動。ただし、明文化された制度ではない。
17	ユニフィケーション(実習指導者が基礎看護学科目の演習に参加する)
18	大学の設置されている市より、2年任期(交替)で保健師を教員として派遣してもらっている。
19	平成18年から看護連携型ユニフィケーション事業で、1施設と提携しよりよい看護の実現を目指して取り組んできたことを土台に、平成23年に包括的連携協定を結んだ。実践、教育、研究の質の向上を目指して、連携協議会のもと、部会に分かれて事業を展開している。2018年度は、実習施設の専門看護師や認定看護師による学部・大学院の講義、教員の臨床研修の受け入れ、学生・教員のデータ収集への協力、共同研究、学習会や研修会の相互協力、などを行った。
20	実習教育協議会を設立して、臨床実習充実のため交流会や各種企画運営を行っている
21	研修会、研究指導等
22	実習施設の看護師を演習指導者として採用している。
23	附属病院看護部に所属する修士修了者で助教に適任と判断された看護師が、3年程度の期間を大学で助教経験し、また臨床に戻るとい人事交流を行っている。また大学教員で臨床に戻ることが希望した場合も同様である。
24	附属病院看護部との間で人事交流の制度がある。
25	県内の連携協力協定病院をはじめとした病院から受け入れている。
26	教育と現場の交流促進及び看護・教育の実践力向上を目的に、県病院局と人事交流を行っている。
27	医療者が授業の非常勤講師、ゲスト講師として講義を担当。教員が病院の研修会の講師を務めるなど。
28	附属病院との間で人事交流を実施
29	設置母体がおなじ県立大学とのユニフィケーション協定を締結してユニフィケーション事業を年間計画で展開している。看護教員の短期臨床研修や共同研究、学習会の企画運営等を展開している。給料システムの違いや人事交流をする人的ゆとりが双方になことなどから、人事交流は展開できていない。
30	実習が円滑に進むように、年度の実習開始前に各担当教員が病棟での研修を兼ねて、スタッフ間との調整をはかっている。
31	大学病院看護師に看護学部の講義・実習の講師を依頼している。 また、看護学部教員がリカレント教育、実習教育支援、看護研究支援などを行っている。
32	臨地実習前の学生の実践能力の評価と支援
33	実習施設の看護師に講義・演習に来てもらっている
34	本学大学病院からの派遣による教員受入
35	本学教員身分としての出講受け入れ

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

D. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—D	
36	・実習指導者と看護学科教員の交流会(看護学生の実習を支援する体制づくりについて)を行っている。
37	学部教員を医学部における兼任教員と位置づけ、大学病院内で臨床活動に参画している。
38	・就職した卒業生の交流会(6~7月頃)
39	法人内での臨床看護師と教員の人事異動
40	H30年度より、看護部より1名が大学にきている。大学内の講義、演習、実習に参加。
41	「●●大学看護学部・看護学研究科および●●病院看護部連携会議」(=大学側から学部長、研究科長、教務部長、学生支援センター長、実習担当教授が出席。病院(実習施設)側から、看護部長、副看護部長、FDSD部長などが出席。)を毎月一回開催し、実習での課題、評価、その他の情報共有を行い、緊密な連携をとっている。
42	看護職・人材育成センターによる「●● NURSING FESTA」の開催
43	●●大学看護研究会を通して、4つの医学部付属病院と2つの教育機関及び1つのアドバンス(認定看護師教育)コースにおいて交流、年1回学術集会の開催。
44	●●キャンパス看護交流会(看護学科、附属●●病院看護部、●●看護専門学校)
45	臨床講師制度を設けている。
46	例年、「臨地実習検討会」を開催し、実習施設担当者と本学教員との交流を行っている
47	臨地実習指導者研修会、非常勤講師(講義)、学内演習講師
48	人事交流協定の締結
49	本学基礎看護学領域への専任教員での受け入れを公募している。
50	希望する教員には臨地での研修を実施している。
51	教員がCNSとして実習施設の業務を行っている。
52	臨床教授、准教授の制度、授業の担当教員として委嘱している。
53	制度としてはないが、母性の実習施設の母乳育児支援の専門家(国際ラクテーションの資格)である助産師に母性看護学援助論の科目の中で演習を依頼している。
54	実習施設との意見交換の実施。教員が臨床の現場(実習施設)で研修する機会の設定。
55	統合実習の学内発表会(倫理発表会)に実習施設の臨床指導者を招き、実習指導・学生理解における共通認識をもつようにしている。
56	実習病院の看護部長や専門看護師による講義、演習など。
57	教員の研修を実習施設と共同で行っている。
58	実習指導者会議や臨地実習指導者会議へのオブザーバーとしての参加
59	実習施設(国立大学病院機構)から1名(2~3年)、本学の教員として従事される。
60	実習病院の看護スタッフが大学の助手として教員経験を積んでまた臨床現場に戻るといったことはあります。
61	臨床教授(客員教授)として授業や臨地実習指導を担っている。
62	大学講師を実習病院へ出向
63	・研究指導 ・授業でのゲストスピーカー
64	臨地実習指導者が学部授業の非常勤講師を担当。 本学教員が実習施設の看護研究を指導。
65	特別講師や演習講師として講義や演習に協力、病院へ看護過程、看護研究、成人・精神看護学等の講師派遣
66	学部教育において、OSCE評価者、演習担当者として、実習施設から協力を得ている。
67	演習科目(特に、技術習得に関する内容)に実習施設の臨地実習指導者に入っている。
68	実習施設の臨床看護師が非常勤講師として講義の一部をご担当頂いている。
69	・就職説明会 ・関連授業科目のゲストスピーカー
70	実習施設の職員が、人事交流として大学の授業や実習に研修目的で参加している。
71	学部・大学院への非常勤講師派遣
72	大学病院の指導者を大学へ1年間助教として出向する制度がある。
73	3年生後期からの病院実習前の学内実習において、病院看護師が参加している。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

D. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—D	
74	実習施設の看護職者に対する、実習指導
75	カンファレンス
76	実習前研修
77	客員教授として招聘
78	実習施設と大学間で、年1～2回実習連絡協議会を開催し、実習指導における学生指導、支援の向上及び情報共有を行っている。また、学生の学びやすい環境づくりのため、事前研修を通し、指導者と教員による実習内容や方法の検討を行っている。
79	日常生活援助論演習において、実習施設の看護師が模擬患者役として学生の教育の一部を担当している。
80	期間2年にて、実習病院所属団体より看護職を1名受け入れ、助手として大学に勤務。
81	実習施設の看護師等を臨床教員として任命し、学内及び実習施設での教育を教員と共に行っている。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

F. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—F	
1	病棟から依頼を受けて、看護研究に助言することはあり
2	大学病院看護部と看護学科にてFDを共催している。
3	附属病院看護部の臨床実習指導者研修会を年間2回実施し、学生指導の事例検討会、外来での共同研究を実施している。
4	実習施設等の看護スタッフとの共同研究、研修会講師
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師スタッフの研修会の企画に協力している</li> <li>・子ども虐待予防・子育て支援に資する技術・活動の明確化(共同研究)</li> <li>・効果的な禁煙支援活動に関する共同研究</li> <li>・臨床倫理の勉強会を月に1度実施している。また認知症に関する研修、新人研修を年に1度実施している。さらに、国際交流活動も共同して行っており、海外の学生や研究者の見学や講義も共同で実施している。また、実習施設をフィールドに研究を行っており、対象者のルートを実習施設にお願いしており、結果のフィードバックも行っており、実習施設が積極的に研究に参画するようにしている。</li> </ul>
6	退院支援研修に取り組んでいる。
7	実習施設での勉強会等に参加している。
8	共同研究を行っている
9	個別にはなるが協働可能なテーマがあれば共同研究を行っている。
10	大学病院へ共同研究や研究相談に対応する教員一覧を送っている。
11	FDには看護部も参加している。個人レベルであるが、共同研究も進めている。
12	看護研究、在宅看護学実習指導者対象の在宅看護学の到達度を高めるための研修(公開講座)
13	発達障害のある学生に対する実習について、合同研修会を開催したり、実習病院の臨床看護研究のアドバイザーの取り組みをしている
14	実習施設の看護部と本学の教員で構成する連絡会議に研究支援部会を設置し、研究シーズの発掘や研修会を実施している。
15	実習協議会で講演会を行い、学生の理解や実習指導について研修を行っている
16	大学病院の看護師の研究支援、大学病院内の勉強会への参加や講師協力、訪問看護ステーション連絡協議会事例勉強会への参加 小児慢性疾患患者の移行期支援外来における実践・研究、移植後フォローアップ外来での実践・研究、小児がん患者の復学支援プログラムの開発
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院スタッフを共同研究者とした研究を実施している</li> <li>・合同研修会、共同研究</li> </ul>
18	実習施設との共同研究
19	学専攻教員が看護部スタッフに対して研究支援を行う場として、月1回「看研カフェ」を実施している。
20	年に1度、合同でFDを開催している
21	大学病院看護部と保健学科看護学専攻の間で、共同研究支援委員会が設置されている。大学病院との共同研究や大学病院看護師との研究を支援する委員会であり、研究支援の形態(共同研究、スーパーヴァイザー等)を決め、教員との調整を図り、研究を遂行している。
22	附属先駆的看護実践支援センターが開催する附属の大学病院看護部との共同研究及び大学院生、教員用の研修会において、大学病院看護職も参加できるように合同研修として開催している。
23	実習施設の各病棟や部署からの看護研究支援依頼が計画的に年に1回程度あり、研究計画から実施、学会発表、論文投稿までを支援している。
24	医学部附属病院看護部と「看護教育合同研修(年に1回)」を実施している。
25	実習施設の学生指導に関わっている共同研究
26	実習施設を対象とした教育講演等を年2回程度、大学として予算化し実施している。そのほかに、各実習領域ごとに共同研究や研修を実施して。附属病院の実習指導者委員会について、病院スタッフとともに企画運営を行っている。
27	看護学科と附属病院看護部との連携プロジェクト
28	附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションがあり、看護部の看護研究に関わっている。年3～4回の集合研修と各病棟の看護研究を各教員が受け持ち、計画書づくり、倫理審査申請書作成、研究実施、分析および研究発表まで支援している。
29	2017年度から、●●病院看護部と本学教員とで、施設の若手看護師らによる看護研究に関する勉強会を開催し、GWを通じて一連の研究を実施し、発表までのプロセスを学んでいる。
30	臨床教員との交流を行い、実習指導が効果的となるように情報交換等を行っている。
31	主たる実習施設である●●病院と合同勉強会を実施している。
32	各講座・領域単位で実習施設との共同研究に取り組んでいる。合同研修(勉強会)は、精神領域、地域看護領域で取り組んでいる。
33	実習指導者と看護教員の学びと情報交換及び研究指導を目的とした交流会の開催
34	実習施設との共同研究を行う場合、研究費をつけている

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

F. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—F	
35	実習指導のあり方勉強会の開催
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究</li> <li>・共同で家族支援活動を実施</li> <li>・病院内研究発表会の講評</li> <li>・教員個人あるいは領域毎に勉強会、研究会などを開催し、実習施設に周知している。</li> <li>・実習病院の看護研究指導、データ処理を無料で実施している。</li> <li>・大学の研究助成制度に共同研究があり、実習施設との共同で行うための助成がある</li> </ul>
37	<p>本学教諭と現場看護職者が対等な関係で研究的な手法で看護現場の課題に取り組む共同研究を実施している。また共同研究の経過を振り返り、研究成果を広く共有するため、年1回の「共同研究報告と討論の会」を開催している。</p>
38	研究発表交流会、共同研究
39	<p>実習施設からの依頼を受けて、毎年4-5題の研究指導を行い、共同研究として学会発表している。</p> <p>包括連携事業の一環として、次のような取り組みをした。</p>
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力(ナーシングカフェ、教員によるキャリア・サポート研修、シミュレーション教育学習会、看護師研修への講師派遣)</li> <li>②教員によるコンサルテーションの実施(QCサークル、マネジメントリフレクション)</li> <li>③臨床実践能力および実践モデル等の開発・検証に関する共同研究</li> <li>④県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催(赤ちゃん同窓会の企画・運営への教員、学生の参加)</li> </ul>
41	<p>臨地実習指導者研修会として、年1回学内で実習施設の方と本学教員向けの合同研修会を行っている</p> <p>・中堅看護師の教育力向上を目的に、1病院と連携し研修を行っている。次年度からは県内複数の施設を対象に研修会を開催する予定である。企画段階において、病院看護部と連携し、一部成果発表をしている。</p> <p>・制度は特にない。しかし、本学大学院修士の所属する病棟において、修士生を含めた病棟看護師と大学教員との共同研究を行った。</p>
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒者等訪問看護師育成に関する研究</li> <li>・小児病院との「オレム理論」に関する共同研究と勉強会の実施</li> <li>・小児看護領域として1実習施設と連携し、理論導入と看護の質向上のプロジェクトを研究として実施している。具体的には以下を行っている。合同プロジェクトで活動内容の検討・オレムセルフケア不足看護理論の導入による施設の看護過程への理論の導入、理論を取り入れた記録プロセス監査表の作成(ルーブリック表)と監査の実施、・集合形式のワークショップ。各部署の事例検討カンファレンスの実施・促進、・活動の促進について合同プロジェクトでの報告、患者家族への質問紙調査</li> </ul>
43	実習施設からの研究協力依頼に協力している
44	看護コンソーシアムによる意見交換会を定期的実施
45	大学教員が研究代表者となっている研究課題に、実習施設の看護師が研究協力者として参加している。
46	実習FD等
47	共同研究の推進。臨床上の問題を科学的に探求すること目的に共同研究を行なっている。
48	<p>附属病院看護師との共同研究があり、大学主催、看護部主催ともに内容が双方に共通するものであれば参加可能である。卒後教育に関する共同研究が進行中。</p>
49	併設の看護研究交流センター事業の「地域課題研究」において、実習施設等の看護師等と共同研究を行っている。
50	「臨床看護研究支援センター」を設置し、病院等が取り組む臨床看護研究を支援する。
51	臨床研究指導に教員派遣又は共同研究を実施している。
52	毎年度末に臨地実習教育会議を開催し、実習施設と実習の現状を共有・討議し、より良い連携・協働のあり方を検討している。
53	実習指導に関する合同研修会
54	<p>障がいを持つ子どもの療育に携わる看護職者の看護実践力向上のための支援として、実習施設であるこども療育センターにおいて、多職種参加型の合同研修会(講義研修・事例検討会・講演会)を開催している。</p>
55	<p>実習施設から出された研究テーマに対し、共同研究者として参加する教員を募って共同研究を実施。実習施設と大学の研修会を公開し、自由に参加できるようにしている。</p>
56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属病院実習指導者との合同学習会</li> <li>・実習施設との共同研究助成事業</li> </ul>
57	<p>研究については、コミュニティケア教育研究センターが中心となり、実習病院と共同研究を実施している。また、実習施設からの依頼で研究指導を行っている。指導者との懇談会「臨床指導者カフェ」を行っている。</p>
58	<p>看護学科が実施している看護研究発表会に実習病院および施設からも参加できるようにし、実習病院からの看護研究の発表の機会となるように取り組んでいる。</p>
59	目標管理や目標評価などについて、実習施設と大学の共通課題としてコーチングに関する合同研修会を実施した。
60	大学の地域在宅ケア研究センターを中心に、実習施設における看護研究指導、および共同研究を実施している。
61	<p>シーズ・ニーズ・マッチング シンポジウムを開催し、教員が取り組んでいる研究を紹介した。</p> <p>依頼のあった実習施設2施設と共同研究(研究指導を含む)を実施している。</p>

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

F. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—F	
62	毎年、実習施設との連絡協議会を開催して、実習指導について検討を行っている。
63	共同研究、研修会、病院の行事に参加(町の保健室等)
64	FDの中に、臨地教員または実習指導者との連絡会、意見交換会を最も効果的な実習指導方法の構築について探求してゆく。
65	個々の教員が実習病棟等の看護師と共同研究を実施している
66	実習施設である●●病院や●●病院と教育に関する包括協定を締結し、本学教員と実習指導者との間で、臨床教育合同研修会の実施、看護の質向上を目的とした継続教育に関する取組を実施している。
67	年に1回実施 講師を招き、学生との関わり、実習指導について教員、指導者と共に学び理解を深める。
68	事例検討会、主任会での合同研修(勉強会)、医学部講座主催の研修会のアナウンス、倫理の学習会、実習施設の課題に関する内容に関連した研修会の実施を行っている。
69	学部教員の専門領域分野と実習先の要望のマッチングによる研究支援、研究会、勉強会を実施している。
70	公衆衛生看護学実習等指導者研修会
71	・共同研究 ・実習生を指導する看護師への研修プログラムの指導 ・大学院講義の聴講
72	訪問ケースを対象とした共同研究を実施
73	看護研究の講師、看護過程の講師、シミュレーション教育を大学教育が担っている。
74	研究推進委員会所管の「●●大学看護学部の教員と臨地実習関連施設の看護職等との共同で行う看護実践に寄与する研究(臨地実習関連施設との共同研究)」が該当する。毎年学部内で公募を行い、申し合わせ事項に基づき、委員会で採択の可否を審議する。研究期間は採択通知のあった日から、翌年の2月末日までである。平成30年度は予算総額250万円、採択数10件。
75	臨地実習指導者研修会および実習委員会による年3回の臨地実習指導者研修会を実施しており、指導体制および協力体制の強化を図っている。また、教職員ワークショップや大学院FD講演会、研究発表会等を実施しており、本学附属病院の実習指導者も参加している。
76	年1回、実習施設を含むグループ法人全体による学会・学術集会を開催している。
77	病院・施設等との連携を強化することを目的とし、臨床(地)教授・臨床(地)准教授・臨地(地)講師を研究分担者として共同で研究を行っている。
78	①看護教育会議(年3回開催。大学教員全員と看護師長全員が出席する)の開催②聖●●アカデミア(大学と病院が共催で行う学内学会)を毎年実施。研究や業務改善の発表を行っている。
79	看護職・人材育成センターが窓口となって、看護研究指導等を施設職員と大学教員が協力しあっている。
80	●●大学看護研究会内の教育委員会で年2回の研修会、研究委員会で個別研究指導や統計処理の研修会、共同研究の推進を図っている。
81	共同研究、研究指導、勉強会など
82	実習教育連絡会(附属病院、学外実習施設) 第三地区共同研究(看護学科、附属●●病院看護部、●●看護専門学校)
83	各看護領域で共同研究を行っている。
84	臨地実習指導者研修会、病院看護部の看護研究指導
85	看護研究指導が共同研究の形態をとる場合がある
86	実習施設指導者を交えた領域別の研究会等を開催するほか、大学と実習施設の共催で実習指導者研修会を開催している。施設の指導者との会議の中では、実習で起こったエピソードを基にディスカッションを行い学生への理解を深める努力を続けている。
87	大学主催で年に1回、実習施設の指導担当者や管理者の方と教員が、昨今の動向を踏まえた臨床及び学内での指導方法など検討する会議を設けています。2018年度は「学生の気づきや考えを尊重し、リフレクションを促進する実習指導」のテーマで実施し、実習施設から45名の方にご参加いただきました。
88	●●県の複数の保健所の管内保健師の研修会に、教員が講師として継続的に参加している。
89	看護研究指導を行っている。
90	学園内医学会への共同研究、病院主催の看護研究会へ教員も司会や演者として参加している。
91	・看護部研修(年間で1つのテーマ)の講師を務めている。 ・合同研修として高齢者看護に関する勉強会を実施している。 ・実習先の職員の学会発表のためのサポートをしている。
92	附属病院のナースが研修会やセミナーに出席する。 リカレントで地域のナースの研究の指導や共同研究につながるようになっている。
93	共同研究推進の委員会がある。 実習施設の看護研究の相談を教員が受けている。
94	年に1度の臨床指導者講演会を開催している。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

F. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—F	
95	実習説明会、研修会及び意見交換会を実施している。
96	研究指導に出向している看護領域がある。
97	本学教員による看護研究指導
98	実習施設に対し、学生の学内での習熟内容の説明会を実施している。 実習施設との共同研究を行っている。
99	看護教員と臨地実習指導者との合同研究会の開催(招聘講演)
100	提携病院を中心とした実習指導者連絡会に実習指導ワーキンググループを組織化し、実習の評価研究を行っている
101	シミュレーション指導者育成プログラムや、スキルアップ研修を年に2~3回程開催している。さらに研究指導等も行っている。
102	大学の实習に関わる教員と、病院施設の実習に関わるスタッフで合同の実習懇談会を持っていて、その中で特別に講師を呼んで講演を持ったり、共に実習指導について研修する機会を持っている。
103	臨地実習指導者研修セミナー及び指導者カンファレンス、看護研究塾、看護管理研究会を開催している。
104	研究サポート、講義
105	ケア検討会、共同研究
106	実習先からの依頼により研究補助や研究方法の研修などを行う準備がある。
107	附属病院及び実習施設との共同研究あり
108	実習指導に関する研修会
109	本学に臨地実習協議会を置き、その事業の一つとして臨地実習指導者研修会を実施。
110	実習施設とのより良い連携強化を図るため、定期的の実習連携会議を開催している。
111	共同研究の他、合同での公開講座の開催等を行っている。
112	共同研究を実施している。
113	実習施設の指導者を招いてコミュニケーションが困難な学生への対応について合同研修を行っている。
114	専任教員が実習施設へ職員研修の講師として赴く。
115	毎年6月に研修会の実施(大学主催)
116	連携施設の院内看護研究の指導 共同研究希望者は大学組織を通して連携施設に相談できるシステムがある。年に一度全施設を対象に実習指導者協議会を開催し、特別講演や領域とのディスカッションをしている。
117	1年1回、研修会開催、実習指導上の問題点の検討、大学より学術的なトピックスの提供
118	臨床研究(病棟のdataを用いて)
119	・看護研究の指導と共同研究 ・看護研究の講義 ・実習施設における日本看護協会「看護師のクリニカルリーダー」看護研究”の一部担当
120	効果的な実習指導について
121	子育て支援や産後の家庭訪問についての研究を共同で実施している。
122	定期的な臨床指導者との研修会
123	実習指導者連絡会を年1回開催し、実習指導者にも役立つテーマのFD研修会を行っている。
124	共同研究助成制度がある。実習指導に関し合同で研修を行っている。
125	臨地実習指導者様と本学教員との臨地実習での指導方法の研修
126	年に1回 実習施設と合同で「実習中のインシデント」などの課題を設定して話合っている。
127	実習合同連絡会議を、年1回開催している。
128	毎年度、実習指導者研修会を開催し、実習指導に関する講演会、グループワークを実施している。
129	実習施設の院内勉強会への参加 臨地実習関連の共同研究
130	授業・演習の協力、研究会参加、研究指導を行った。
131	毎年1回、大学と実習施設とで一同に集まり、連絡協議会を開催しています。実習指導に関する課題を共有してよりよい実習のための技術をしています。
132	「看護学研究」について、実習先と連携して意見交換会等を不定期であるが実施している。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

F. よろしければ制度・取り組みの内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—F	
133	「看護実践連携研究会」で共同研究等を行い、「看護実践連携研究会発表会」を実施している。
134	実習教育研修会年1回 実習施設指導者との合同研修
135	看護研究指導
136	精神看護学において実習指導者研修会の開催(年2回) 臨地実習指導者研修会(年1回)
137	≪共同研究≫病院からの申し出により、該当領域の教員が取り組んでいる ≪合同研修≫毎年3月に企画している
138	臨地実習の振り返りと今後の課題について意見交換を行い、学生の学びを支援・促進するための実習指導のあり方を考えるため、臨地実習指導者研修会を開催している。
139	病院と大学間の包括協定に基づき、共同研究や講師の派遣等を実施
140	実習教育会議、実習調整会議
141	実習施設からの要請により、研究指導および特定のテーマに基づき講師として勉強会に協力している。
142	臨地実習先の施設(病院、施設等)関係者に対して実習指導者意見交換会を開催し、ワークショップを通じて意見交換や情報の共有を図り、より効果的な実習指導を施す環境と体制を整える取組みを実施している。
143	実習施設の看護部からの依頼を受けて、「看護研究」の講義及び研究指導、看護研究発表会時の講評を、基礎看護学領域教員2名で支援している。
144	実習施設の看護部から担当教員に研究指導の依頼があり、その後共同研究として発展させている。
145	・臨床指導者研修会の開催(「近年の学生の傾向と臨床指導」) ・臨床講義の実施(「看護理論研修会」)
146	本学特別研究助成費において、実習施設との協同によるシミュレーション教育プログラムの開発に係る研究を行った。
147	臨地実習協議会の開催
148	災害の超急性期において実習中の看護学生が行う医療機関支援に関する調査 -医療機関に対するニーズ調査-
149	実習指導者会議
150	看護学科主催で臨地実習指導に関するテーマで講師を依頼し、勉強会を開催している。
151	実習指導者連絡会における共同FDの開催
152	実習施設からの要請により、研究指導及び特定のテーマに基づき、講師として勉強会に協力している。
153	実習協議会を開催し、実習に関連したテーマの講演等を行っている。また、実習協議会とは別に、大学教員、実習施設の看護職を対象に教育・研究に関する研修会を年に一度開催している。このほか、臨床研究に関する研修にも協力している。
154	臨床看護研究推進センターにおいて、国立高度専門医療研究センター看護部における臨床看護研究の推進・発展に寄与するため、看護研究に関する講義・講演・個別指導等を行っている。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

H. よろしければ制度の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—H	
1	臨床経験が20年以上の指導者を「臨床指導教授」、14年以上を「臨床指導准教授」、7年以上を「臨床指導講師」として認定している。
2	附属病院以外の実習先の臨床指導者を臨床准教授や講師に任命している。
3	臨床教授等の称号付与をしている。
4	臨地実習に協力していただける病院や老人保健福祉施設、または地方公共団体の保健行政部門に勤務する優れた看護職者に称号を付与し、実習先の指導体制の充実を図っている。
5	自由意志での参加を募集して、共同研究・共同勉強会を実施しています。
6	臨床経験年数と職位の基準に沿って臨床教授を任命している。
7	授業科目履修規則に定める臨床実習等の指導に協力する医療機関等に所属する医療人に、選考の上、付与する。また、医療機関等における豊富な臨床経験を有し、優れた臨床能力及び教育能力を有するものとする。称号の種類は、臨床教授、臨床准教授、臨床講師とする。
8	実習指導を担当している。
9	看護部長レベルを臨床教授、副看護部長レベルを臨床准教授、看護師長レベルを臨床講師としている。申請に当たっては、大学の基準を満たすことが条件となっている。
10	臨床現場における豊富な臨床経験を有し、優れた臨床能力、教育能力及び研究業績を有する医療人であって、経験年数、業績ならびに専門看護師等の有資格等を要件に看護学科における臨地指導又は本学の非常勤講師として任用されたものに2年以内の年度末(更新可)の間付与。
11	臨地実習委嘱講師制度:臨床経験3年以上、年齢60歳未満の看護職について大学・附属病院との合意で推薦し、教務委員会で審査、学系教授会、学科会議で審議の上、最終決定を行う。
12	実習での役割等に応じ、臨床教授等の称号を付与している。
13	臨床教授、臨床准教授、臨床講師の枠組みを決め、実習施設で推薦していただき、大学で認定している
14	・臨床教員制度 ・実習施設の実習指導者、看護部長等に、臨床教授・臨床准教授・臨床講師となってもらっている。臨床教授等には、講義・演習の講師も担ってもらい、実習を受け入れていただく学生の状況について理解していただく機会としている
15	学外実習施設の実習指導者に対して臨床教授・准教授・講師を設けている。臨地経験、研究業績等に関する審査基準が設けられている。
16	規定を設けて、発令している。
17	「医学部臨床教授等の称号付与に関する規定」ならびに「医学部臨床教授等の称号付与に関する規定の運用方針」に基づき、「臨床教授等選考委員会」での決議を経て、毎年度当初に選考している。
18	臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的として、本学科が行う臨床実習または臨地実習等の臨床教育に関し、本学科が委嘱する学内・学外の保健医療機関等の優れた医療人に対して称号を付与している(臨床指導教授、臨床指導准教授、臨床指導講師)。
19	医学部細則に定める臨床実習等の指導に協力する医療機関等に所属する医療人を対象とし、その所属長の承認を得て、医学部長が付与。医学部及び実習等協力機関等との間の協議の上、作成された臨床実習等のカリキュラムに従い、所属する実習等協力機関等において、臨床実習指導等必要な職務を行う。選考基準:臨床教授(臨床経験を15年以上有する者)、臨床准教授(臨床経験を10年以上有する者)他
20	選考基準を定め、委員会にて履歴書と業績を確認の上、各実習施設の看護部長に臨床教授、副看護部長に臨床准教授、師長および指導担当者に臨床講師の称号を付与している。
21	臨床教授、臨床准教授、臨床講師を3年間の任期で任命している。
22	医学部看護学科における学生の臨床実習を含む臨床教育に協力する本学科以外の優れた医療人に対する称号の付与等に関し必要な事項を定め、もって臨床教育の充実を図る制度である。
23	臨床教育に協力する学外の医療機関等の優れた医療人に対して臨床講師の称号を付与し、臨床教育の指導体制及び教育内容の充実を図っている。臨床講師は、所属する実習協力機関等において、保健学科と実習協力機関等との間で作成された臨床教育カリキュラムに基づき臨床実習指導等を行っている。
24	臨床教授:看護部長 臨床准教授:教育担当副看護部長
25	臨地における講義講師として正式に委嘱または委託契約のうえ、講義を実施していただいている。
26	2018年度の臨床教授等(臨床教授、臨床准教授、講師)の称号付与人数は86名である。毎年5月に任命式を行い、任命状授与および教職員カード(図書館利用可)を配付している。学長から本学の紹介や、国家試験合格状況、就職状況などの情報を提供し、出席者と大学側で意見交換や懇談を通じて理解を深めている。
27	実習施設からの推薦を受けて、職位・経験年数に基づき称号を付与している。
28	実務経験5年以上の実習指導者について、学科の推薦に基づき大学が臨床教育講師の称号を付与している。
29	主たる実習病院(1施設)の看護部長を臨床教授として任命している。
30	主に大学院に関わる医師、看護部長他、学部実習の基幹施設指導者を認定している。
31	実務経験年数に応じて臨地実習教授等の称号を付与する。
32	学士課程では輪唱講師、大学院CNS実習等に臨床教授等の称号を付与している 臨床教授等は経験年数、業績等で講師・准教授・教授を判断している。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

H. よろしければ制度の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—H	
33	看護部長レベルには「臨地教授」、看護副部長レベルには「臨地准教授」の称号を提供することで、実習指導に対する役割意識をもってもらう
34	・現時点では大学院CNSコースで臨床教授制度を導入している。
35	実習指導を担当する指導者を臨床教授、臨床講師、臨床助教に任命している
36	・資格の基準を設けて臨床教授、臨床准教授、臨床講師、臨床助教を付与し、1年ごとに見直しを行っている。
37	●●県の主要な病院の専門医や看護部局長を臨床教授として任命し、学内の講義や臨床の実習などでの学生の指導、育成に協力をいただいている。
38	臨地教育の指導体制の充実を図る目的で、学部生及び大学院生の臨地実習指導を含む教育に協力を得る学外の医療機関等の優れた看護職者に対する称号として、臨床教授(臨地教育機関等において看護部長、看護副部長の職にある者)、臨床講師(看護師長・実習指導者等)を付与している。年1回、臨床教授と本学教授との懇談会を開催している。
39	・臨地実習教育協議会のメンバーである施設の看護部長に「臨床教授」、各実習施設の臨地指導者に「臨地実習講師」の称号を付与、教育歴として換算できる、大学の情報センターの利用などの特典がある。
40	選考基準は、臨床経験年数により、①臨床教授(20年以上の臨床経験)、②臨床准教授(15年以上の臨床経験)、③臨床講師(10年以上の臨床経験)となる。臨床教授等の称号は、臨床実習施設に常勤し、実習教育に直接携わる看護師、保健師等であり、65歳以下である等の要件を満たして選考された者に付与する。なお、臨床教授等としての謝金は支給しない。
41	臨地教授制度を導入。学内教育と臨地教育との連携を強化し、より充実した臨地教育を実施するため、臨地実習を行う病院又は施設等の臨地・臨床実習指導者に対し、臨地教授、臨地准教授又は臨地講師の称号を付与。
42	経験豊かで優れた看護職者等を臨床教授として委嘱し、実習指導等をしていただく。
43	教授会の議を経て臨床教授の称号を付与している。
44	看護教育講師という名称で看護部の推薦者を学内で審議後決定している。
45	臨床講師の称号を授与している。
46	臨床教育の指導体制の充実を目的として、実習等の指導に協力する医療機関の医療人に対して、臨床教授等の称号を付与する。
47	看護学部における看護学教育の充実を図るため、臨地実習等の指導に協力する医療機関等の優れた医療人に対して、看護学臨床教授、看護学臨床准教授又は看護学臨床講師の称号を付与し、職位に応じた役割を果たしていただく。
48	臨地教育の指導体制の充実を図る目的で、実習協力機関に勤務する医療人を対象に、臨地教授等の称号付与を実施している。
49	毎年、教員の推薦により任命している。報酬はない。
50	臨床教授等に推薦できる基準に沿って人選している。
51	・実習指導に協力いただく附属病院の看護師長等に対し、臨床教育教授、臨床教育講師等の称号を付与(3年更新)
52	臨地実習指導講師制度を導入している。
53	県立大学の看護教員を対象にして、規程に基づいて任命している。1年任期で毎年春季に任命し、実習指導や学内の看護学教育への支援をお願いしている。
54	臨地実習における指導体制の充実を図るため、臨地実習協力施設に所属する実習指導者に対して、看護学部長の申請に基づき、学長が臨床教授、臨床准教授及び臨床講師の称号を授与している。
55	称号付与
56	臨地教員制度：臨床経験5年以上、実習指導者講習会等を受講済みの方で、実習施設から推薦を受けた看護師に称号を付与する。さらに、本大学図書館を自由に使用できる権利を付与している。
57	委嘱状の発行のみ(学長名で)
58	外部実習施設実習担当者への非常勤教員委嘱・発令。 本学大学病院実習担当職員への称号付与(臨床教授、臨床准教授、臨床講師)
59	専門領域分野の教育内容(実習指導等)を支援可能な組織的体制がある看護部との協働のもと、臨床教授制を任命依頼している。主に臨地実習指導支援を担当依頼。
60	本学看護学部における実習教育に協力する医療機関等において、臨地教育等に優れた者に対する称号の付与等に関し必要な事項を定め、看護実践教育の指導体制の充実を図るとともに看護の質の向上を図ることを目的として、●●大学看護学部臨地教授等の称号の付与制度を導入している。
61	本学附属病院で実習指導にあたる看護職者に対し、看護臨床教員の併任発令を行っている。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

H. よろしければ制度の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—H	
	「臨床教授等の称号付与に関する規程」により、以下のとおり定められている。(抜粋) (趣旨) この規程は、●●大学(以下「本学」という)における臨床教育に協力する学外の医療機関等(以下「実習等協力機関」という)の優れた医師、看護師等に対する称号の付与に関し必要な事項を定め、以って実習等協力機関との連携強化に資することにより、臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的とする。
62	(称号の種類) 称号の種類は、臨床教授、臨床准教授または臨床講師(以下「臨床教授等」という)とする。 (選考基準) 医師・看護職・技師職系に係る臨床教授等の選考については、医療機関等における豊富な臨床経験を有し、優れた臨床上の業績を有すると認められる者で、原則として次の各基準を満たす者とする。 (1)臨床教授は、保健医療機関等における臨床経験又は臨床教育経験が15年以上の者 (2)臨床准教授は、保健医療機関等における臨床経験又は臨床教育経験が10年以上の者 (3)臨床講師は、保健医療機関等における臨床経験又は臨床教育経験が5年以上の者
63	大学の教育及び臨床実習指導に携わる保健医療福祉の専門職者であり、専門分野について優れた知識と豊富な経験を有しかつ教育に熱意を有する者のうち、教育上必要があると認められる者に臨床(地)教授等の称号を付与する。
64	【学部実習担当者の役割責任】 1. 学部実習担当者は●●大学看護学部の実習カリキュラム・実習目標を理解し、看護管理者とともに効果的な実習となるよう実習環境を整えるよう努める。 2. 担当教員および実習部署スタッフとの連携をとり、実習目標が達成できるように支援する。 【臨床教員】 実習施設指導者に称号を付与する。無報酬。科目単位認定者或いは学長の推薦により、任命する。
65	実習施設に対して臨床教授制度の案内と推薦を行い、被推薦者の役職並びに専門領域に関する臨床教育の実績及び学会発表等を含む研究上の業績・日本看護協会の専門看護師・認定看護師制度等による資格について、本学の基準を基に付与する称号を定め、学部教授会で審議・承認後、証書と共に付与している。
66	学園内講師として、講義・演習を依頼している。 実習指導において調整役・直接指導等を依頼している。
67	25年度より臨床教員を導入している。
68	学部(客員教授)、大学院(臨床教授、准教授)
69	毎年、看護部と実習指導者に臨床教授などの事例を交付している
70	教授会や研究科委員会において、臨床教授等の適任者に対する意見を聴いて、学長が称号を付与する。付与する期間は、原則2年間とし、延長ができる。給与や謝金等の報酬は支給しない。臨床教授等は、看護学実習の指導に当たり、必要な協力を行う。
71	臨床教授
72	大学における臨床教育に協力する学外の医療機関等の優れた医療人に対する称号の付与等に関し、必要事項を定め、臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的とする。 実習先へ制度の内容を伝え、希望に応じて称号を付与している。
73	一部の実習施設の看護部長を臨床教授として委嘱している。
74	本学における臨床教育に協力する医療機関等に所属する、優れた医療人に対して、規定に従い臨床教員(臨床教授、臨床准教授、臨床講師)の称号を授与する。給与の支給は無いが、教員として礼遇される。
75	臨床教授、准教授・講師の制度がある。1年ごとの委嘱である。
76	臨床教授、臨床准教授及び臨床講師を毎年委嘱している。
77	本学附属病院の実習指導者を臨床講師として発令している。
78	臨床教授規程を定め、教授会で承認されて臨床教授(准教授・講師)を委嘱している。実習施設における指導、学内では授業のゲストスピーカー等に來ていただいている。
79	臨床教授、臨床准教授を発令し、連絡会議を開催し、臨地実習の状況報告及び看護教育についての意見・情報交換を行う。
80	実習病院から申請のあった看護師等について、経験年数等に応じ臨地教授・准教授・講師の称号付与をしている。
81	臨床教育等の称号付与に関する内規に詳細を定めている。職務は、①本学の病院において行う実習科目の指導②本学科の教育職員と連携して行う講義演習の担当③その他本学科の臨床教育に必要な事項である。
82	臨地実習等の指導に協力する医療機関等に所属する医療人で臨床系教育の指導に携わる者に付与する。(臨床教授等の照合付与に関する規程 第3条)
83	臨床教授の規定が大学にあり、毎年実習に関わる実習施設のスタッフに辞令を交付している。
84	大学の臨床・臨地実習指導を担当する病院・施設・機関等における豊富な経験を有する優れた指導者に対して、臨床教育講師又は臨地教育講師の称号を与える。
85	臨床教授(客員教授)として任命している。
86	主実習施設の看護部長:臨床教授、副看護部長:臨床准教授、看護師長:臨床講師、実習指導者:臨床助教
87	臨床教授制度

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

H. よろしければ制度の内容等について、具体的にご記入ください。

Q26—H	
88	実習指導に関わる人を施設にリストアップしていただき、教授会で称号の付与を決定し、称号記を送付する。 謝金の支払いはなし。
89	大学臨床教員に関する規定により、臨床教授・准教授・助教の称号を臨地実習施設の看護部長、実習指導者等へ付与している。
90	病態・医学に関する臨床教授制度を導入している
91	本学における臨床教育に協働する学外の医療機関等の優れた医療人に対する称号の付与に関し必要な事項を定め、もって臨床教育の指導體制の充実を図ることを目的としている。
92	管理を臨床教授/准教授として委嘱
93	一部の実習施設において、講義・実習指導者等に臨床教授等の辞令を交付している。 一部の実習施設において、各領域臨地実習指導者に対して助手(看護臨床)の辞令を交付している。
94	各領域長による推薦および上申。学部内の選考基準に沿って書類審査の実施。年度ごとに委嘱している。
95	主たる実習施設4施設の看護部長を臨床教授として任命している。
96	・実習施設の看護部長に対し、臨床教授制度を導入している
97	臨地実習施設の看護師を対象に臨床教授等の称号を付与している
98	規程を作成し、臨床経験年数により、臨床教授、臨床准教授、臨床講師として任命し、学内科目(客観的臨床能力試験)に参加してもらったり、共同で学生の指導に当たる体制を構築したりしている。
99	毎年度、基準を満たす実習施設に対して推薦依頼を行っている。
100	臨地実習に協力する学外の医療機関等の保健医療従事者に対し臨地教授等の称号を付与し、臨地実習の指導體制の充実を図る。
101	本学の教育理念、教育方針等についての講義(1日)を受講していただくことにより授与している
102	看護実践教育の指導體制の充実を図るため、臨地教育に協力する医療機関等の優れた者に対し称号を付与している。
103	非常勤講師として講義の一部を担当
104	実習の指導體制の充実を図るため、臨床教授等の称号付与規定がある。
105	「●●大学看護学部・大学院看護学研究科臨地教授等の付与に関する規程」に基づき運用している。2018年度は5名に付与した。
106	実習施設からの推薦を受けて、経験年数、職位に応じて臨床教授等の授与状を発行し、学生指導をしていただく。
107	臨床教授ではないが、客員教授を任命させていただいている
108	本学における臨床教育の指導體制及び卒後臨床研修の充実を図るため、本学の臨床実習及び卒後臨床研修に協力・連携する本学以外の医療機関等の優れた医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師へ称号を授与することがある。
109	実習の指導體制の充実を図るため、学生の臨地臨床実習教育に協力する学外の優れた医療、保健、福祉専門職に「臨床教授」等の称号を付与する制度を導入している。
110	臨床系の授業科目を担当いただいている医師、薬剤師、及び、実習病院の看護部長、教育担当師長等に、職位に応じた称号を付与している。
111	大学校の看護学教育体制の充実を図る為に任命。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

1. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題はありますか。〔各いくつでも〇〕

※2 「⑧その他」を選択された場合は具体的領域名を下記にご記入ください

その他の具体的領域名	
1	看護学総合実習(統合実習)
2	公衆衛生看護学
3	地域看護学
4	看護管理
5	統合領域
6	【地域看護学実習】2・3・4・5・7・11 【看護統合実習】3・7
7	地域看護学領域 実習指導者が毎年交替される施設があり、実習のPDCAサイクルを回せない実態がある。実習の質を向上させるためには、評価とフィードバックが必要だと考える。
8	看護管理学領域
9	地域
10	総合看護学実習
11	総合実習
12	統合実習
13	災害看護学実習 総合看護
14	全領域に共通
15	公衆衛生看護
16	看護管理学実習
17	公衆衛生
18	看護管理(看護マネジメント)
19	地域看護学領域
20	マネジメント実習
21	地域看護学領域
22	全領域に共通して、学生の質に関する課題を認める。学習支援を必要とする学生が増えている。
23	統合
24	公衆衛生看護・非常勤も含めた教員と実習指導者、スタッフとの人間関係、コミュニケーションなど
25	看護管理学
26	統合実習
27	公衆衛生看護学
28	基礎においては今後のカリキュラム変更で実習目標を地域に変更した場合に施設確保が困難になる可能性がある。 在宅においては実習用自転車(確保・搬送、駐輪場の確保)と交通安全の課題・問題がある。
29	広域看護学領域
30	リハビリテーション看護学
31	グローバルヘルス
32	地域看護学領域
33	看護管理領域
34	地域看護学実習・総合看護学実習
35	緩和ケア
36	成人
37	公衆衛生看護学領域(選択15名)
38	看護基盤学領域、総合看護学領域

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

I. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題がありますか。〔各いくつでも○〕

※2 「⑧その他」を選択された場合は具体的領域名を下記にご記入ください

その他の具体的領域名	
39	地域
40	公衆衛生
41	看護実践発展領域(主として4年生科目を担当)
42	公衆衛生
43	(領域共通)実習施設が遠方の場合、学生の交通費や宿泊費の負担が発生すること。
44	公衆衛生看護学領域
45	総合実習
46	統合実習
47	終末期看護学
48	公衆衛生

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

1. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題はありますか。〔各いくつでも〇〕

※1 「その他の課題」の具体的な内容を下記にご記入ください

「その他の課題」の内容	
1	急性期病院の実習で患者の入院期間の短縮、重症化などにより、基礎看護学実習で受け持つ患者の看護展開が初期の学生には難しくなっており、教育方法の検討が必要だと感じている。 学外施設が遠方であるため、学生が交通費を必要とすることや、移動に時間がかかる。
2	遠方の実習場で行う場合の交通費、宿泊費の学生負担
3	3-15 現在のところこれらのことは問題として顕著ではなく恵まれている実習環境ですが、この環境を維持するために教員一同丁寧な指導と病棟との信頼関係形成を心がけている。 4-15 大学全体の予算の削減、それによる実習経費の維持の困難、そのため新たな実習施設の開拓が困難である患者の病態の複雑化のため受け持ちできる患者が限定される。
4	成人Ⅱ(周術期)では、受け持ち患者がハイリスク手術を受ける場合は、ICUでの実習期間が延長し、学習内容が偏る場合がある。また、治療や病態の理解については、受け持ち患者によって体験の差が大きい。
5	大学の立地上、実習施設への移動方法について、公共交通機関が十分発達しておらず不便であり、車移動を認めると、学生の安全面の確保や近隣駐車場の台数制限などの課題がある。また、学生のレベル低下は社会的課題であり、人件費の確保が課題である。
6	・納得できる実習をさせていただける実習施設が遠くて、安全な交通手段の確保が困難
7	小児:不測の事態(欠員)における分野を超えた学科内での協力か支援体制が整っていない事に起因する実習施設との連携不十分
8	老年看護学実習の対象者は認知症をもち複数の疾病と障害をもつ高齢者が多い。知識や技術はもちろん、状況の判断力や注意力も必要で、事故発生へのリスクが高い状況にある。教員は事故が起こらないよう、常に状況の把握に努める必要があり、教員の負担も大きい。
9	母性看護学と助産学の実習の期間が、2ヶ月間重なっている。
10	当該領域の臨床経験を持たない教員が、学生を指導しきれない状況がある。
11	・入院期間の短縮、病態の複雑化に伴い、受け持ち患者選定における困難がある。 ・男子学生用の更衣室、休憩室確保における困難がある。 ・抗体価の把握と根拠資料を含めた書面での提出など、実習を行うための事務手続きが増えている。 ・学内の講義と実習の両立に物理的困難(時間、距離など)がある
12	成人:実習の内容、構成等、全領域を含めて実習のあり方を検討する必要がある。
13	大学側の教員の不足
14	謝金が安い。
15	●母性:学生が受持ち患者の情報を収集するための学生使用可能なPCが少ない(電子カルテのため)。実習施設内に学生専用の部屋(指導、カンファランス、調べもの;自己学習、学生待機等のために使用できる)が確保できない。 ●小児:長期入院の患者を連続して学生が担当することが多く、患者様の負担になっている ●精神:地域で生活している精神障害者のケアを学ぶ時間をとると入院患者の看護過程展開の時間が不足する ●成人:在院日数の短縮に伴う患者選定の難しさ ●成人:講義や演習科目、実習単位の数に対して看護師免許をもつ教員数の不足に伴い教員の負担が大きい ●在宅:地域の中で多職種で実施されているカンファレンスや、ケア会議への学生の参加が設けにくい ●在宅:訪問看護ステーション以外の多様な場での実習をするための人的、物的資源が不足している
16	母性看護学実習と助産学実習の担当教員が同じ(兼任)であるため、助産学実習が分娩介助が10例程度まで取れず、延長実習となった場合、教員の実習担当の調整が難しくなる。
17	成人:医療安全管理の視点から、学生が計画した看護を実施する機会が減っているように思う。そのためコミュニケーションと看護が多くなり「手」を使う看護の経験が不足してきたことに課題を感じる。 老年:冬場の介護施設の実習では、インフルエンザで急遽閉鎖されることがある。冬場の天候(雪)によっても実習が行えないことがある。
18	老年看護学実習では対象者の身体的リスクが高く、看護技術やケアを実施できないことが増えている。
19	【基礎】技術実践の機会が少なく、学生の経験と臨床における学びの積み重ねに限界がある。 【在宅】実習施設が遠方となる学生がいて、交通費や実習先の移動時間に不公平感を持つ学生がいる。また、教員も巡回しきれない。
20	・ハイリスク産婦が多く、正常分娩例が少なく、学生の受持ちがなかなかできない状況である。 ・教員の指導力。教員の資質に関する問題。
21	⑦在宅 ◆移動中の安全・災害対策対応について ◆遠方の実習施設への交通費
22	母性)超少子化にて、母性看護学実習における分娩見学や褥婦の受け持ちを全員が行うことができないことがある。 小児)感染症に関する課題:実習時期が冬季になると患児・学生のインフルエンザ罹患等により実習の再調整が必要となる。前後の実習場所(高齢者など)との調整も要する。小児病棟、保育所で構成しており伝染性感染症の課題がある。また、小児病棟で付き添っている親御さんから実習を受けてもらえない場合が多くある。教員は現状では不足していないが、対象が成人ではないため、学生自身ではバイタルサイン測定など単独では難しく、実習場所の看護師がすべては付き添えない状況にあり、十分とはいえない。
23	①基礎でのその他の課題は、学生が受け持ち患者からセクシャルハラスメントにあたる言葉を受けることである。 ・精神科の病院の多くは、交通の便が悪い場所にあるため、学生は通学のために公共交通機関を利用することが困難である。 ・病院の設置主体が民間と公立では、看護師の数や質に大きく差があり、学生指導の質に差がある。
24	・実習を受け入れることができる病院に限られており、数か所の病院に集中している。他の看護学校の学生も含め、一年中実習を受け入れて、患者さんの負担や選定を指導者の方がとても気を遣われている。 ・学生の負担(旅費)が大きい

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

1. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題はありますか。〔各いくつでも〇〕

※1 「その他の課題」の具体的内容を下記にご記入ください

「その他の課題」の内容	
25	【基礎】…超急性期病院のため、短期間で受け持ち患者が退院し、実習期間中継続して同じ患者を受け持つことができず、学生がじっくりと関わることができない。
26	臨地実習の記録に関する情報管理について、統一した指導を行うための指針および指導マニュアルが作成されていなかった
27	公共交通機関から離れた施設も実習先確保のため選ばざるを得ず。学生に実習先への交通費の負担がかかる。
28	【老年】介護福祉施設や介護保健施設において、介護設備における指導の格差がある。上記でチェックした項目は、全て介護福祉施設および介護保健施設での課題である。
29	入院期間が短く継続的な受け持ちをすることが困難である。実習に対しての積極性や主体性が低下している。看護技術を経験する機会を得ることが難しい。特に、診療の補助に関する看護技術項目は臨地実習において実施させてよい項目・水準であっても、経験する機会を得ることが困難である。
30	病棟編成のため1つの病棟が閉鎖され実習形の変更。
31	本来は老年看護の対象となるような認知症、脳血管性障害の患者を受け持つことが多い
32	実習先が現在の場所以外にない
33	実習受け入れ人数が少ないため、遠方の実習施設まで、宿泊を伴って実習している。
34	基礎看護学・老年看護学・在宅看護論実習においては、他の養成機関との実習時期との重なりがあり、日程調整や人数調整を行っている。母性看護学実習については、同組織内別科との実習調整が必要である。
35	老年：本学は全て大学病院以外での実習のため、実習施設への交通手段が少なかつたり、通学時間の伸長、交通費の負担増の課題があります。
36	学校間での調整困難(実習先の取り合い) 実習施設が小規模で学生の受け入れ人数が制限かつ男子学生受け入れ不可の施設もあり調整に苦労している
37	受け持ち患者の変更が多くなっている。
38	非常勤、常勤不足と非常勤雇用の予算制限があること
39	これまでに2つの実習施設から、「実習を受けても就職につながらない」という利用で、実習を断られた。
40	全実習日に指導者がつかないこと(働き方改革のために指導者をたてられないという理由)
41	【基礎】臨地実習指導者の勤務状況や指導協力体制が、実習病棟により差があり、時に受け持ち患者選定や、日々の実習調整が難しいことがある。 【母性】①他の教育機関との重複(成人系とは異なり付属・関連病院で複数病棟での実習不可)、②出生数の低下により病棟が閉鎖・混合病棟へ(以上、上記8に関連)
42	・統合実習に関して実習謝礼が高い施設があり、学生を制限したり、他の施設を開拓したりしている。
43	教員の指導力・質の課題
44	老年実習においては、1名の教員の担当学生数が7名と、やや多く、十分な指導が切れる環境とは言い難い。また、高齢者施設と医療機関の2か所での実習を同じ実習期間で実施することにより、双方ともに浅い学習になりやすいリスクがある。在宅実習に関しては、学内実習の日が多く、もっと臨地に出向く実習が理想である。また、実習謝金で現状では安価すぎるので、改善の必要性がある。
45	<母性看護学実習> 実習施設の特徴から、身体的及び心理社会的なハイリスク状況にある対象者方が多く、実習期間内では受け持ちの対象者をホリスティック(全体的・全人的)に理解し、個別的な看護について学びを深めることが困難であると考えます。
46	感染症に罹患しやすく、また蔓延しやすい。 病院の感染管理が医療安全上厳格で、臨床での実習ができないことがある。
47	【成人】受け入れ人数が多いことにより、学生への指導が行き届かない・患者を学生2名で受け持つことも多い。実習費用が高い割には物品はそろっておらず、病棟での学生の居場所がない場合もある。
48	在宅領域-実習施設が遠方の場合、宿泊施設の確保の困難、交通費の負担が大きい。
49	教員が1名体調不良となると、講義の調整などの必要が生じ、ギリギリの人数となっている。 教員数は最低限であり、1人病欠した場合には、実習がたちゆかなくなる。 実習指導者を主任が兼ねており、主任業務に追われていて、指導力がままならない場合がある。 4単位分の老年看護学実習と他の授業科目との時間の重なりで、臨時教員の各話が必要。

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

1. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題はありますか。〔各いくつでも〇〕

※1 「その他の課題」の具体的な内容を下記にご記入ください

	「その他の課題」の内容
50	<p>【母性】少子化・晩産化等により、出産数の減少やハイリスク妊産褥婦が増加しているため、学生が受け持つことが可能な対象者が限られており、1人の対象者を2名～3名の学生(状況によっては他大学の学生)とともに受け持ちをすることが生じている。1施設で受入れ可能な人数も限られることとなり、同時期に実習している他学校との競合も生じており実習施設自体の確保が困難な状況である。スタッフ数の不足や働き方改革を理由に、学生のカンファレンスに臨地実習指導者の参加が得られない施設やプロトコルに沿ったケア中心で根拠に基づいた学びを深める実習指導を得られない施設もある。臨地実習指導者研修を受講したスタッフが常に配置されているとは限らず、指導者の質にも偏りがある。また、宿泊の面(病院付属の寮に宿泊できないなど)から実習施設に限られる場合がある。母性看護領域での実習は県内外含め3施設で行っており、移動距離は最長130Kmとなる。常に学生の体調管理や災害時の危機管理が必要となっている状況である。</p> <p>【成人(慢性)】大学と実習施設が離れており、1日の中で教員が授業と実習指導を両立させることは不可能となっている。慢性看護実習(2年後期)は前期の看護過程展開実習の半年後の学年一斉の実習であるため、学生の習熟度によっては慢性看護を学ぶというより看護過程の展開の復習に終始することになる。また、慢性看護を専門とする教員が少なく、多くは専門外の教員の指導を受けるため、学生の学びに影響が出ている。病院が機能別となり急性期病院が増加したため、病棟実習では慢性期の患者を受け持つことが難しくなっている。病院病棟以外の施設では基礎教育2年目の学生が十分に実習できる指導体制を調整することには限界がある。</p> <p>【在宅】実習施設によっては、学生の交通費・宿泊費に関して経済的負担に差が生じている。</p>
51	<p>基礎:急性期病院での実習のため、入院期間の短縮により、実習期間を通して1人の患者を継続して受け持つことが難しい。また、患者の重症度が高く、基礎実習の学生が受け持つには難易度が高い。</p> <p>小児:看護専門学校との実習重複が多い。専門学校は通年実習しているため実習時期・人数の調整が非常に困難。</p> <p>成人:外来などの多様な実習を実施するために実習部署の確保、人数の制限などの課題がある。</p>
52	冬期間の健康管理が困難である。実習施設が遠いため、交通費がかなり負担となっている。実習指導と講義との調整が困難である。非常勤実習助手の労働環境に問題がある(休憩時間/在宅)。
53	実習施設が遠方であり、学生および教員の負担が大きい。
54	実習病棟の師長、臨床指導者と打ち合わせした内容がスタッフに周知されていなかったり、個々のスタッフの判断で決定事項決が変更される。この施設の実習は現在日数を短くして対応している。
55	慢性:昨今の入院日数の短縮化により2人以上の患者を受け持つ学生も40%くらいいる。3週間の病棟実習が現実に即していないのではないかと思う。退院調整部署や地域との連携も含めた実習にするほうが学生もイメージしやすいと思う。
56	実習施設への所要時間や交通費について、学生間で大きな差が出ないよう配慮している。
57	・(基礎)入院患者の入院日数が短い、コミュニケーションを取りやすい患者様だとケアが少なくなる。
58	・実習施設によっては、学生指導用の場所がとれないところもある。・実習施設によっては、院内PCの使用できる時間・台数に制限があり十分な情報収集ができないことがある。
59	実習施設における感染症発症による実習受け入れ困難
60	実習施設が遠方である(母性看護学領域)。
61	③同じ実習病棟で同じ時期に他の学校と実習が重なっている場合がある。学生に風邪症状、下痢があった場合に感染症でないことを確認しなければ実習できない。→出席日数不足が生じる場合がある。④近位の医療機関に受け入れてもらったので、それを継続し拡大していきたい。⑤同じ実習病棟で他大学と同じ時期に実習しなければならず、学習場所の確保、受け持ち患者の確保が難しい。休憩室や学習する場所が施設の中にないため、学習環境が整えられていない。インフルエンザ等の感染症へのリスク管理が厳重となり、学生が軽度発熱した際もインフルエンザが否定されなければ実習させてもらえない。⑥実習先への交通費(宿泊費)の課題、実習期間を3週間続けて確保することの困難。⑦実習先が県下20ヶ所あり施設ごとに細かな決まりごとがある。複数の施設を1人の教員が受け持つので移動距離が長く時間がかかる。「実習謝金が高い。値上げして欲しい。」と申し出がある。小規模事業所が多いため、急に、閉鎖や吸収合併、経営者変更等あり、その後の調整に時間を要する。
62	実習調整のための会議が病院で開かれるが、複数の学校が実習に入るため、うまく機能していない。
63	②麻酔分娩が主で自然分娩の見学ができない。個室で母子の様子が見えない。受持ちを断られることが多い。④新しい看護系学部の創設などで、これまでの実習先が新しい大学の実習生を取るために、先に入っていた当学が断られたり、毎年新しい実習先を開拓しないとイケない状況がある。また、実習の質が高い病院でも、学校から遠距離であったり、学生の交通費や宿泊費が発生する状況もあり、困難さを感じることもある。⑥実習先が遠方にある。
64	実践能力向上のためには経験させたいが、患者の安全、安楽を考えると実践できる(させられる)ケアが少なく、経験の後のリフレクションにつながりにくい。【成人】
65	実習先が大学から離れており、学生の交通費や宿泊費の負担が多い。月曜日祝日の際に、日程調整が困難になるときがある。
66	・実習施設で資料印刷が必要な時にできない。
67	・現在、精神看護過程を4～5日病院で実習するようになっているが、期間が短すぎて十分な学びになっていない。(病院実習指導者からも多く指摘されている)
68	学生が同行する許可をいただけない療養者(家族)があり、受け持ち療養者以外の同行訪問できる件数を確保できない:ちなみに一日1～2件
	交通手段
	在宅:看取りの対応(学生へのフォロー)が難しい

Q26. 2018年度における貴大学の実習施設等との教育連携についてお伺いします。

1. 看護系課程に関わる臨地実習について課題や問題はありますか。〔各いくつでも〇〕

※1 「その他の課題」の具体的内容を下記にご記入ください

「その他の課題」の内容	
69	小児:小児と泌尿器・整形外科の混合病で、産休や病欠等が多くあり、看護体制が変化した等の状況があった病棟では、指導者がカンファレンス等に入れずに臨床側からのフィードバックがもらえない状況、また、受け持ち児のケアに病棟看護師が入ってもらえない状況が続いた。 在宅:学校のカリキュラム上、在宅看護領域において実習期間が3週間が望ましいが2週間しか取れないことである。当校が位置する●●市では地域ケアプラザという独自の地域包括支援センターを含む施設での実習が1週間と、訪問看護実習1週間の計2週間を実施しているが、前者1週間、後者2週間の計3週間確保出来ると、学生の視点が偏ることなく、また深い学びにつながると考える。
70	(小児)入院日数の短縮、入院患児の減少。(母性)分娩件数の減少。
71	実習施設で学生が学習できる場所がない
72	実習施設のスタッフの中で、実習方法の伝達がなされていない。
73	入学生の基礎的な学習習慣や学習形態の好み(動画など)の変化が毎年異なり対応が必要。看護師の指導のちがいでよって学生がとまどう場面があった。複数の実習施設があるのでそれぞれの施設によって課題や問題は異なる。
74	実習先が本学から遠隔地にあり公共交通機関での通学が困難な施設がある。このため本学から実習先までの交通手段に負担が少ない施設を確保することに苦労している。
75	小児領域:年々、実習施設における小児ベッド数が減少し、結果として受持ち患者が不足している状況。
76	急性期実習(手術後)の学ばせ方:患者の変化に看護計画が追いつけない(成人看護学)
77	実習内容において継続的な保健指導(個別支援家庭訪問)の経験ができない。
78	同行訪問看護実習で自転車が必要の際に、自転車を準備する課題がある。具体的には、レンタル期間、費用、駐輪場の確保など。
79	・中小規模病院がほとんどである。 ・専門学校(3年課程)及び准看護学校の実習生の受け入れが大半を占めている。

Q27. 2018年度における貴大学の保健師、助産師および養護教諭の教育課程についてお伺いします。

C. 保健師課程に関わる実習で課題や問題はありますか。〔いつでも○〕

その他	
1	交通費、宿泊費の学生負担
2	実習地が離島など遠方であるため、教員が現地に指導に行くための旅費確保が難しい。
3	ICTリテラシーが低く、学内演習・実習での地域診断の課題に十分に取り組めない学生がいる。
4	・実習謝金が、十分に支払えない。
5	実習地が被災した場合の対応
6	8と10に○を付けましたが、この課題については、臨地の指導者と共有しながら、できる対応はしているところです。時代の流れと実習時期の関係で致し方ないという内容です。
7	・同一事例に複数回の家庭訪問をすることが難しい。 ・実習単位が少ないため、公衆衛生看護管理の内容を実習に入れ込むことが難しい。 ・保健師課程の学生間にも学習意欲に差があり、学習達成度が低いグループができてしまう。
8	台風等自然災害発生時の実施の判断、実習中の交通事故対応、宿泊施設の対応。
9	超少子化にて、母性看護学実習における分娩見学や褥婦の受け持ちを全員が行うことができないことがある。 行政を中心とした実習施設の協力のもとに実習が成立している。実習以外の場面において、大学と行政等と一緒に仕事(研究や研修)をすることが重要だと感じる。
10	定員が5名と設定されているために、受験倍率が5倍もあるのに入学させられない。
11	学生の離島実習の費用負担
12	市町実習は2週間であるため、継続訪問の事例選定に苦慮している。
13	遠方での実習施設となる場合、宿泊費、交通費について学生に負担がかかる。
14	看護師の実習と重ならないように実習を配置するため実習時期が遅くなる。
15	実践の質の課題(多忙すぎるため日々責務をこなすのに精一杯の様子)
16	春季休業を返上して集中講義を実施しなくてはならない。
17	文部科学省到達目標と厚生労働省保健師到達水準の擦りあわせ(統一基準)がないこと
18	実習先によって、学生の通う時間や交通費に差が出る。
19	企業での実習施設の確保が困難である。(継続して受け入れてもらえない)
20	高齢者対象の事業が保健センター、保健所では不足する
21	産業保健に関する実習施設について、企業側の組織再編や工場の海外移動などのご事情により、継続的な確保が困難です。
22	・訪問、相談、検診等の場面で支援を体験する機会が確保できない。 ・継続した指導を学ぶ機会が確保できない。
23	行政看護実習では、実習施設により体験できる内容に差があること。
24	公共交通機関で実習先に行くことが時間的に無理なので、宿泊したいが近隣にホテルがない。宿泊費も学生の負担となっている。また学生の自家用車で実習先にも行っているが、片道1時間近くの運転が学生の負担でもある。安全上学生たちは気をつけているが危険性も高い。
25	事業の外部委託(乳幼児の集団健診、母親学級等の事業委託)により、臨時で実施していない事業が増加傾向にあり、学生が体系的に学ぶことができない。
26	実習中の宿泊施設の確保。実習施設への移動、実習中の移動など交通の便が悪く、費用の負担が大きい。
27	学生の服装
28	交通費や宿泊費に関して大学からの補助はなく、学生の個人負担になっており、学生間で負担額に差が生じている。
29	実習施設が県内全域を対象としていることから、施設までの距離が遠くなる学生もおり、所要時間と交通費の面で学生の負担が大きいこと。また、学生への負担について差が出ないように配慮している。
30	・交通が不便 ・運転が危険
31	現在県内大学の実習日程調整は、公平に行われているとはいえない状況である。日程調整を担当している県に対しては、不公平な日程調整のありかたについては是正の検討をして欲しい。
32	遠方施設への宿泊費用、宿泊施設の確保
33	・5週間の行政実習を行うことが実習の受け入れ条件となっているため、学校や産業の実習を組むことが難しい。 ・卒業時の到達目標と到達度の達成が5単位の实習では難しい。
34	保健所実習において、実習先の保健師スタッフの実習指導に対するモチベーションの差
35	訪問活動の同伴を希望しているが、保健センター以外の他課との調整が難因であったり、多問題ケースへの同伴が難因であることが多いため、学生が経験することが年々少なくなっている。
36	交通の便が悪い実習先が多く、移動に時間を要する

Q27. 2018年度における貴大学の保健師、助産師および養護教諭の教育課程についてお伺いします。

C. 保健師課程に関わる実習で課題や問題はありますか。〔いくつでも○〕

その他	
37	保健師教育課程に在籍していても保健師就職希望者が少ない
38	1.行政実習では、政令市、中核市と市区町村で事業の体験に差がある。 2.実習地の継続が出来ないために、学生の学修に情報などの積み上げが無い。可能ならば5年程度は継続できるとよい。
39	実習先が本学から遠隔地にあり公共交通機関での通学が困難な施設がある。このため本学から実習先までの交通手段に負担が少ない施設を確保することに苦労している。
40	実習施設不足が基盤にはありますが、毎年実習施設(地域)が県内エリアで異なるため、県内でも遠距離(特急で移動することや移動時間に片道2時間以上も要す)通学や宿泊が必要となるなど、学生の経済的負担が大きいこと、さらにその額が毎年異なることが課題となっております。

Q27. 2018年度における貴大学の保健師、助産師および養護教諭の教育課程についてお伺いします。

F. 助産師課程に関わる実習で課題や問題はありますか。[いくつかでも○]

	その他
1	臨床の場における教員の学生や臨床の方への関わり方などについて。また、助産所実習では学生2人が1泊2日で実習を行い、その施設責任者の方が夜勤に入ってくださいるので、調整が大変である。
2	ローリスクの対象者が少なく分娩数も少なくなっている為、目標分娩介助数に達するため、延長実習となり次の科目に支障が出る状況が予想されている。
3	助産学と母性看護学の実習を同時期に行わなければならない。また、実習先の産科取りやめ、閉院などが続いている。産婦人科医会より、実習受入れは医師会の看護学校が第一優先、ついで入学試験に社会人枠があるところ、第3に実習受入れの余裕があること等の取り決めがあり、新たな実習先の開拓ができない。他県からの越境実習の問い合わせもあっている。
4	修士課程で助産師教育課程を持っているため、定員はきまっていない
5	実習に関連する宿泊・交通費等の負担が課題として挙げられる。
6	夜間帯や休日の分娩介助実習を行わないと、8名の助産学生が10例程度の分娩介助を実習期間内に行うことが困難である。教員の時間外労働が多くなり、代休も助産実習中は取得できない。教員の人数がぎりぎりの状態なので、病気などで休む教員がでると、対応が困難な状況となる。
7	14施設を開拓して実習を実施しているが、教員削減が計画されていることから、実習指導にまわる教員が不足している。また、広域にわたる実習のため、教員の施設移動時の安全(公用車運転で長距離移動等)について課題がある。
8	分娩介助に関して産婦および家族から同意を得ることが年々困難になっている。中には『資格がない人に分娩介助をしてほしくない』と意思表示される事例も増えている。
9	2年間の就業年数で、修士号の取得と助産師国家試験受験資格を取得するためには、学生にとって講義・演習・実習が過密である。
10	正常分娩が日中だけでは確保が難しく、夜間実習の対応が必要となっている。そのため、教員の負担が大きい。
11	分娩取り扱い件数を10例以上としており、土日祭日も待機して取り扱っているが、実習期間内でおわることがない。大学内での統合カリキュラムで他の看護学実習修了後に助産学実習を実施しているので、看護学実習における実習期間に変更がある場合、実習施設との調整も慎重を要する。
12	実習施設が遠方(大学から離れている)である為及び実習が夜間もある為(防犯上タクシー利用)に学生の経費負担が増える。
13	学生1人あたり10例程度の分娩介助を達成するためには、実習期間を本来の5週間に加えて、1～5週間程度延長しなければならないこと
14	分娩件数が少なく、学生の待機時間が長い。 分娩件数の確保のため、遠方の分娩施設で実習を行わざるを得ず、宿泊費や交通費で学生に負担がかかる。
15	指導の下にはあるが危険な分娩介助を10例程度実施させなければならないという指定規則である。他の看護職の実習と比べて格段のハイリスク行為である。ローリスク産婦の減少している中でこの10例程度は大変困難である。実際の分娩介助は資格取得後に行うよう改正を求める。
16	実習できる施設が少なく、確保に苦労している。また、分娩数の確保のため、深夜の実習も行わざるを得ない。
17	学生の質としては問題ないが、看護基礎教育で実習経験が少なくなっており、助産の実習とのギャップが大きい(清潔操作、導尿、ルートのある人の更衣、シリンジの扱いなど)。分娩介助技術以前に、習得しなければいけない看護技術が多くなっている。 里帰り分娩が多いため、継続事例の受け持ち時の妊娠週数が遅れ気味になる。 ローリスク妊婦の減少により、分娩はあるが学生が受け持てる対象者数が少ない。
18	東西に長い●●県内全域の医療施設を実習場所として、学生は宿泊で実習に赴いている。
19	学生一人あたり10名の分娩介助数を確保するため、実習期間を延長せざるを得ない状況である。
20	①学部課程に設置している場合、担当教員は母性看護学を同時に担当せざるを得ない。助産教育の最低限の質の担保が可能な人数を現実的な根拠をもち、設定(規定)する必要がある。教員数が絶対的に不足しており、定員数の教育は質的にも安全面からも、不可能である。②明らかに出生数が減少しており、質の高い教育が受けられる施設を選択し24時間オンコール体制を敷いても規定の分娩件数に満たず延長実習を必要とする。件数を満たせば質が担保されるという認識では、今後は質保証が困難となると考える。以上、調査の結果から具体的な解決策を導いて頂きたい。
21	学生が介助可能なローリスクの分娩が年々減少し、ハイリスク化し、指導者の協力を得てなんとか受け持っている状況である。出生直後の新生児の観察・ケアを経験させたいが、新生児の状況が悪化し学生では対応不可能となることが多く、経験させることができない。ローリスクの産婦からの受け持ち拒否がある。実習指導に教員の時間を取られ、他の大学業務が滞っている。
22	計画分娩の急増加のため、実習対象として課題が残る。
23	分娩が常に一定あるわけではなく、受け持ちできる産婦がないことがある。 実習場の確保が難しい、他の教育機関との日程調整に多大な労力を要する 実習指導者と教員の役割の不明確さ(教育課程の教員が実習で現場に張り付いている必要性がない状況でも、教員の存在が求められる)
24	他大学の实習と同時期に実習を行うことで調整が大変
25	遠方施設への宿泊費用、宿泊施設の確保
26	大学4年間の教育過程の中で、助産学の講義、実習を入れ込むことが難しい。助産学実習は、4年次において長期間に及ぶため、国家試験対策、特に看護師国家試験対策の準備期間確保が難しい状況である。
27	土日、夜間にかかわらず、教員がついていないと学生の実習が全くできない実習施設がある。また、継続事例実習で事例が分娩となる場合であっても実習指導者が不在の場合には、分娩介助などの実施は許可できない、見学であると言われる施設がある。
28	指導助産師不足のため、教員が分娩介助する場合の責任の問題。教員の働き方改革問題。

Q27. 2018年度における貴大学の保健師、助産師および養護教諭の教育課程についてお伺いします。

I. 養護教諭1種の教育課程に関わる実習で課題や問題がありますか。[いくつでも○]

その他	
1	養護実習は看護学実習との兼ね合いで、夏休みを使った実習を9月に実施していることから、採用試験後に養護実習を行うようになる
2	学部(保健学科)、大学院(保健学専攻)としてではなく、総合大学としての教職課程があり、養護教諭を希望する学生は主体的に自己管理のもと履修する。よって定員はなく希望者が履修。実態として毎年十数名が履修している。
3	養護教諭1種は、大学内別組織での教育課程のため詳細は不明
4	カリキュラムが過密になる。
5	看護師や保健師課程と重ならないように実習を配置するため実習時期が遅くなる。
6	実習校への教員訪問が県内に限り、他県には電話訪問で対応。
7	看護に関する科目との実施時期の調整
8	採用試験の倍率が高く、就職が困難である
9	定員数は10人でしたが、定員数制限は希望者GPA62.5以上が基準です(ので、10人程度)。教職課程(高校看護とのダブル受講)選択学生のカリキュラム調整
10	養護実習を4年次の9月に行っている。教員採用試験(7,8月)の前に学校現場を体験することが望ましく、学校現場からも同様の声が聞かれるが、看護の臨地実習のスケジュールの都合で難しいこと。
11	看護学がメインのカリキュラムであるため、教職としての学びが乏しいという課題がある。それゆえに、唯一の学校現場での実習である教育実習は充実したものであるよう実習校の選定は毎年苦慮している。
12	①本学科の養護教諭育成は「看護師の資格を持った養護教諭」の養成であるため、看護の学びとしての臨床実習を含めた多くのカリキュラムをこなすことに重点が置かれ、養護教諭としての学びの時間を確保することが難しくなっている。②成績の上で、看護師課程との両立が難しくなりつつあり、教職課程を選択する学生数が減っている。
13	養護教諭免許状のみ(採用試験を受けない)を希望している学生に対して、実習校から指導を頂くことがあります。
14	教育実習と他の授業、実習との日程調整が難しい。教育実習の実習時期は事前に実習先との調整が大切である。養護教諭1種の定員について、特に設けていない。
15	カリキュラム編成上、看護専門科目との調整(時間および日程調整含む)。

Q30. 2018年度の看護系の学部・学科、大学院の学内研究費についてお伺いします。〔各数値回答〕

その他内容	
1	教育研究基盤校費(大学院生分)
2	職責に応じて研究費の配分率を決定しておらず、職責毎の一人あたりの平均金額を回答することができません。当該数値は、毎年講座毎に教育経費、研究経費を一定割合で配分しており、平成30年度の研究経費執行分を現員数で割り崩した金額となります。
3	保健学研究科では職位によって研究費の配分単価を決定していないため回答未記入。
4	研究室の人数により配分類が決定しており(職名による違いなし)、1人講座 660,000円、2人講座 810,000円、3人講座 960,000円、4人以上所属講座 1人当たり290,000円。これに次が加算される。個人の科研費申請件数により配分する経費あり。博士課程前期学生一人につき 67,000円、博士課程後期学生一人につき156,000円、上記学生の留学生一人につき 30,000円加算、研究生一人につき1月あたり1,300円加算。
5	大学院生 看護学研究科修士課程(看護学専攻)1年
6	上記は「実験系」教員の金額。「非実験系」については、教授 359,000円、准教授 300,000円、講師 263,000円、助教 232,000円、助手 200,000円。大学院博士後期課程の院生研究費は150,000円(ただし、博士前期課程は120,000円、博士前期課程長期在学コースは80,000円)
7	その他学長が特に認める者
8	非常勤助手・臨時助手は調整費として1人あたり60,000円(旅費を含む)を配分している。
9	特任助教
10	ただし、上記各金額のほか、傾斜的研究費による分配あり(各個人により変動)。また、講師として一時的にお願いした方については、謝金として支払いあり。
11	特任教授
12	看護教育研修センター(認定看護師教育課程の教員)
13	専任教員に一律配分、別途学内競争的資金あり。
14	*旅費:教授127,000円、准教授:110,000円、講師91,000円、助教81,000円 *共同研究費:2,500,000円(学部内公募)
15	教育講師
16	研究課題ごとに設定
17	特任教育教授
18	学部、大学院ともに職位によらない。学部は、1名あたり230,000円、大学院は1名あたり190,000円。但し、上記に教育活動費も含む。
19	客員教授
20	学内研究助成があり、各研究者に公募し、採択されれば個人研究とは別に配分する。
21	大学院を兼任している教員には、別途200,000円追加している。
22	個々に金額を定めている。
23	看護学部の共同研究費として準備、採択件数、研究内容により配分を行う。
24	前年度に外部研究資金への申請がなかった教員(外部研究資金による研究を実施中の教員除く)は上記金額から50,000円減額する。
25	学長裁量経費
26	本学においては職位に応じて一律の研究費配分は行っておらず、研究業績に応じて研究費の配分を行っている。
27	65歳(定年)以上の特約教授
28	教員研究費のみ記載
29	大学院担当の専任教員はプラス5万円/年学
30	特任教授
31	嘱託講師
32	学部共同研究費年間3,000,000円
33	助手については、学部独自で配賦している。
34	ナース白衣、ナースシューズ費用も含む
35	学部共同研究費 年間 2,00,000円
36	学長重点配分経費 2,000,000円、共同研究費 3,000,000円
37	国立高度専門医療研究センターの臨床教員

Q36. 本調査に関するご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

Q36	
1	保健師養成 産業保健支払い分(10,725円)の入力欄がなかったので、こちらで報告させていただきます。
2	Q24のBに関しては大学が公表しておりませんので、無回答とします。
3	教員では回答できないことが多い。もう少し質問項目を絞って欲しい。 Q24のB及びCについて、本学では、懲戒処分については公表しておりますが、その他は公表しておりませんので回答いたしかねます。
4	Q28.A: 初年度学納金のうちその他(¥116,042)の主な内訳は、感染症検査費用、学生教育研究災害傷害保険料、後援会費、同窓会費等である。 Q31.~33.: 各実習における学生への補助金は、学生の父母等を主体として組織する後援会から支出している。 この研究が、大学の課題解決のきっかけになることを望みます。(教員の数の少なさ、教員の質の多様さが全国的に問題と感ずます)
5	Q3、Q14 本学は学部前期課程2年次において進学選択制度を用い、3年次(後期課程)へ進学するため、ここでは入学者数ではなく看護系学科(後期課程)への「進学者数」を明記しています Q14 本学は学部前期課程2年次において進学選択制度を用い、3年次(後期課程)へ進学しますが、進学選択制度において、志願者数の算出はできないことから、志願者数は入学者数と同じ数を記載しています。 Q14 「修士課程または博士前期課程院生」の「上記以外のコース」は「看護師コース」になります。 Q24BC これについては回答いたしません Q35 RAは月額単価のため、この形式では回答不能です
6	大学院が5年一貫の博士課程であり、博士課程前期と博士課程後期に分けての実績を入力することが難しい状況です。本調査では、博士課程後期に入力しております。
7	看護教育(保・助・看)の質を担保するために、どの程度の教員数が適性なのか示してください。昔から変わらぬ内容で、現在の指定規則や看護基礎教育検討会報告書の内容が実施可能でしょうか？ 最低限数の表示ではなく必要数の掲示を早急をお願いします。
8	Q35「年間総勤務日数」の欄については、日数管理をしていないため記入できません。
9	・Q24については、発生の有無や内容については公表しないこととしている。
10	Q27-B:「②大学院」は保健師教育課程(公衆衛生看護学科目群)の定員はなし。保健科学院修士課程の定員は40名。 Q27-E:「②大学院」は助産師教育課程(助産学科目群)の定員はなし。保健科学院修士課程の定員は40名。 Q35「年間総勤務日数」を算出することが困難であることから、便宜上、「年間総勤務時間数」として記載しております。
11	Q26-I は、看護管理学・保健学・助産などの領域も加えて頂きたい。 Q28-A: 大学の入学金は県内225,600円、それ以外338,400円。
12	【Q28】A,Bともに、県外在住者の入学金は423,000円である。 【Q32-B】実習委託料は、1週間あたりの金額である。
13	Q28.A その他後援会費として、学部50,000円、別科12,500円を徴収 〃 入学金(学部・大学院)県内居住者は282,000円
14	初年度学納金について 入学科 県外在住者564,000円、県内居住者282,000円。入学科、授業料は学部・大学院とも同額である。
15	Q28の入学金について、学部・博士前期・博士後期の県内学生の入学金は226,000円です。
16	Q28-A: 大学の入学金は区域内141,000円、区域外282,000円。 Q28-B: 博士前期課程の研究コースと博士後期課程の入学金は区域内141,000円、区域外282,000円。
17	Q28のA及びBの設問について、入学科は県内居住者と県外居住者で異なります。(211,500円(県内居住者)、423,000円(県外居住者)) Q29は看護学科の授業料減免額の実績を記載しています。
18	●●市内居住者入学金:141,000円(大学)、84,600円(助産学専攻科)、141,000円(大学院/研究・CNS)
19	Q28.A. 大学の初年度の学納金についての金額について・・・県内生は282,000円 となります。
20	Q35 RAの「時給の方」・・・時給額が10月より820円 本学は実習の教育・指導は大学教員(常勤)で行っているため、大学が雇用している実習担当者(17.Q31)は該当せず、記載できなかった。
21	Q28-A: 大学の入学金は県内出身282,000円、県外出身564,000円／その他は後援会費100,000円
22	Q28補足 A大学入学金 県内者188,000円、県外者376,000円 B研究コース・専門看護師課程(CNS)入学金 本学卒業生94,000円、本学卒業生以外の県内者188,000円、本学卒業生以外の県外者376,000円
23	Q28-A,Bの入学金については県外出身者の金額を入力。県内出身者の入学金は282,000円です。
24	入学金については、県内者は232,000 県外は332,000であるが、シートが保護されているため2段書きができなかったため、その部分は県内・県外で記載できるように様式を修正していただけるとありがたい。
25	Q28-A: 入学金は市内141,000円、市外282,000円。施設設備費は市内25,000円、市外50,000円。
26	Q28-A 県内生の入学金 282,000円 Q31-B,E、Q32-Bの時間給は、日額を勤務時間数(7時間45分)により換算した額

Q36. 本調査に関するご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

Q36

27	性別の統計が必要ない箇所もあると思います。ご検討ください。
28	Q28.Aの学納金については、「その他」に父母会の委託徴収金80,000円を含む。
29	Q31.C, Q32.Cについては、父母会からの補助。 Q24-B, Cについては発生の有無や内容について公表しないこととしている。 Q28-A 学納金の実験実習費について、保健師を選択しない場合は4年次のみ年間240,000円になる。
30	養護教諭1種課程の定員は定められていないため、3年生の履修者数を記載した。
31	【記述欄】入力にはできるが、印刷すると文字が途中で読めなくなってしまうため、Excelの「シート保護」を解除した設定にしていたらと事務作業が助かります。
32	Q31-A, Q31-D, Q32-A, Q33-Aにおける実習補助員の勤務総日数について、外部の実習委託施設の勤務状況を把握できないため、空欄としています。
33	Q24について、発生の有無や内容については公表しないこととしている。
34	【Q19】※なお、本学はFD, SDを区別せず、全て「FDSD研修会」とし、すべての教職員が参加できる内容で行っている。 今後の調査結果を教育だけでなく、地域医療の人材確保の観点から広く情報公開してもらいたいと考える。協議会や協会がこの結果を「政策」の一つの資料として位置付けているが、もっと社会全体に情報共有することで、地域の医療格差への解決に繋がればと考える。
35	【補足】 Q24-G: 利益相反に関する金銭的情報についての該当有無に関わらず、報告させている。 Q28-B: 大学院に進学する学内出身者に対して、入学金を免除しています。 得られたデータを国の施策に反映させていただきたい。また、結果がまとまったら配信させていただきたい。
36	・Q14について、学部生うち編入学生①入学定員の20名は、健康科学部看護学科時の定員。 ・Q31-Aについて、非常勤教員の勤務総日数は、2893.5H(日数では算出不可のため)。 ・Q31-Dについて、非常勤教員の勤務総日数は、217H(日数では算出不可のため)。 ・Q32-Aについて、非常勤教員の勤務総日数は、154H(日数では算出不可のため)。 ・Q32-Aについて、該当欄がなかったため、こちらに記載(Q31-Aは実習施設数が4つに分類されているのに対し、Q31-Bでは3つしか分類されておらず、その他の欄がないため)。その他(産業保健看護学実習分):最低最高額1,500円/年間支払総額297,000円
37	Q31-C学生への補助金は、「後援会」からの学外実習補助金となります。
38	・保健師、養護教諭の定員数については、「制限なし」という回答もあるとよいかと思えます。
39	11月は看護系大学にとっては推薦入試の時期であり、官公省や出版社等からの調査も集中する時期でもあることから回答を作成する時間の捻出が難しく、その上本調査には学校基本調査、学校法人基礎調査等から根拠資料の流用ができず再度資料の洗い出しや集計を取り直さなくてはいけない項目があるので、それだけ労力をかける以上は設問のねらいの明確化や相応のフィードバックをして頂くか、精査の上調査項目を簡略化して頂きたい。 また、締切前に「提出がないので締切延長」という措置は如何なものかと思えます。
40	Q24については、発生の有無や内容については公表しないこととしている。
41	Q24について、発生の有無や内容については、公表しないこととしている。
42	Q18-B セミナーとしては1回のカウントですが、3回、それぞれ異なるテーマでご講演頂いたので、各回について記しています。 Q24-B・C 発生の有無や内容については公表しないこととしているため、空欄にしています。
43	本学大学院では、日本NP大学院協議会の教育課程認定を受けて、プライマリケア分野のNP養成を行っています。本調査の質問は、日本NP大学院協議会の10年以上の実績(400名を超えるNPを輩出していること)を無視しており、大変切ない思いがしました。
44	Q32-Cは実習先の固定額が決まっているため、交通費・宿泊費を分けて計算することは困難であり、固定額をその他に記載しました。 また、Q31-AとQ32-Aにおける非常勤教員の勤務総日数は、通常大学勤務日数と実習先への実習指導日数を分けて計算することが困難なため、2018年度の年間の勤務総日数を記載しています。
45	①本学大学院生修士課程の学生をTAとして採用しているが、授業担当科目のコマ数単位での採用としているため、Q34については当該項目の日給・時給のいずれにも該当しません。そのため、当該項目に内容が無い場合として、無記入で回答いたします。 ②本調査が何の役に立っているのかが分からない。回答内容は一部を除き、ホームページ等に公開しているものが多い。また、文部科学省に毎年回答する「指定学校概況」と重なっている点も散見されている。受験生が進学先を検討する等のデータベースになるならまだしも、協議会のホームページ刊行物に掲載されるだけでは、調査回答しても意味がなく利用価値は低い。業務の効率化を進めている中で、微細な設問が多いこのような調査に回答することは、大きな手間となっている。働き方改革関連法が2019年4月から順次施行されるにあたり、労働時間法制の見直しが迫られる中、慣例的に調査を継続する必要性を再考いただきたい。 なお、他学部の関係団体の例を言うと、日本私立薬科大学協会でも同様の調査依頼があるが、設問数は非常に少なく、他大学の回答も含めてすべて開示されており、調査結果に対する利用頻度は高い。依頼文に、次年度以降も毎年調査する旨記載があるが、調査項目の見直し(縮小)を要望する。
46	意見、要望について、特になし
47	Q24について、発生の有無や内容については公表しないこととしている。 調査項目が多く、期間内で回答するにはやや負担があると感じます。

Q36. 本調査に関するご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

Q36	
48	<p>&lt;Q23-B続き&gt;                      4大学:カナダ・スペイン・タイ・ベトナム                      3大学:インド・エチオピア・フランス                      2大学:イギリス・インドネシア・エジプト・オーストラリア・ケニア・シンガポール・チェコ・中国(香港)・ペルー・メキシコ・リトアニア                      1大学:アルゼンチン・アルメニア・イスラエル・イタリア・ウクライナ・ウズベキスタン・ガーナ・カンボジア・キューバ・キルギス・ザンビア共和国・スリランカ・タンザニア・中国(マカオ)・デンマーク・トルコ・ネパール・パプアニューギニア・パラグアイ・ブルガリア・ブルネイ・ベルギー・ポーランド・ボリビア・マケドニア・南アフリカ・ミャンマー・モロッコ・モンゴル・ラオス</p>
49	<p>今後の調査結果を教育だけでなく、地域医療の人材確保の観点から広く情報公開してもらいたいと考える。協議会や協会がこの結果を「政策」の一つの資料として位置付けているが、もっと社会全体に情報共有することで、地域の医療格差への解決に繋がればと考える。</p> <p>【補足】                      Q24-G:利益相反に関する金銭的情報についての該当有無に関わらず、報告させている。                      Q28-A:助産師専攻科・別科の欄に助産別科の納付金を記入。                      Q28-A:助産別科に進学する学内出身者に対して、入学金を免除している。</p>
50	<p>ぜひ、協力はしたいのですが、その点が難しく時期その他よろしくご配慮をお願い致します。</p>
51	<p>Q28の追加情報として、実験・実習費について、3・4年次は200,000円となります。</p>
52	<p>Q14の学部生(内、編入学生)の入学定員につきましては、別枠として定員を設定しているため、空欄にしております。                      Q29の奨学金についてはグループ医療法人の奨学金のため、未記入にしております。</p>
53	<p>・Q24 B及びCに関しましては非公表となっております。                      本学部は2017年度開設であり、調査対象年度は第2学年までの開講となるため、未開講である保健師・助産師養成課程、領域別実習、卒業生に係る質問に関しては「0」または「未記入」とさせていただきます。</p>
54	<p>提出が遅れましたこと、お詫び申し上げます。                      本学は、2018年度現在、完成年度を迎えておりませんので、実績がなく、お答えできないところが多数あります。                      誠に申し訳ありません。                      よろしくお願い致します。</p>
55	<p>2018年度は開設1年目であり、回答は1学年の実績を示した。</p>